平成21年度科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業

山形ワークライフバランス・イノベーション

第2部 平成22年度 男女共同参画に係るアンケート結果報告書

work life balance innovation

山形ワークライフバランス・イノベーション

第 2 部　平成 22 年度男女共同参画に係るアンケート結果報告書

目次

1、平成 22 年度男女共同参画に係るアンケート結果ダイジェスト…… 4
2、調査方法 …… 12

調査結果
3、回答者のプロフィール …… 19
4、ライフについて …… 27
5、ワークについて …… 44
6、ワークライフバランスについて …… 50
7、次世代研究者の育成 …… 58
8、取り組みの周知度 …… 64
9、自由記述の分析 …… 67

参考資料
資料 1　アンケート依頼文・調査票 …… 71
資料 2　基礎集計・クロス表（性別×各質問項目）・男女別平均値 …… 80
資料 3　先行調査 …… 104

10、おわりに…… 106

図表一覧

図 1　回答者の性別…… 19
図 2　回答者の所属部局…… 20
図 3　回答者の所属キャンパス…… 20
図 4　キャンパス別の男女数…… 20
図 5　回答者の職種…… 21
図 6　職種別の男女数…… 21
図 7　課程別の大学院生数…… 22
図 8　課程別の男女数…… 22
図 9　勤務形態…… 23
図 10　男女別の勤務形態 …… 24
図 11　回答者の世代分布 …… 24
図 12　男女別の世代分布 …… 25
図 13　男女別の世代分布（大学院生）…… 25
図 14　男女別の世代分布（大学教員）…… 25
図 15　男女別の世代分布（医療系）…… 26
図 16　男女別の世代分布（職員）…… 26
図 17　年齢の平均値（職種・性別）…… 26
図 18　配偶者・パートナーの有無 …… 27
図 19　世代別有配偶率（全回答者）…… 28
図 20　世代別有配偶率（職種別）…… 29
図 21　配偶者等との同別居（大学教員）…… 30
図 22　配偶者等との同別居（医療系と職員）… 30
図 23　配偶者等の就業形態 …… 32
図 24　配偶者等の就職状況（大学教員）…… 32

図 25　配偶者等の就職状況（医療系と職員）… 33
図 26　配偶者等の職種 …… 33
図 27　配偶者等の職種（大学教員）…… 34
図 28　配偶者等の職種（医療系と職員）…… 34
図 29　家事等の平均時間（平日・分）…… 35
図 30　常勤カップルの家事等の平均時間
（平日・分）…… 36
図 31　世代別の有子率 …… 37
図 32　子ども数の分布 …… 37
図 33　理想の子ども数（子どもを持つ人）… 37
図 34　年齢別子ども数 …… 38
図 35　理想の子ども数
（子どもを持たない人）…… 38
図 36　育児の担い手（昼間）…… 39
図 37　育児の担い手（残業）…… 39
図 38　子どもの病気で休んだ日数 …… 40
図 39　子どもの病気で休んだ日数（男性）… 40
図 40　子どもの病気で休んだ日数（女性）… 40
図 41　子ども病気の休日数は十分か …… 41
図 42　子どもの病気で休む必要日数 …… 41
図 43　子どもが病気の際に必要なサポート… 42
図 44　子育てと仕事の両立で
困難を感じること …… 43
図 45　仕事上のストレスの経験 …… 44
図 46　職種別・性別の仕事上の
ストレスの経験 …… 45
図 47　研究領域 …… 47
図 48　職階 …… 47
図 49　男女別の職階 …… 47
図 50　男女別の研究キャリア年数 …… 48
図 51　仕事・研究の障害となっている
要因・選択率 …… 50
図 52　仕事と生活の調和に対する意識 …… 53
図 53　仕事と生活の調和に対する意識
（職種・性別）…… 54
図 54　仕事と家庭を両立するために
必要な方策 …… 56
図 55　仕事と家庭を両立するために
必要な方策（職種・性別）…… 57
図 56　日本の大学で女性教員・研究者が
少ない理由 …… 58
図 57　日本の大学で女性教員・研究者が
少ない理由（職種・性別）…… 59・60
図 58　出身高校の所在地 …… 60
図 58　出身大学の所在地 …… 61
図 59　出身大学の設置者 …… 61
図 60　修士課程後の進学希望 …… 62
図 61　修士課程後の進学希望（部局別）…… 62
図 62　大学教員の出身大学院（博士課程）の
所在地（昨年度調査）…… 63
図 63　大学院修了後の希望職種 …… 63
図 64　法律や本学の取り組みの周知度 …… 64
図 65　法律や本学の取り組みの周知度
（職種・性別）…… 65・66
図 66　推進室の周知度
（キャンパス別・大学院生を除く）… 66

表 1　各部局別配布・回収数と回収率…… 15
表 2　第 1 ～ 3 回調査の調査対象者と回収率… 16
表 3　大学院生・職員別の回収率（概算）… 17
表 4　課程・所属学部別の大学院生数…… 23
表 5　年齢の平均値・中央値…… 26
表 6　職種別・性別の配偶者等の有無…… 28
表 7　性別と「f 疲労、睡眠不足、
ストレスなど」のクロス表 …… 43
表 8　仕事上のストレスの経年変化…… 46
表 9　昨年度の教育研究活動…… 49
表 10　仕事・研究の障害となっている要因
（選択が多い要因順）…… 52
表 11　仕事上と生活の調和に対する
意識の経年変化 …… 55

1、平成 22 年度男女共同参画に係るアンケート結果

ダイジェスト　2011 年（平成 23 年）3 月山形大学男女共同参画推進室

調査概要

調査名：　平成 22 年度「男女共同参画に係るアンケート調査」。
調査対象：　山形大学の全ての常勤教職員、定時・短時間勤務職員、
修士課程以上の大学院生　（3863 人配布、有効回答数 1862 人、回収率 48.2%）。
調査時期：　2010 年（平成 22 年）10 月～11 月。
配布と回収：　学内便で配布・回収。
調査内容：　仕事について、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について、
生活について、調査項目は Q1 から 25 まで。

まとめ

・教職員を取り巻くワークライフバランスの意識や状況は、徐々に、改善または変化しつつある。ただし、引き続き仕事が忙しく、ワークライフバランスに何らかの不満を感じている人が多い。

・一方、職種、性別、家族の状況等によって、課題は多様であるため、それらに対応したきめ細やかなシステム面の整備が必要である。システム面の整備と共に、職場の同僚や上司の意識改革・雰囲気の改革により解決できる面も多い。

・山形大学の大学院生で大学等の研究者を目指す人は多くない。そのため、今後本学で女性研究者を増加させるためには、他大学の大学院からの女性研究者の応募を増やし、採用した研究者の定着を図る必要がある。

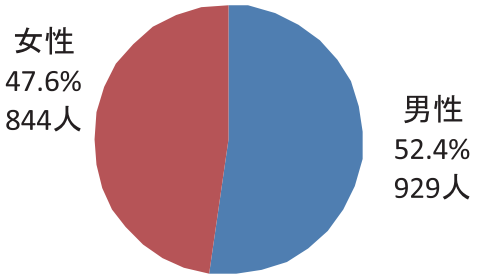
・男女共同参画推進室の取り組みは、大学内に着実に浸透してきている。ただし、職種によって周知度に差があり、ＰＲ不足を示す意見が見られるため、本アンケート結果の公表や支援プログラムの周知徹底を継続して行っていく必要がある。

回答者のプロフィール

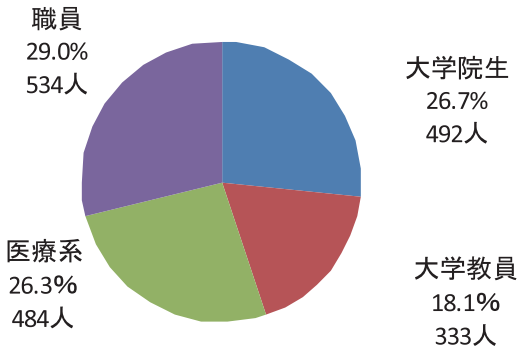
・回答者のうち、男女割合は、ほぼ半数である。
・大学院生・大学教員・医療系・職員の職種 4 分類では、ほぼ 4 分の 1 ずつである。
・所属キャンパスでは、飯田が半数近くであり、米沢、小白川、鶴岡、松波と続く。

・世代では、大学院生では若い世代の男性、医療系では若い世代の女性が多いため、全体としては比較的若い世代の回答者が多い。平均年齢は女性 35.4 歳、男性 35.5 歳である。職種別では、大学院生 23.4 歳、医療系 33.4 歳、職員 41.8 歳、大学教員 45.2 歳である。

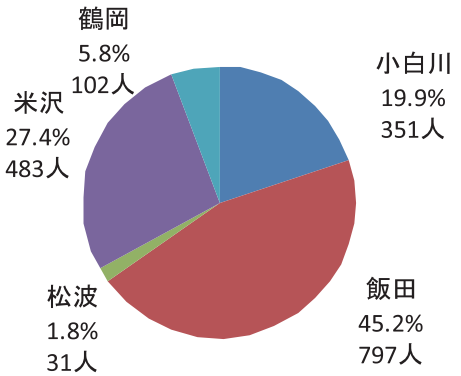
性別
（無回答89人）



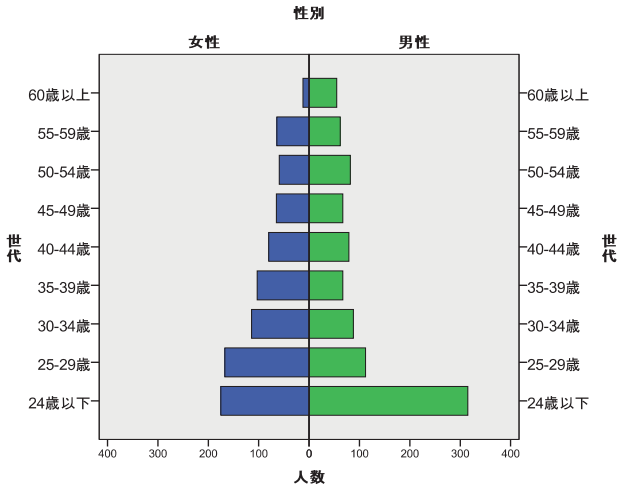
職種4分類



所属キャンパス



男女別の世代分布



ライフについて

・配偶者・パートナーがいる人といない人は、ほぼ半数である。

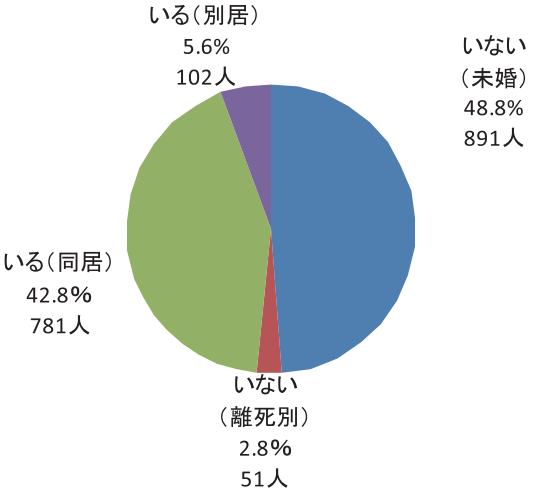
・子どもを持つ人は、質問に回答した 1798 人中 729 人で 40.5%であった。子ども 2 人という人が最も多く（51.7%374 人）、その後 1 人、3 人と続く。平均子ども数は 1.97 人。

・配偶者等との別居が、大学教員で他職種よりも多い（女性：24.1%、男性：17.0%）。また、大学教員では研究者カップルが多い（配偶者の職業が研究職：女性 38.5%）。

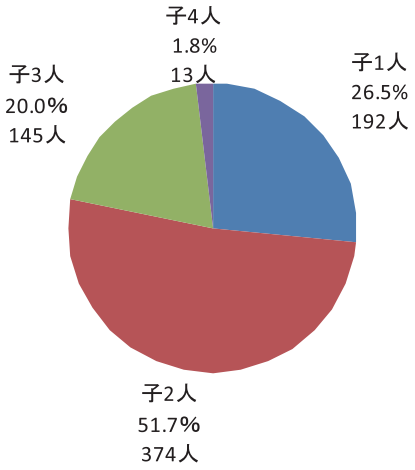
・家事・育児・介護は、女性が長時間担う傾向がある（常勤カップルでも同様）。育児の担い手は、女性では保育所・幼稚園・学童保育。それを祖父母が補完している。一方、男性では配偶者（妻）が主な育児の担い手である場合が大半を占める。

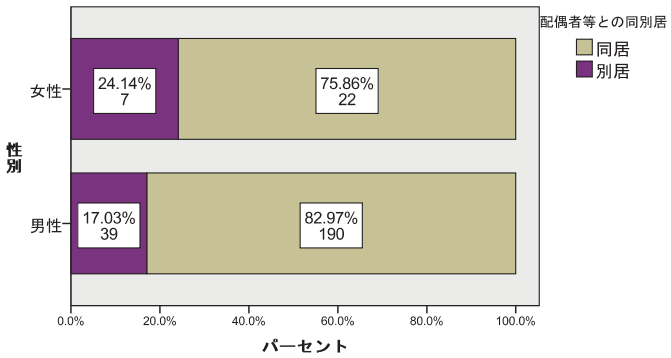
・子どもが病気の際に必要なサポートでは、病児・病後児保育や業務の代替者などシステム面での整備と共に、「育児を理由に休める職場の雰囲気」が必要と考えられている（44.8%）。

配偶者・パートナーの有無

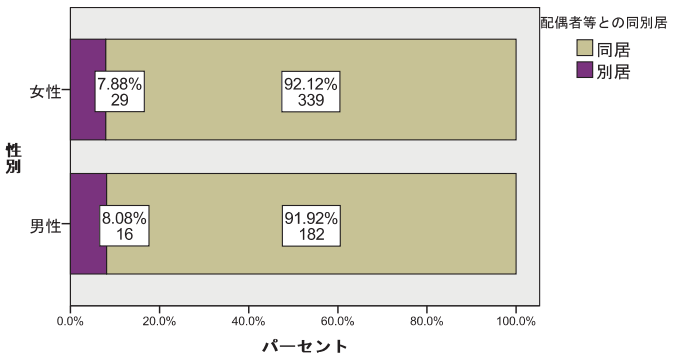


子ども数



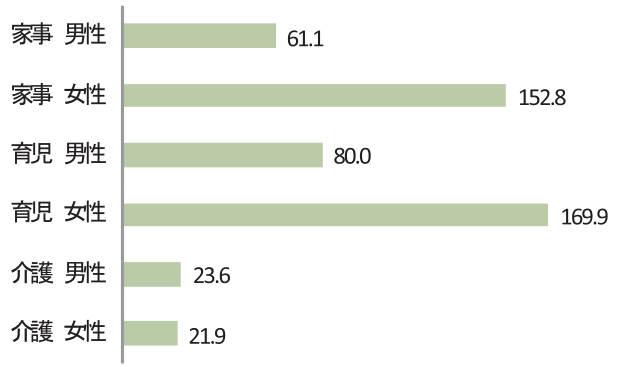


配偶者等との同別居（大学教員）

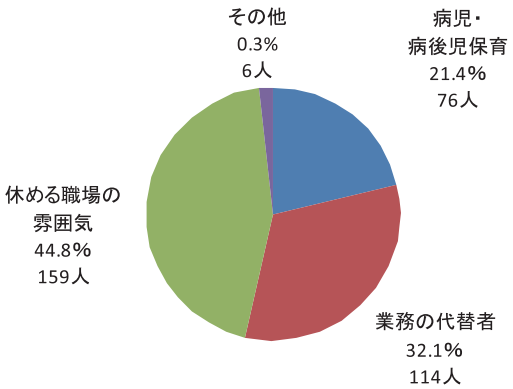


配偶者等との同別居（医療系と職員）

常勤カップル
家事等の平均時間（平日・分）



子どもが病気の時に必要なサポート



ワークについて

・大学教員の平均キャリア年数は、女性が 10.3 年、男性が 14.5 年、合計 13.9 年である。
・キャリア年数などを反映して、男性では教授・准教授など高い職位の人が過半数をしめ、女性では、講師・助教など低い職位の人が過半数を占めている。

・仕事上のストレスの経験：
「Ａ忙しすぎる」と感じる人が、全ての職種・性別で多い。また、「Ｂ出勤したくない」、「Ｃ今の仕事・就学を辞めたい」、「Ｄ会議等で発言しにくい」では、特に医療系の女性で感じる人が多い。「Ｅ性別によって異なる処遇がある」、「Ｆ職場・学校に何でも話せる人がいない」は、比較的感じる人が少ない。ただし、Ｅについては、大学教員の女性で、男性や他職種の人よりも感じる人が多い。

・仕事上のストレスの経年変化（事業実施前との比較）
多くの項目で、経験の割合が減少しており、職場環境が改善していることがわかる。特に、「Ｄ会議等で発言しにくい」の女性、「Ｅ性別によって異なる処遇がある」の男女、「Ｆ職場・学校に何でも話せる人がいない」の女性で大きな改善がみられ、本事業の効果が見られる。

仕事上のストレスの経年変化（事業実施前との比較）

		事業実施前 平成20年度調査	全回答者数	事業実施中 平成22年度調査	全回答者数	経年変化 注1
A 忙しすぎる	女性	**89.4%**	808	**85.2%**	842	改善
	男性	**85.2%**	815	**80.6%**	926	改善
B 出勤・通学したくない	女性	**72.2%**	805	**68.0%**	843	改善
	男性	**56.2%**	813	**53.0%**	926	改善
C 今の仕事・就学を辞めたい	女性	**58.8%**	805	**58.6%**	842	変化なし
	男性	**36.9%**	814	**32.3%**	926	改善
D 会議等で発言しにくい	女性	**63.7%**	791	**54.0%**	826	大きく改善
	男性	**46.2%**	811	**40.0%**	924	改善
E 性別によって異なる処遇がある	女性	**45.4%**	802	**35.5%**	832	大きく改善
	男性	**42.9%**	813	**30.2%**	927	大きく改善
F 職場・学校に何でも話せる人がいない	女性	**42.6%**	800	**33.8%**	842	大きく改善
	男性	**36.8%**	810	**30.8%**	925	改善

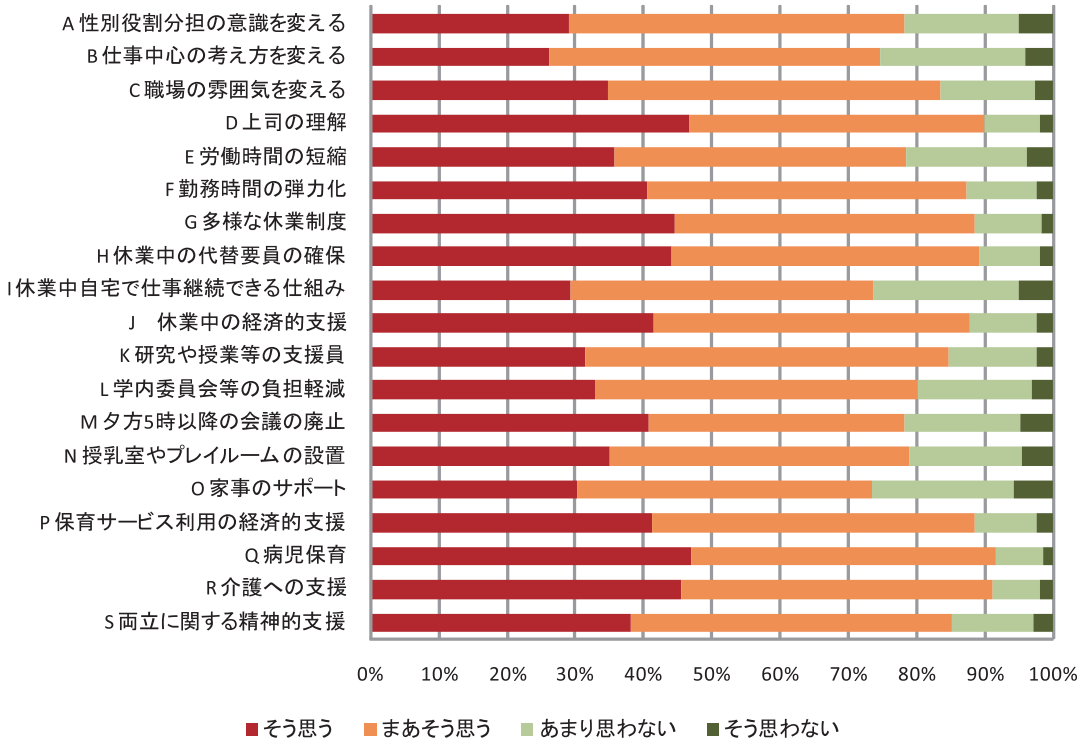
注1： 0から2ポイント未満：変化なし 2から8ポイント未満：改善または悪化 8ポイント以上：大きく改善または大きく悪化とした

ワークライフバランスについて

・仕事の阻害要因：「主となる業務と関係のない業務」や「研究・業務の時間が十分とれない」が上位。「女性（男性）であるための差別」や「家族の人間関係」は下位。職種によって、上位になる項目が異なる。また、女性では、家事等家庭面での項目が上位から中位になる一方、男性では、これらの項目は中位から下位となる。

・仕事と家庭を両立するための方策：全ての項目について要望が高い。また、どの項目も男性よりも女性の要望が強い。ただし、職種により要望が若干異なる。医療系の女性において「Ｅ労働時間の短縮」や「Ｍ夕方５時以降の会議の廃止」等に特に要望が強い。また、「Ｈ休業中の代替要員の確保」、「Ｉ休業中に自宅で仕事を継続できるしくみ」、「Ｋ研究や授業等の支援員の確保」については、女性の大学教員で要望が強い。

Q13 仕事と家庭を両立するために必要な方策



・仕事と生活の調和に対する意識：固定的な性別役割分業観を持つ人は多くなく、日本の大学全体、また本学でも女性の教員がもっと増えても良いと考える人が多い。

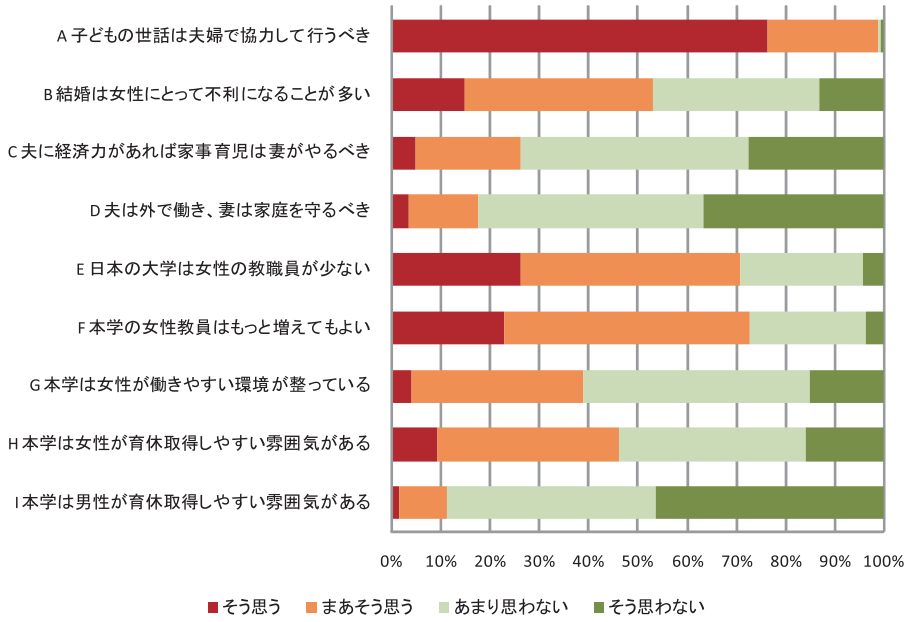
・一方で、本学で女性が働きやすい環境が整っている、女性が育休取得しやすい雰囲気があると感じる人は半数弱にとどまる。男性が育休取得しやすい雰囲気があるという人は、１割程度にすぎない。

・仕事と生活の調和に対する意識の経年変化（事業実施前との比較）

「Ｇ本学は女性が働きやすい環境が整っている」と「Ｈ本学は女性が育児休業を取得しやすい雰囲気がある」に、そう思う・まあそう思う、と答えた人が男女ともに増加。徐々に、女性が働きやすい環境や雰囲気ができつつある。

「Ｅ日本の大学は女性教員が少ない」と「Ｆ本学の女性教員はもっと増えてもよい」が女性では増加。女性の意識に変化があったことが分かる。ただし、男性では、Ｅ・Ｆでは事業実施前から数値が高いこともあり、大きな変化はみられない、または減少している。

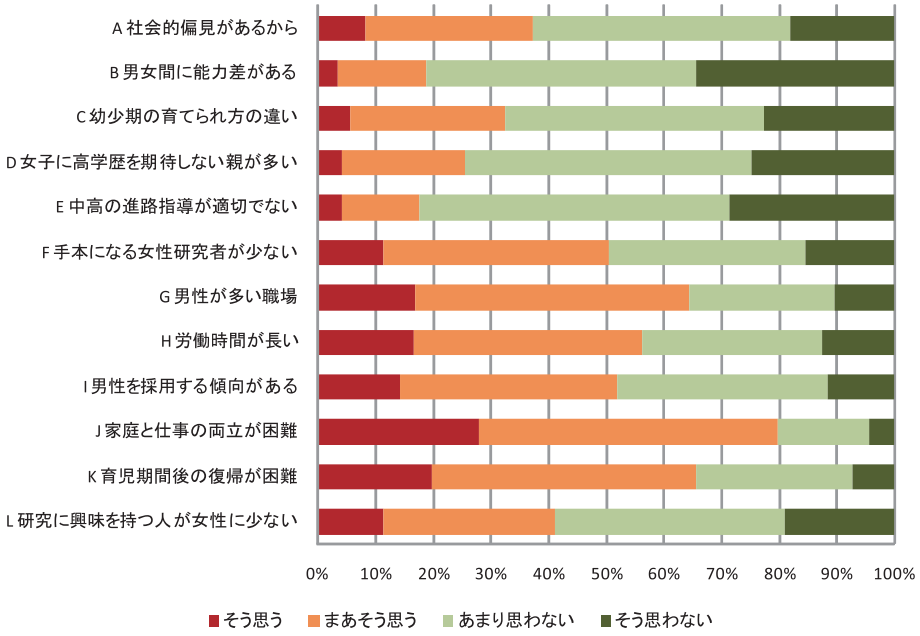
Q11 仕事と生活の調和に対する意識



次世代研究者の育成

・女性研究者が少ない理由：
「Ｊ家庭と仕事の両立が困難だから」、「Ｋ育児期間後の復帰が困難だから」など職場環境の要因を考える人が多い。一方、社会・文化・教育などの要因、生物学的な男女差を理由として考える人は、職場環境の要因を考える人より少ない。

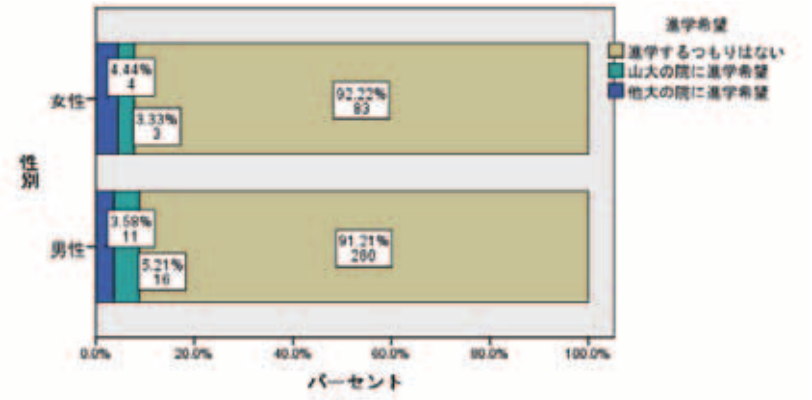
Q12 日本の大学で女性教員・研究者が少ない理由



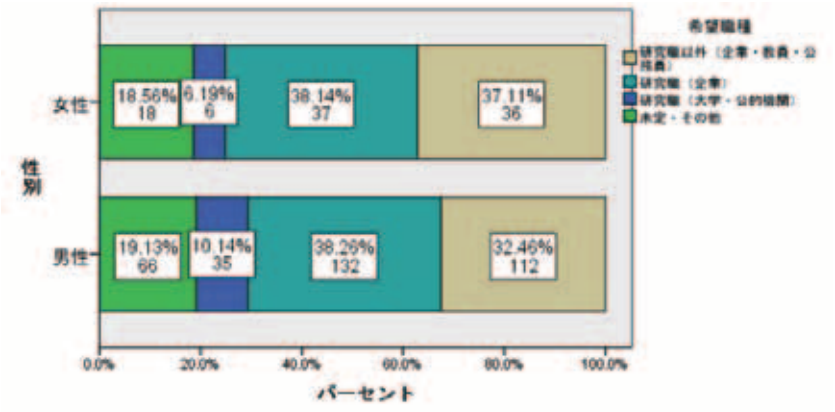
・大学院生の出身地・出身大学：県内出身者が男女とも 4 分の 1 程度。出身大学・大学院は、大半が内部進学者であると推測される。

・修士課程後の進学希望（修士課程の学生）：博士課程への進学は希望していない人が 9 割以上である。その傾向に男女差は見られない。医・人文学部では、進学希望者がやや多いが、その他の地教・理・工・農学部では、9 割程度の院生は進学希望をしていない。

・大学院修了後の希望職種：企業等の研究職が男女とも 38%程度と最も多い。次に、研究職以外が続く。研究職（大学・公的機関）になることを希望している人は、男女ともに少数である（女性 6.2%、男性 10.1%）。



修士課程後の進学希望



大学院修了後の希望職種

取り組みの周知度

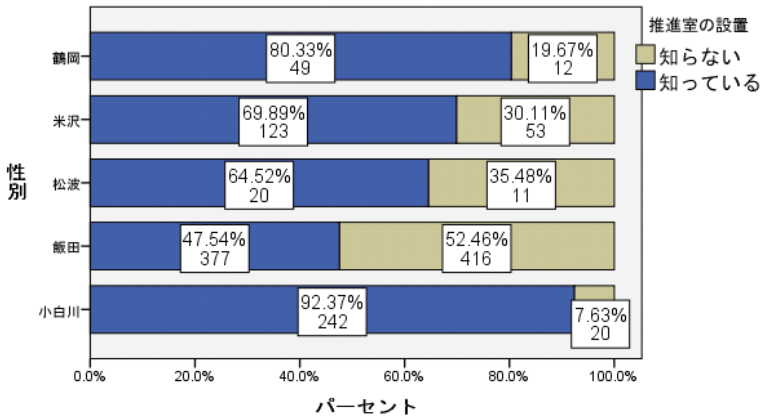
・法律や本学の取り組みの周知度：

「男女共同参画社会という言葉」(90.4%、ミッションステートメント60%以上の達成）や、「男女共同参画社会基本法」など法律や国の取り組みについての周知度が高い。

山形大学の取り組みでは、「学長による山形大学男女共同参画推進宣言」等の早い時期に取り組まれたものについて、周知度が高い。一方で、特定の職種やキャンパスが対象の事業では該当する職種やキャンパス以外では周知度は高くない。

・キャンパス別の周知度：

推進室の周知度は、昨年に引き続き小白川と鶴岡キャンパスで高い。一方で、米沢キャンパス、松波キャンパスでも周知度が上がり、男女共同参画推進室の事業が浸透していることが分かる。



推進室の周知度（キャンパス別・大学院生を除く）

自由記述の分析

・男女共同参画の推進についての自由記述では、大きく分けて以下の３点があげられている。

①職場環境の改善に関する意見

②男女共同参画推進全般に関する意見

③本学男女共同参画推進室の活動に関する意見

最も意見の多かった①職場環境では、勤務時間と人員不足、休暇についての記述が見られ、職場環境の改善を求める声が高い。②男女共同推進全般では、山形大学においても男女共同参画の推進を望む意見の一方、男女共同参画推進への慎重な意見もある。③男女共同参画推進室の活動については、室の活動への理解を示す意見の一方、ＰＲ不足を示す意見が見られる。

2、調査方法

山形大学男女共同参画推進室では、過去2年度に引き続き、2010年10月から11月に山形大学の教職員（常勤教職員と定時・短時間勤務職員）、大学院生（修士課程・博士課程）の全員に対して、男女共同参画に係るアンケート調査を行った。配布数は3863人分であり、有効回答数は1862人分、回収率48.2%であった。質問項目は、大きく分けて、Ⅰ.仕事や就学について、Ⅱ.仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について、Ⅲ.生活について、であり、Q1～Q25まで25項目である。

調査スケジュール

a） 調査準備　2009年7月から10月中旬

7月　アンケート実施方法と調査票の検討開始。
他大学・研究機関の男女共同参画、女性研究者支援関連のアンケート調査の調査票と報告書の収集。男女共同参画推進室で調査票の検討開始。
7月28日　男女共同参画推進委員会にて、アンケートの実施方法と調査票について周知。
8月　アンケート調査表の検討。
9月9日～16日　男女共同参画推進委員会委員、男女共同参画推進室員で調査票について検討。
9月15日　データ入力について入力業者と打合せ。
9月24日　調査票の印刷について印刷業者と打合せ。
9月30日　調査票の印刷開始。
10月12日　アンケート調査対象の教職員数の把握（10月1日現在の数値、総務部人事ユニット）。
10月15日　各部局長へ「男女共同参画に係るアンケートのお願い（通知）」送付。
10月19日　印刷業者から調査票納入。
調査票の配布（各学部、附属学校園へは印刷業者から各部局総務へ送付。小白川事務部、事務局等へは男女共同参画推進室から送付）。

b） 調査実施　2009年10月中旬から11月上旬

10月20日～22日　各部局で調査票を調査対象者へ配布。
11月5日　各部局での調査票提出期限。
11月10日　各部局から男女共同参画推進室への調査票送付期限。

c） データ入力・分析・報告書作成　2009年11月中旬から2010年3月

11月11日～12月1日　データ入力。
12月1日～15日　データクリーニング、単純集計。
12月～1月　調査結果分析。
2月～3月　報告書作成、印刷、配布。

先行調査の検討（資料 3）

2009 年と 2010 年夏に、女性研究者支援モデル育成採択機関の男女共同参画、女性研究者支援関連のアンケート調査の情報を各機関のホームページや、直接各大学に問い合わせるなどして収集した。収集した資料は、巻末の資料 3 にまとめている。

調査票の作成（資料 1）

本推進室では、一昨年度の 2008 年 12 月に教職員と大学院生を対象にアンケート調査（山形大学男女共同参画推進準備室　2009）、昨年度の 2009 年 11 月に教職員を対象にアンケート調査（山形大学男女共同参画推進室　2010）を行っている。今年度は 3 回目として、これまで 2 回との経年変化をとらえることを中心に調査表を設計した。そのため、質問項目の大部分は過去 2 年度と共通している。一部、過去 2 年度の調査協力者からの意見を反映して、回答しやすいよう質問の順番やサブ・クエスチョンの構成等を変更した。

また、昨年度との大きな変更点として、後述するが、調査対象者の変更に伴う質問項目の変化がある。昨年度と違い、今年度は大学院生（修士課程・博士課程）を調査対象者に含めることとしたため、大学院生に対して、出身の高校・大学学部・修士課程、修士課程修了後の進学希望、大学院修了後の進路について尋ねている（Q8 から Q10）。

これらの点を中心に、男女共同参画推進室で調査票の検討を行い、その後、各部局の男女共同参画推進委員会委員にメールにて調査票の検討を依頼した。そこでの修正を経て、男女共同参画推進室にて調査方法と調査票の内容を最終決定した。

調査票はＡ４両面印刷で 8 ページあり、冒頭にアンケートのお願い文、以下質問項目が続く。調査票には、のり付きの封筒を添付し、記入後は封筒に入れ、各部局の回収ポスト等に入れてもらうようにした。また、調査票の印刷は、過去 2 年度調査と同じ印刷会社に引き続き依頼した。回答の多くは数字に〇をつける方法であり、自由記述は多くないものの、質問数が多く、回答者の負担は少なくないと思われる。調査に協力していただいた方々に感謝したい。

質問項目は Q1～Q25 まであり、いくつかの質問にサブ・クエスチョンがある。質問の内容は以下の通りである。大きく分けてⅠでは仕事や就学について、Ⅱでは仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について、Ⅲでは回答者の基本属性や生活について質問している。詳しくは巻末の資料 1 を参照願いたい。

Ⅰ.仕事や就学について

Q1～Q3　所属キャンパス・部局・職種・勤務形態など仕事・就学の基本属性ほか

Q4～Q7　大学教員の研究・教育・業務の実態

Q8～Q10　大学院生の学歴・進学・希望職種

Ⅱ.仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

Q11～Q16　ワーク・ライフ・バランスに関する意識、仕事の障害となる要因、
本学の取り組みの周知度、仕事上のストレスほか

Ⅲ. 基本属性や生活について

Q17～Q20　年齢・性別・家族構成の基本属性ほか、家事等の時間等

Q21～Q24　育児の状況について（中学生以下の子を持つ対象者のみ）

Q25　　自由記述

調査対象者

調査対象者は山形大学の全ての教職員（常勤教職員と定時・短時間勤務職員）、大学院生（修士課程・博士前期課程・博士課程・博士後期課程）である。過去 2 年度と同様に、母集団からサンプルを抽出する方法ではなく、教職員と大学院生全員に調査協力を依頼した。

教職員については、医学部では医員及び研修医、また、他学部では附属支援施設等の教職員を含んでいる。大学院生については、具体的には、社会文化システム研究科（修士課程）、教育学研究科の修士課程・地域教育文化研究科の修士課程、医学系研究科の修士課程・博士課程・博士前期課程・博士後期課程、理工学研究科（理学系）の博士前期課程・博士後期課程、理工学研究科（工学系）の博士前期課程・博士後期課程、農学研究科の修士課程・岩手大学大学院連合農学研究科の博士課程（山形大学の教員を指導教員にする学生）を対象者とした。

ただし、専門職学位課程である教育実践研究科（2010 年 5 月 1 日現在の在籍 42 名）、また別科である養護教諭特別別科（2010 年 5 月 1 日現在の在籍 42 名）は対象者に含めなかった。

調査表の配布と回収の方法

過去 2 年度の調査と同様に、各部局の総務（次ページ表 1 中の「送付回収依頼先」）にアンケートの配布と回収を依頼した。アンケートが調査対象者の手元に届いてから 2 週間を各部局の締め切りとし、その後、各部局から男女共同参画推進室へと調査票を郵送してもらった。また、本部事務局の職員へは男女共同参画推進室が配布と回収を行った。

各部局別配布・回収数と回収率

調査対象者の人数把握のために、総務部人事ユニットに依頼し、後期の教職員在籍者が確定する 10 月 1 日現在の各部局の教職員の在籍者数をカウントした。その数が、表 1 の「教職員数」であり、全学合計 2580 人の教職員がいることがわかった。大学院生については、前期と後期で大幅に学生数が変わることはないため、5 月 1 日現在の学校基本調査から、各部局の大学院生の在籍者数をカウントした。その数が、「大学院生数」であり、合計 1315 人の調査対象となる大学院生がいることがわかった。

その後、教職員と大学院生を合計した「在籍者合計数」よりも若干多い部数の調査票を各部局の総務に送付し、全ての調査対象者への配布を依頼した。その際、調査表を配布できなかった部数を除いた実際に配布できた調査表数が、「実際の配布数」である。各部局での配布期間は、10 月 20 日～22 日なので、10 月 1 日以後に新たに雇用、逆に退職・休職した者がいると推測される。また、大学院生は前期から多少の人数の変動があると推測される。その結果、最終的に全学で 3863 人に調査票を配布できた。

「有効回答数」は、各部局から男女共同参画推進室へ送付された回収数のうち白票等 2 部を除いた数であり、全学で 1862 部であった。

「回収率」は有効回答数÷実際の配布数とし、全学では 48.2%となった。

表 1　各部局別配布・回収数と回収率

部　局	送付回収依頼先	教職員数（注 1）	大学院生数（注 2）	在籍者合計数	実際の配布数（注 3）	有効回答数（注 4）	回収率
人文学部	事務ユニット総務チーム	104	29	133	133	46	34.6%
地域教育文化学部	事務ユニット総務チーム	112	41	153	147	52	35.4%
理学部	事務ユニット総務チーム	98	148	246	240	111	46.3%
医学部附属病院	総務ユニット労務チーム	1383	189	1572	1590	820	51.6%
工学部	事務ユニット企画総務チーム	404	781	1185	1186	519	43.8%
農学部	事務ユニット学部チーム（総務担当）	121	127	248	236	106	44.9%
小白川事務部（基盤教育院等を含む）	総括ユニット総括・地域連携チーム（総括担当）	110	該当無	110	107	49	45.8%
附属学校園	附属学校事務ユニット	109	該当無	109	108	50	46.3%
事務局（各室等を含む）	男女共同参画推進室	139	該当無	139	116	109	94.0%
合　計		2580	1315	3895	3863	1862	48.2%

注 1：平成 22 年 10 月 1 日現在の在籍者数

注 2：平成 22 年 5 月 1 日現在の在籍者数

注 3：各部局に配布した調査表のうち、調査対象者の手元に届かなかった余りを除いた数

注 4：回収した調査表のうち白票などを除いた数

過去 2 年度調査との回収率の比較

過去 2 年度の調査と本年度の調査の調査対象者と回収率をまとめたのが、次の表 2 である。一昨年の第 1 回調査では、本年度の調査と同様に全職員と全大学院生へ調査表を配布し、回収率は 45.6%であった。職員のみを対象とした昨年の第 2 回調査では、回収率が 53.8%と大幅に上がっているが、これは回収率の低い大学院生が対象者に含まれていなかったためと推測できる。本年度も、第 1 回調査と同様の調査対象者・調査方法のため、第 1 回調査と同程度か、若干低い回収率を予想していたが、結果として第 1 回よりも少し高い回収率（48.2%）を得ることができた。

表 2　第 1〜3 回調査の調査対象者と回収率

	実施年度	対象者	配布数	有効回答数	回収率
第 1 回調査	2008 年度	大学院生・職員	3643	1661	45.6%
第 2 回調査	2009 年度	職員	2472	1329	53.8%
第 3 回調査	2010 年度（本年度）	大学院生・職員	3863	1862	48.2%

部局別の回収率を昨年度の第 2 回調査の部局別回収率と比較すると、今回は上がった部局が多い。上がった部局は人文学部（30.4%→34.6%）、地域教育文化学部（29.6%→35.4%）、工学部（39.3%→43.8%）、農学部（35.0%→44.9%）、事務局（68.6%→94.0%）となっている。あまり変化がない部局では、理学部（46.9%→46.3%）、附属学校園（小中高 42.9%・特別支援学校 70.4%→46.3%）となっている。若干下がった部局は医学部（63.4%→51.6%）である。

大学院生・職種別の回収率（概算）

大学院生を対象者に含めた第 1 回、第 3 回の調査は、職員のみの第 2 回調査より回収率が低いことから、大学院生は職員よりも回収率が低いと推測される。そこで、今回の調査で学生と職員別に回収率を計算したのが、以下の表 3 である。在籍者数のうち配布できなかった人が若干いて、また Q3（1）に対して無回答、不正回答の人が 19 名いるため、あくまで概算であるが参考として載せておく。

有効回答数の欄の大学院生とは、Q3（1）で大学院生（修士または博士前期課程）、大学院生（博士または博士後期課程）、上記以外の学生と答えた人の合計である。また、職員の欄は Q3（1）で、大学教員〜その他と答えた人の合計である。

その結果、大学院生の回収率（37.4%）よりも、やはりそれ以外の職員の回収率（52.4%）が高い。

これは、昨年度でも同様の傾向が見られた。そのため、昨年度、今年度とも、看護職などが多い医学部、附属病院と、事務職員の多い事務局の回収率が他部局に比べて高くなっていると考えられる。

大学院生の回収率が、職員よりも低い理由としては、以下の 2 つが考えられる。まず、配布・回収の問題がある。職員には業務時間中に調査表を配布・回収しやすいが、大学に来る日数時間が不定期な大学院生には、調査表が遅れて届く傾向があり、回答する実質的な期間が短い可能性がある。次に、調査表の問題として、今回の調査表は、進路に関する Q8〜10 等を除き、現在の仕事や子育てに関するものが多い。そのため大学院生にとって、想像しにくく、自分に関係が薄いという印象を与え、回収率が下がっている可能性がある。

表 3　大学院生・職員別の回収率（概算）

	在籍者数	有効回答数（注 1）	回収率
大学院生	1315	492	37.4%
職員	2580	1351	52.4%

注 1：有効回答数は Q3(1)に回答があった人のみ

データ入力・データセットの作成

回収した調査票のデータ入力に関しては、過去 2 年度の調査のデータ入力を行った業者に依頼した。データを入力後、エクセルファイルを男女共同参画推進室へ納入してもらい、その後、入力データのチェック、自由記述をカテゴリーに直す作業、データを分析できるよう整える作業等は、男女共同参画推進室の調査担当者が行った。

データ入力の際の細かい点に関しては、適宜対応したが、主な原則として以下のように対応した。

・空欄等の欠損値の処理

無回答（答えるべき質問に答えておらず空欄）777

不正回答（文字が読めない等）888

非該当（答えるべきでない質問に答えておらず空欄）999

・アフターコーディング

Q3、Q5、Q10 等のその他で具体例を記入している場合は、別のカテゴリーに入れられるものは、カテゴリーに直して入力し、直せないものは「その他」というカテゴリーにまとめた。

・Q7　教育研究活動

週や月で回答するところを、違う単位で回答している場合、週や月に換算して入力した。1 週が 7 日を超えるなど、論理的におかしい値は、不正回答として欠損値扱いにした。その以外の大きすぎる値などの外れ値は分析によって外れ値を決め、除外した。

・Q11 から Q13 の 4 件法の入力について

数字の間に〇をつけている場合は、〇が近い数字を入力した。数字のちょうど中間に〇を付けている場合は、中心に近い数字を入力した（1 と 2 のちょうど中間の場合は 2 を、3 と 4 の間の場合は 3 を入力等）。2 と 3 の間の場合は、不正回答とした。また、1 より左の場合は 1 を、4 より右の場合は 4 を入力した。2 つ以上の数字に〇をつけている場合、不正回答とした。

・Q14　仕事・研究の障害となっている要因について

3 つまで選択の問いに対して 4 つ以上答えている回答が少数あったが、不正回答とした。

・Q19　家事・育児・介護の時間等

時間は分に変換して入力した。24 時間を超えているなど論理的におかしい値は欠損値とした。その以外の外れ値は分析の際に外れ値をきめ、除外した。

・Q20　理想の子供数について

「2～3 人」と書いている場合は平均をとって 2.5 人とした。

・その他のデータクリーニングについて

子どもがいないのに子ども数を回答している等、回答間に矛盾している回答については、適宜データを詳細に見て、矛盾点を修正した。判断がつかない場合は欠損値として扱った。

データ入力後、回収した調査票は全てシュレッダー処分を行い、データセットは男女共同参画推進室のパソコンのみで厳重に管理し、安全性の確保に努めた。

調査結果の分析・報告書の構成

調査結果の分析は男女共同参画推進室で行った。データは、統計解析ソフト　PASW　Statistics 18(IBM SPSS Statistics 18)を主に使用し、分析を行った。また、図表等については EXCEL と PASW（SPSS）で作成した。

まず、各問に対しての基礎集計と、性別と各問のクロス表を作成し、巻末にまとめた（資料 2)。その後、各質問項目別に分析を行った。

本報告書では以下、回答者のプロフィールについて概観した後に、質問項目の内容別に、ライフについて、ワークについて、ワークライフバランスについて、次世代研究者の育成、取り組みの周知度、自由記述の分析という順で調査結果をまとめていく。スペースの都合上、主な調査結果についてのみ図や表を載せていくので参考にしてほしい。

また、分析結果の提示方法として、今回の調査は全数調査であり、母集団から等確率でサンプルを抽出し、母集団に対して統計的な推定や検定を行うという標本調査ではない。そのため、今回の調査結果を、山形大学の全ての教職員と大学院生という母集団に対してもいえるかという推定や検定は基本的には行わない。ただし、巻末の資料 2 や分析結果によっては、図表の下に参考として検定等の結果を記す場合があるので、必要があれば参考としてほしい。

3、回答者のプロフィール

ここでは、以下の章の分析結果を見る前に、今回の回答者がどのようなプロフィールを持つ人たちであるか知るため、性別、職種、年齢等の基本属性についてまとめている。

性別

Q17 では回答者の性別を聞いている。その結果、図 1 のように男性が 52.4%（929 人）、女性が 47.6%（844 人）とほぼ半数ずつという結果になった。昨年度調査では、女性が 57.4%（710 人）、男性が 42.6%（527 人）と女性が多かったが、今回の調査では、大学院生に男性が多いため、若干男性が多くなったのだろう。性別に関して無回答の人も多く、89 人いた。

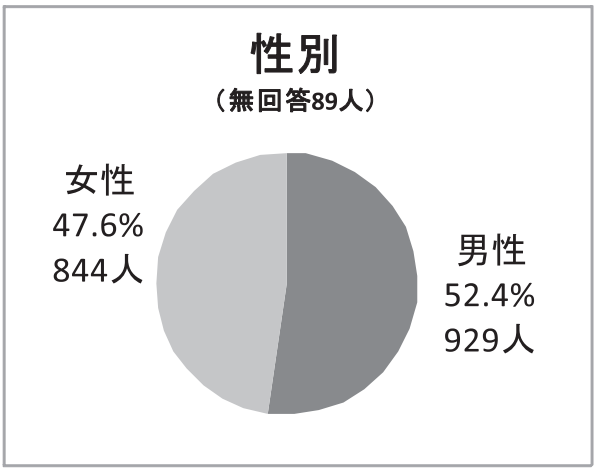


図 1　回答者の性別

所属キャンパス・所属部局

Q1～2 では所属部局と所属キャンパスを聞いているが、その結果をまとめたものが次の図 2・図 3 である。その結果、医学部・附属病院（Q2 の 4）が最も多く、44.2%（779 人）と半数近くを占めている。次に工学部 26.8%（472 人）、事務局等（Q2 の 9 事務局・小白川事務部等と 7 基盤教育院）が 8.0%（141 人）となっている。医学部・附属病院には、職員の在籍人数が多く、回収率も他の部局よりも高いため、工学部は大学院生の在籍者が多いため、事務局等は回収率が高いため、これらの部局からの回答者数が多かったと考えられる。

山形大学は、山形市 3 つ、米沢市 1 つ、鶴岡市 1 つにキャンパスが分散している。山形市にある 3 つのキャンパスのうち小白川キャンパスには人文学部、地域教育文化学部、理学部、また事務局等がある。また飯田キャンパスには医学部、附属病院、附属特別支援学校等がある。松波キャンパスには附属幼稚園、小学校、中学校がある。米沢市の米沢キャンパスには、工学部等がある。鶴岡市の鶴岡キャンパスには農学部等がある。

キャンパス別の回答者の分布では、医学部、附属病院がある飯田キャンパスが 45.2%（797 人）となっており、米沢キャンパスが 27.4%（483 人）、小白川キャンパスが 19.9%（351 人）、鶴岡キャンパスが 5.8%（102 人）、松波キャンパスが 1.8%（31 人）と続く。

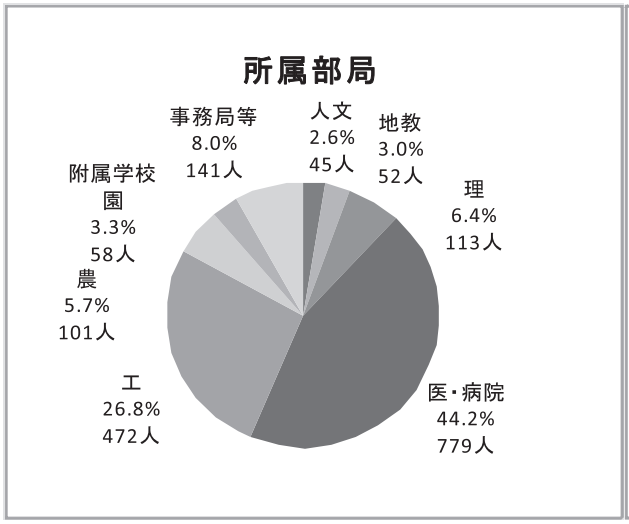


図 2　回答者の所属部局

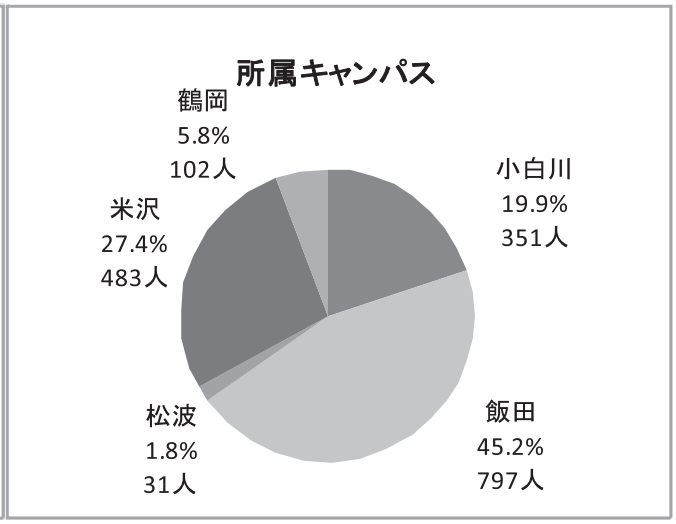


図 3　回答者の所属キャンパス

回答者全体では、男女の割合は半々であったが、キャンパス別に男女の割合を示したのが図 4 である（性別無回答の人は除く）。飯田キャンパスでは 68.1%と女性が 7 割近くを占める。松波キャンパス（51.6%）、小白川キャンパス（41.6%）ではほぼ半数である。一方、農学部のある鶴岡キャンパスでは 29.4%、工学部のある米沢キャンパスでは、21.7%と女性の回答者が少なく、キャンパスによってばらつきがある。

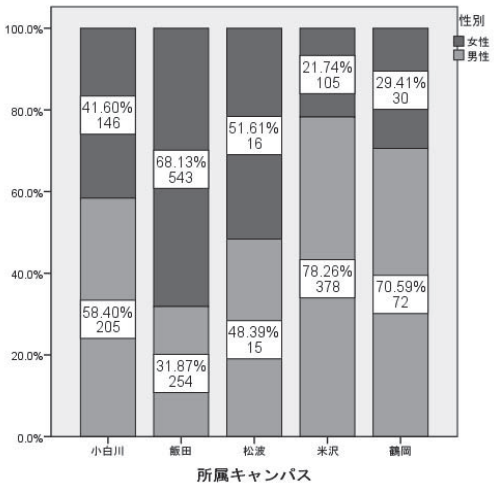


図 4　キャンパス別の男女数

職種 4 分類

Q3（1）では、大学院生に対して修士課程か博士課程か、教職員に対しては職種を、計 12 分類で聞いている。12 種類ではカテゴリーが多く分析や結果の提示が複雑になるので、「大学院生」、「大学教員」、「医療系」、「職員」の 4 分類にまとめた。

「大学院生」は Q3（1）で 1～3 と答えた修士課程及び博士課程の大学院生である。「大学教員」は大学教員と研究員をあわせたカテゴリーである。「医療系」は医療職員、医員・研修医をまとめたカテゴリ

ーである。また、「職員」は上記に含めなかった全ての職種をまとめたものである。具体的には事務系職員、教室系技術職員・教務職員、技能系職員、附属学校園教員、その他の人を「職員」としている。

以下の分析で単に職種という際には、12 分類ではなく、この 4 分類の職種を指すこととする。

その 4 分類の分布をまとめたのが図 5 である。この 4 分類の回答者はほぼ同じ割合であり、「職員」が 29.0%（534 人）、「大学院生」が 26.7%（492 人）、「医療系」が 26.3%（484 人）、「大学教員」が 18.1%（333 人）となっている。

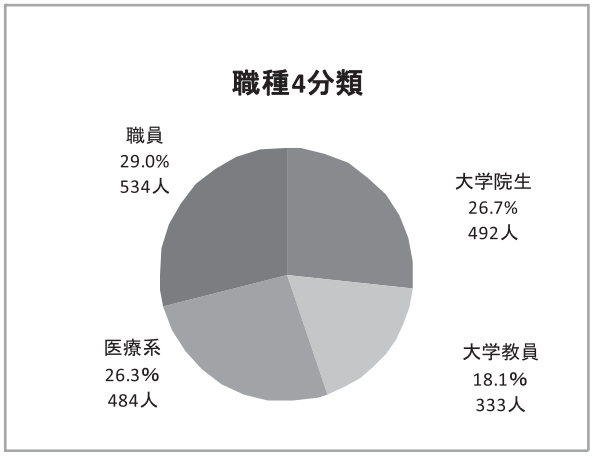


図 5　回答者の職種

次に、この 4 つの職種別に男女の割合を示した（性別無回答は除く）のが、図 6 である。大学院生と大学教員では男性が多く、医療系と職員では女性が多い。女性の割合は、大学院生では 22.2%（104人）、大学教員では 16.2%（51 人）であるが、医療系では、82.4%（384 人）、職員では、58.1%（297人）と半数以上を女性が占めている。

参考として、平成 22 年 12 月 1 日現在に在籍する山形大学の大学教員数は 846 人であり、女性は 112 人で 13.2%である。アンケートに回答してくれた大学教員では、女性が 16.2%を占めるため、昨年度も同様の傾向がみられたが、女性教員の方が男性教員よりも調査に協力的であったと考えられる。

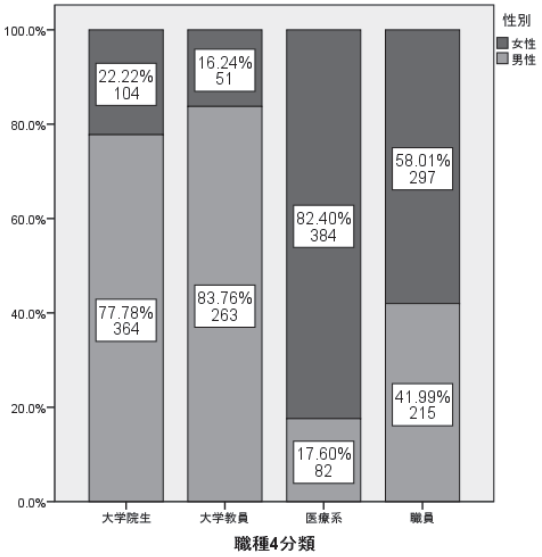


図 6　職種別の男女数

大学院生

職種 4 分類では、「大学院生」が 4 分の 1 強を占めていたが、修士、博士という課程別にみるとどうだろうか。課程別に人数をまとめたのが図 7 である。その結果、修士課程（修士または博士前期課程）が大半の 87.2%（429 人）を占め、博士課程（博士または博士後期課程）とその他の学生の合計は、1 割強を占めるに過ぎない。そのため、今回のアンケートの分析で大学院生という場合は、多くは修士課程の大学院生の実態や意見を反映している点を留意願いたい。

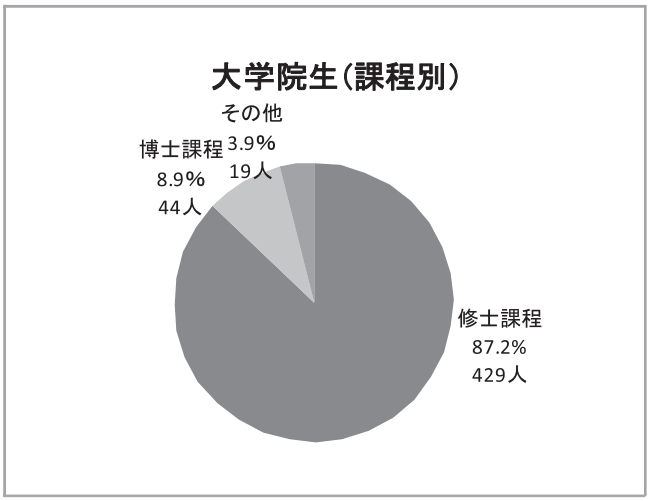


図 7　課程別の大学院生数

さらに、大学院生の課程別の男女の割合を示したのが図 8 であるが、修士課程、博士課程どちらにおいても、男性が 8 割弱を占めている。修士課程では 77.8%（318 人）、博士課程でも 78.1%（32 人）と男性が大半を占め、女性は 2 割程度となっている。

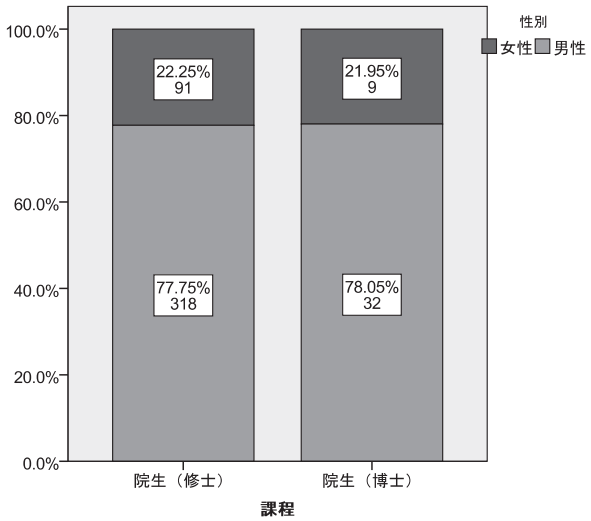


図 8　課程別の男女数

また、大学院生を所属学部別に見ると、下の表 4 のように、修士課程（博士前期課程）では、工学部

の大学院生が、博士課程（博士後期課程）においては工学部のほか、理・医・農学部のいわゆる理系の大学院生が大半を占めている。具体的には、修士課程では、特に工学部の回答が68.6%（293人）を占めている。一方、博士課程では、工学部が40.5%（17人）、理学部が23.8%（10人）、医・附属病院、農学部と続く。山形大学では人文学部と地域教育文化学部には、修士課程までしかないため、これらの学部では、博士課程の回答者はゼロとなっている。

表 4　課程・所属学部別の大学院生数

課程	所属学部						合計
	人文	地域教育文化	理	医・附属病院	工	農	
修士課程	12	14	63	10	293	35	427
	2.8%	3.3%	14.8%	2.3%	68.6%	8.2%	100%
博士課程	0	0	10	8	17	7	42
	0.0%	0.0%	23.8%	19.0%	40.5%	16.7%	100%
合計	12	14	73	18	310	42	469
	2.6%	3.0%	15.6%	3.8%	66.1%	9.0%	100%

教職員の勤務形態

Q3（2）では、教職員について、常勤か、定時勤務か、短時間勤務かなど勤務形態について聞いている。その結果（図 9）、全体の約 4 分の 3、75.4%（951 人）が常勤職員となっている。一方、常勤職員以外の定時勤務職員、短時間勤務職員、その他を合わせると、約 4 分の 1 の 24.6%（310 人）となっている。

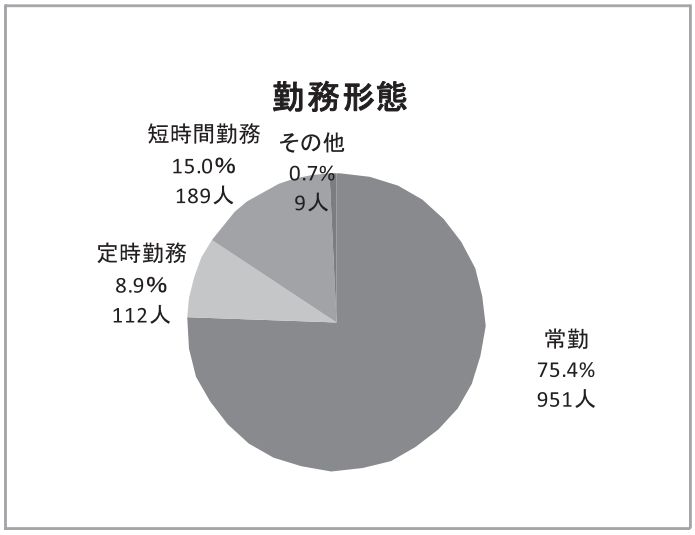


図 9　勤務形態

さらに、男女別に勤務形態の分布をまとめた図 10（勤務形態その他は 9 人のため除く）によると、女性では、短時間勤務職員が 24.2%（170 人）、定時勤務職員が 10.5%（74 人）と、常勤以外の人が合わせて 3 割以上いる。一方、男性の短時間勤務職員、定時勤務職員は合わせて 1 割程度となっており、女性には男性に比べ、常勤以外の勤務形態の人が多いことが分かる。

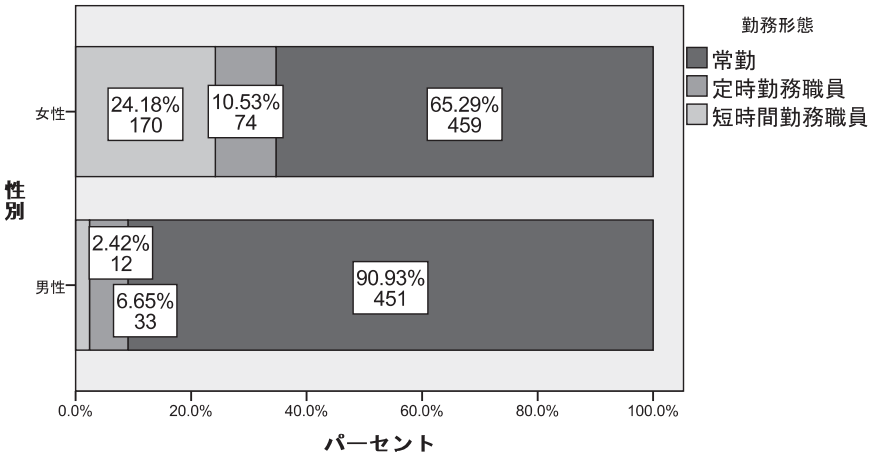


図 10　男女別の勤務形態

世代分布

Q17 では 5 歳刻みで年齢を聞いている。図 11 によると、24 歳以下が 28.2%（515 人）と最も多くを占める。また、25-29 歳という世代も 15.6%（286 人）と比較的多い。それ以上の世代ではそれぞれ 7～10%程度とバランス良く回答者が分布している。

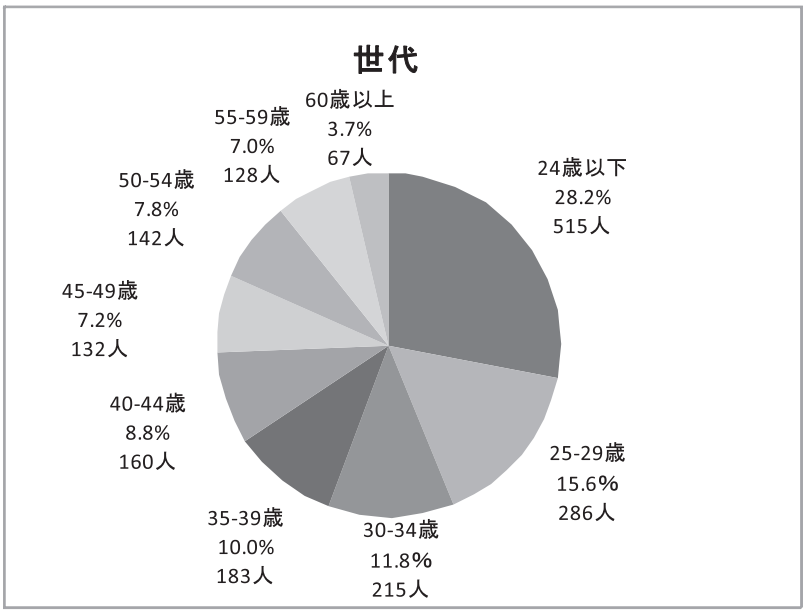


図 11　回答者の世代分布

性別に世代分布を見たのが図 12 である。その結果、男女ともに 24 歳以下、25-29 歳という若い世代が多いが、特に男性の 24 歳以下が多い。これはこの世代に、男性の大学院生が多くいるためであろう。

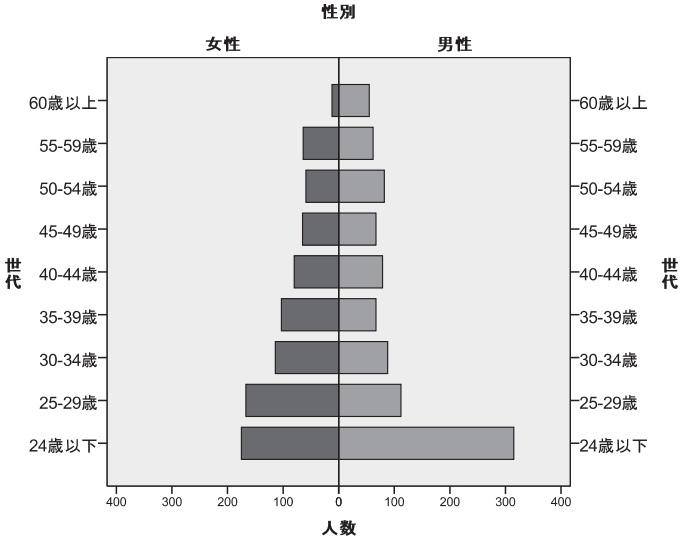


図 12　男女別の世代分布

ただし、世代分布は、大学院生か職員か、また職員でも職種によって異なるため、職種 4 分類ごとに世代分布を見たのが次の 4 つの図である。図を見る際には、職種によって回答者数が異なり、軸の数が違うので注意してほしい。

その結果、大学院生（図 13）では、24 歳以下の世代が大半を占めている。特にこの世代の男性が大半を占めていることがわかる。

大学教員（図 14）では、男性の回答者が多く、40歳以上の男性の回答が多い。

医療系（図 15）では、看護師に女性が多いことから、女性の回答が非常に多い。また、25-29 歳をピークに 24 歳以下、30-34 歳という若い世代の女性が多いことが分かる。

職員（図 16）では、他の職種よりは男女バランス良く回答者が分布しているが、25 歳から 39 歳では比較的女性の回答者が多い。

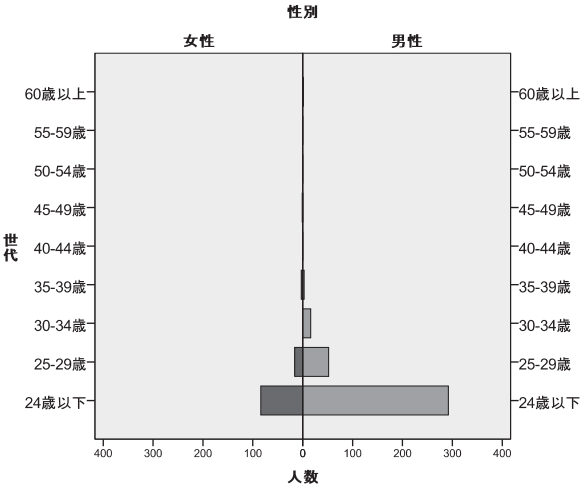


図 13　男女別の世代分布（大学院生）

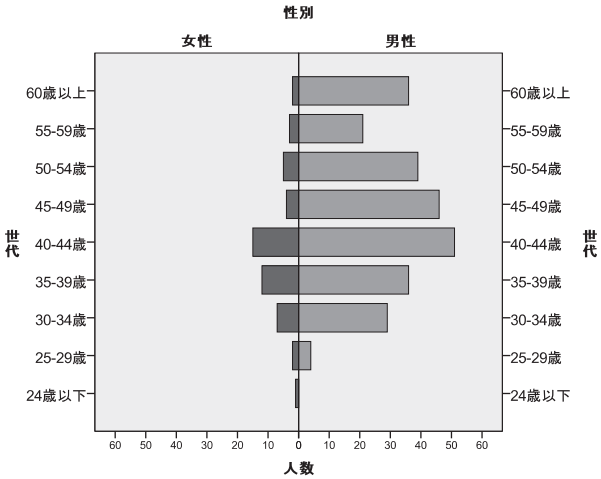


図 14　男女別の世代分布（大学教員）

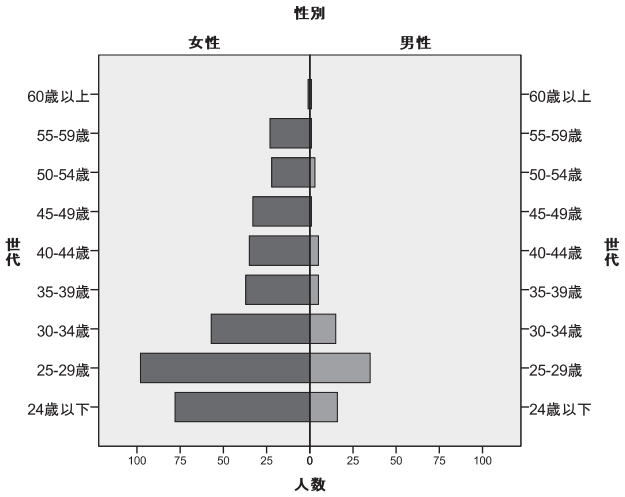


図 15　男女別の世代分布（医療系）

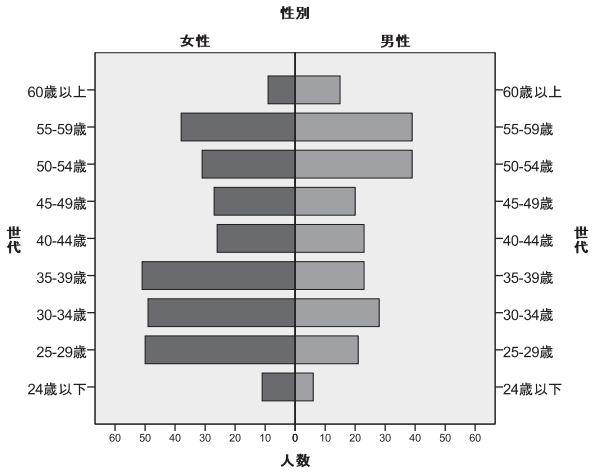


図 16　男女別の世代分布（職員）

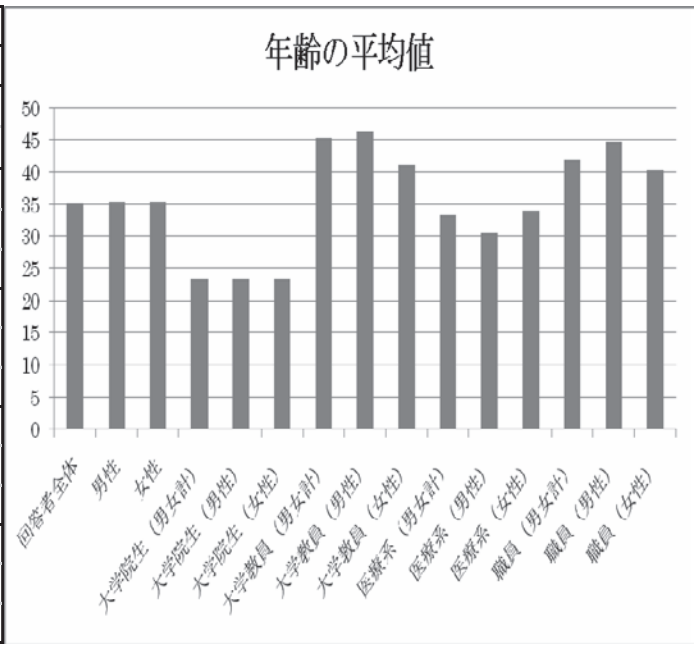
Q17 では 5 歳刻みの世代を聞いているが、平均年齢を求めるためや以下の分析で使用するために、世代から年齢に変換した。変換方法としては、それぞれの世代の中央の値をとって変換した（24 歳以下=22歳、25-29 歳＝27 歳、30-34 歳=32 歳、35-39 歳=37 歳、40-44 歳＝42 歳、45-49 歳＝47 歳、50-54 歳＝52 歳、55-59 歳＝57 歳、60 歳以上=62 歳)。

職種また性別に年齢の平均値等を求めたのが以下の表 5 であり、平均値を図にしたのが図 17 である。全体では平均年齢が 35.3 歳（n=1828）となり、男性は 35.5 歳(n=927)、女性は 35.4 歳(n=839)である。職種別では、大学院生が当然ながら若く、平均 23.4 歳、続いて医療系が 33.4 歳となっている。職員と大学教員では平均年齢は高く、職員で 41.8 歳、大学教員では 45.2 歳となっている。なお、それぞれの職種の中で、男女の年齢の平均値では大きな差は見られない。

表 5　年齢の平均値・中央値

	平均値	中央値	標準偏差
回答者全体	35.3	32.0	12.5
男性	35.5	32.0	11.5
女性	35.4	32.0	13.5
大学院生(男女計)	23.4	22.0	3.5
大学院生(男性)	23.4	22.0	3.5
大学院生(女性)	23.4	22.0	3.8
大学教員(男女計)	45.2	42.0	9.7
大学教員(男性)	46.3	47.0	9.6
大学教員(女性)	41.2	42.0	8.8
医療系(男女計)	33.4	32.0	10.5
医療系(男性)	30.4	27.0	8.5
医療系(女性)	34.1	32.0	10.8
職員(男女計)	41.8	42.0	11.5
職員(男性)	44.6	42.0	11.5
職員(女性)	40.2	37.0	11.2

図 17　年齢の平均値（職種・性別）



4、ライフについて

ここでは、婚姻状況、配偶者等との同別居、家事・育児・介護の状況、子どもの有無や育児等、回答者のライフ（生活）に関することについてまとめていく。

婚姻状況

Q18 では、配偶者・パートナー（以下配偶者等）の有無や配偶者等と同居しているか、別居しているかを聞いている。その結果（図 18）、回答者のうち配偶者・パートナーはいないという人（未婚と離死別を合わせたもの）が、51.6%と約半数を占める。配偶者等がいる人のうちで、同居している人は全体の 42.8%（781 人）、別居している人が全体の 5.6%（102 人）と一定数いる。

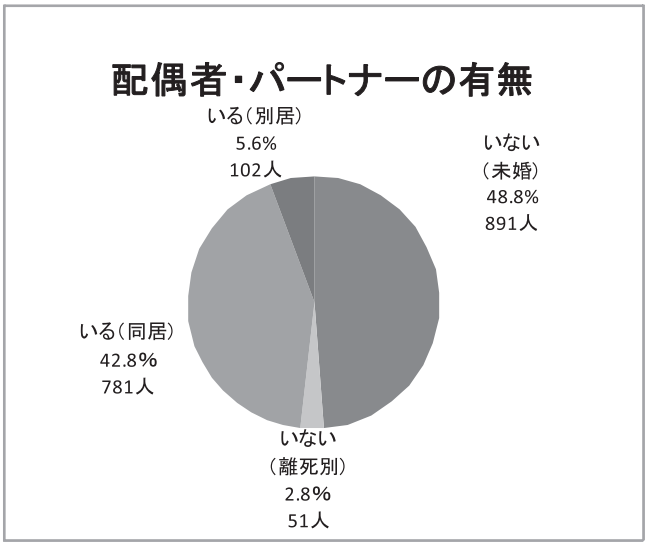


図 18　配偶者・パートナーの有無

ただし、配偶者等の有無は、年齢・職種・性別などによって異なると思われる（例えば若い人が多い大学院生では配偶者・パートナーがいない人が多いだろう）。そのため、以下、もう少し詳しく配偶者・パートナーの有無についてみていこう。

まず、職種と性別で配偶者等の有無を見たのが次のクロス表である（表 6）。表中で、配偶者等の有無が「なし」という人は、Q18 の「いない（未婚）」と「いない（離死別）」を合わせたもの、「あり」という人は「いる（同居）」と「いる（別居）」を合わせたものである。

その結果、若い世代が大半を占める大学院生では、男女計で 95%程度が、配偶者等がいない独身である。性別で配偶者等の有無に差はみられない。他に、医療系では、配偶者等がいない人と配偶者等がいる人が約半分ずつ、職員では、配偶者等がいない人が約 3 割、配偶者等がいる人が約 7 割となっている。医療系や職員においても男女で配偶者等の有無に特に差は見られない。

一方で、大学教員については男女差が見られる。男性では配偶者等がいる人が多くを占めている一方、女性では男性に比べて独身の人が多い。具体的な数値としては、女性では、43.1%（22 人）が「なし」、56.9%（29 人）が「あり」である一方、男性では、「なし」が 12.6%（55 人）、「あり」が 87.4%（229

人）となっている。

表 6　職種別・性別の配偶者等の有無

職種4分類×性別×配偶者等の有無

大学院生

性別	配偶者等の有無 なし	あり	合計
女性	99	5	104
	95.2%	4.8%	100%
男性	340	20	360
	94.4%	5.6%	100%
合計	439	25	464
	94.6%	5.4%	100%

χ^2＝0.09　p=0.77

大学教員

性別	配偶者等の有無 なし	あり	合計
女性	22	29	51
	43.1%	56.9%	100%
男性	33	229	262
	12.6%	87.4%	100%
合計	55	258	313
	17.6%	82.4%	100%

χ^2＝27.49　p＜0.01

医療系

性別	配偶者等の有無 なし	あり	合計
女性	213	167	380
	56.1%	43.9%	100%
男性	38	44	82
	46.3%	53.7%	100%
合計	251	211	462
	54.3%	45.7%	100%

χ^2＝2.56　p=0.11

職員

性別	配偶者等の有無 なし	あり	合計
女性	91	201	292
	31.2%	68.8%	100%
男性	61	154	215
	28.4%	71.6%	100%
合計	152	355	507
	30.0%	70.0%	100%

χ^2＝0.46　p=0.50

世代別有配偶率

次に、世代別に有配偶率をまとめたのが図 19 である。有配偶率とは、その世代の回答者のうち、配偶者等がいる人（同居と別居を合わせたもの）の割合とした。

その結果、有配偶率は、年齢が上がるに従って、ほぼ右肩上がりであることがわかる。

24 歳以下では男性 1.9%、女性 5.8%、25-29 歳では男性 28.8%、女性 25.9%であるが、30-34 歳の世代で 50%に近くなる（男性 42.5%、女性 53.6%）。その後の世代では、若干男性が女性に比べて高い傾向がみられ、35-39 歳では男性 89.6%、女性 72.5%、40-44 歳では男性 86.1%、女性 73.4%、45-49 歳では男性 92.5%、女性 73.8%、50-54 歳では男性 89.0%、女性 88.1%、55-59 歳では男性 93.5%、女性 79.7%、60 歳以上では男性 96.4%、女性 66.7%となっている。全世代合計の有配偶率は男性 48.8%、女性 48.6%であった。

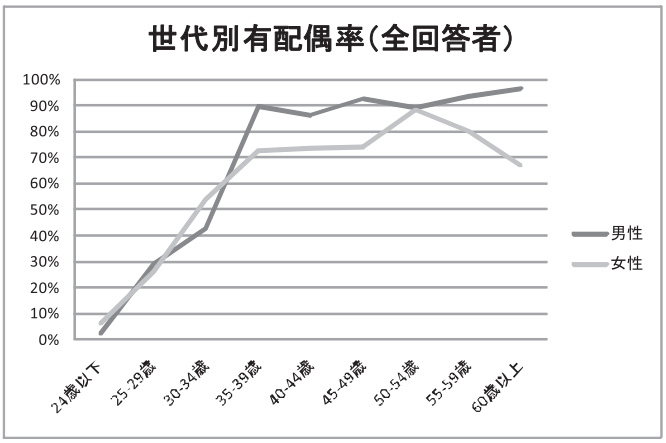


図 19　世代別有配偶率（全回答者）

次に職種ごとに世代別有配偶率を見たのが以下の 3 つの図 20 である。なお、その職種・世代など当該カテゴリー中に該当者が 1 人しかいない場合は、図から結果を除外している（例、大学教員で 24 歳以下の男女、医療系で 55-59 歳男性等）。

その結果、全体の結果と同様に、どの職種においても、男女とも右肩上がりの傾向が見られる。

ただし、大学教員の女性に関してのみ 30 歳代から 40 歳代で有配偶率が下がっている。他の世代の女性大学教員、同世代の男性大学教員、他職種の同性代女性と比べても有配偶率が低い傾向がある。

図中で使用した女性大学教員の回答者数は全世代合計で 51 名と非常に少ないため、有配偶率が 1 人 1 人の回答で大きく変化することは留意するべきだが、昨年度のアンケート結果（山形大学男女共同参画推進室　2010：20）でも、同じように 30 歳代から 40 歳代の女性の大学教員で有配偶率が低い傾向が出ていた。さらに、後述するように、大学教員の女性では配偶者等がいても、別居している人が男性や他職種の女性よりも多い。

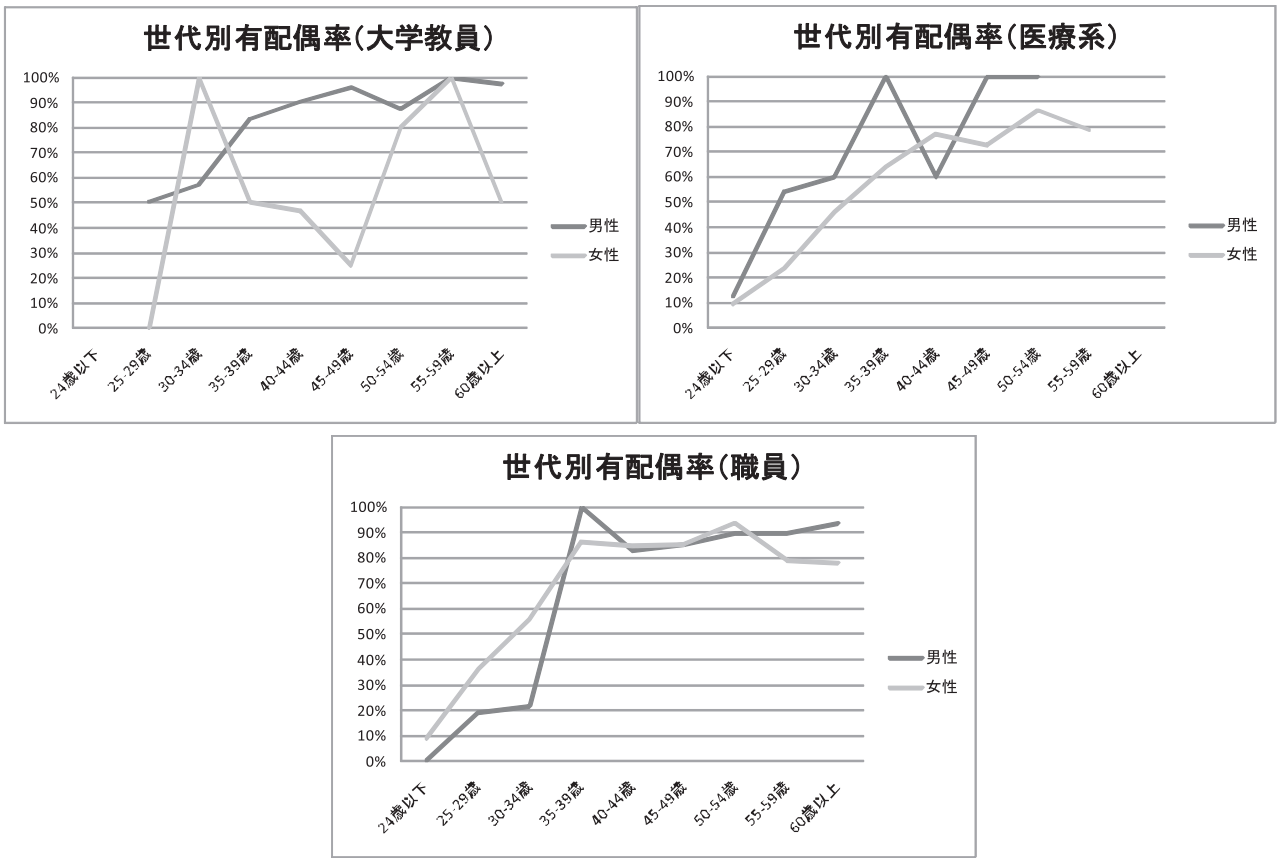


図 20　世代別有配偶率（職種別）

配偶者・パートナーとの同別居

配偶者等がいる人のうちで、同居、別居している人がどの程度いるかを見たのが、以下の 2 つの図である。昨年度の山形大学のアンケート結果でも、また他大学の多くの調査でも大学教員・研究者では別居しているカップルが他の職種よりも多く、さらに女性では特に別居率が高いことが分かっている（山形大学男女共同参画推進室　2009：19 他）。

以下少し詳しく大学教員と、大学教員以外の医療系と職員の結果を分けて見ていこう。

まず、大学教員の配偶者等との同別居を見たのが図 21 である。その結果、有配偶者のうち女性で 24.1%と 4 分の 1、男性で 17.0%が配偶者等と別居をしている。

一方で、大学教員以外の医療系と職員をまとめたものが図 22 であるが、配偶者等と別居している人の割合は、女性で 7.9%、男性で 8.1%とほぼ 1 割弱となっている。やはり、今回のアンケート結果でも、大学教員は他の職種と比べて、配偶者等と別居をしている人が多く、さらに女性の大学教員ではその割合が高いことがわかる。

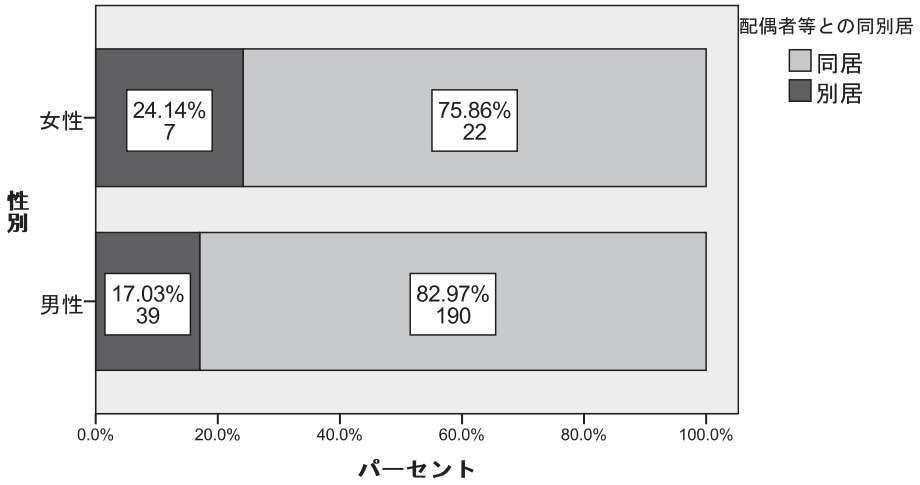


図 21　配偶者等との同別居（大学教員）

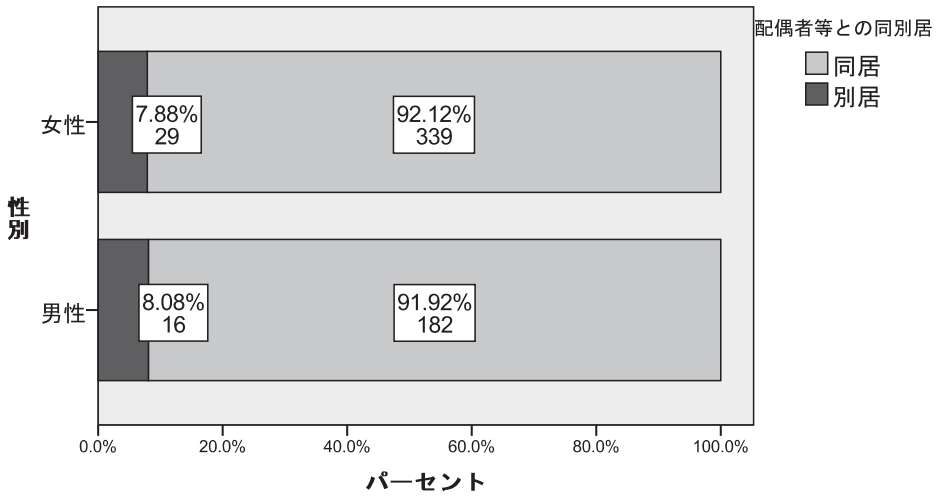


図 22　配偶者等との同別居（医療系と職員）

ところで、先述したように、このように配偶者等との別居が多いのは、山形大学だけの特徴ではなく、他の大学の調査でも見られる特徴である。

例えば、同じ東北地方の岩手大学でも大学教員に対し配偶者等の有無と別居を聞いている（岩手大学男女共同参画推進室　2010:1）。その結果を見ると、配偶者等がいる人のうち、女性大学教員では 33.3%、男性大学教員では 17.6%が別居である。女性では山形大学より少し高い数値、また男性では山形大学と

ほぼ同程度であり、やはり岩手大学でも大学教員・研究者では別居しているカップルが多いことがわかる。

山形大学や岩手大学など地方国立大学では、企業等が多い首都圏や京阪神地域から遠いので、そこで仕事を持つパートナーとは離れてしまう、また周囲に大学・研究所等も多くないため、研究者同士のカップルでは別居せざるを得ないという理由も考えられる。

ただし、配偶者等と別居をしている人が多いというのは、他の都市部の大学の調査結果でも見られる特徴である。例えば、大阪大学の教員へのアンケート調査結果（大阪大学多様な人材活用推進委員会・女性研究者キャリア・デザインラボ　2010：46）では、配偶者等がいる人のうち、女性教員の 23.6%が別居、76.4%が同居である（n=55）。男性教員では、5.4%が別居、94.6 %が同居となっている（n=441）。女性教員に関しては、約 4 分の 1 と山形大学と同程度の別居率である（男性教員に関しては、山形大学よりも低い）。他に、東京大学の女性教員へのアンケート調査（東京大学男女共同参画オフィス　2010：9）でも、配偶者等がいる人のうち別居している人は 22.0%（46 人）となっており、山形大学の結果と大きな差はない。

まとめると、このように大学教員・研究者、特に女性の大学教員・研究者で配偶者等との別居率が高い、という現象は、山形大学に限らず全国の大学でほぼ同様に見られる特徴である。

配偶者等との別居が大学教員・研究者のワークライフバランスの実現にとって問題であり、大学として対策をとるべきかどうかは、その教員・研究者のライフステージや配偶者や両親との距離などによって大きく異なるだろう。特に大きな問題とはならない可能性も考えられる。ただし、配偶者等との別居に関して対策を行う動きもあり、大きく以下の 2 つの流れがあるので、簡単に紹介したい。

1 つめは、大学等が公募情報等を別居カップルに対して提供し、配偶者等とできるだけ近くに就職できるように支援するという方向である。例えば、アメリカのカルフォルニア大学バークレー校などが属するNorthern California Higher Education Recruitment Consortium (HERC)では、夫婦など両方が研究職であるDual Careerのカップル向けに、HP 等で周辺大学の求人情報を提供し（Northern California HERC の HP 等参照)、別居カップルの同居支援を行っている。

山形大学に関して言えば、本学に限らず周囲の大学、全国の大学でも配偶者等と別居している大学教員が多いということを踏まえ、例えば近接する（山形県内・仙台周辺・東北地方など）大学・高等教育機関で連携を行い、研究者等の公募情報等を共有するなどが考えられる。

もう 1 つは、配偶者等との別居を減らすことは自体は難しい、または別居カップルが多いこと自体は問題がないので、配偶者等との別居カップルが一定数いることを前提に、大学の職場環境を整えるという方向である。例えば、育児や介護などを行っている大学教員を主な対象に、自宅でも、大学と同じように業務を行うことができるようなユビキタスワーキングシステムなどの整備が、山形大学をはじめ多くの大学で実験的に行われはじめている。これも別居カップルを支援する方策の一つになるだろう。

配偶者等の職業

Q18（2）（3）では配偶者等がいる人に対して、配偶者等の就業形態と職種を聞いている。回答者の性別に、結果をまとめたのが以下の図 23 である。

その結果、女性の配偶者等（夫など）は、89.1%（360 人）が常勤・フルタイムで就労しており、それ

以外の非常勤・パートタイムや家事専業・学生等はそれぞれ 5%程度と少ない。一方で、男性の配偶者等（妻など）は、家事専業・学生等が最も多く 44.1%（198 人）となっている。それ以外の常勤・フルタイムは 3.6%、非常勤・パートタイムは 22.3%である。男性の配偶者等（妻など）では、3 パターンに分散していることが分かる。

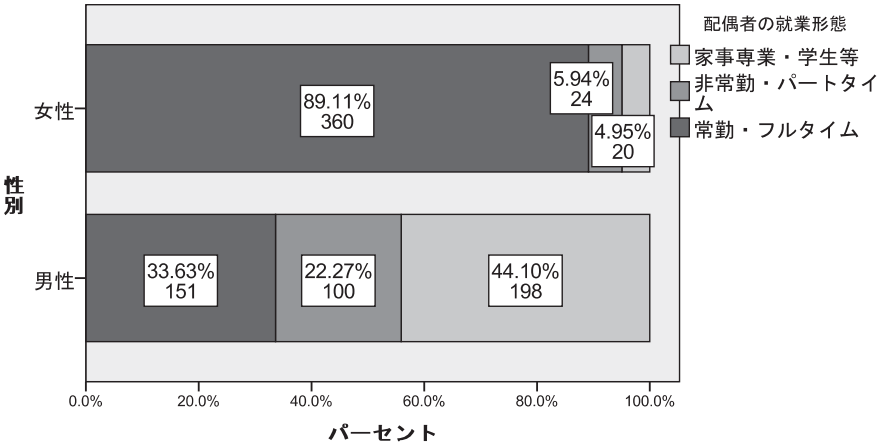


図 23　配偶者等の就業形態

本人の職種別に配偶者等の就職状況をまとめたのが以下の 図 24 と図 25 である。

どちらの結果も、全回答者の結果と同じように、女性の配偶者等（夫など）では、常勤・フルタイムが多く、男性の配偶者等（妻など）では、家事専業・学生等、非常勤・パートタイム、常勤・フルタイムの 3 パターンに分散している。

ただし、男性の配偶者等（妻）に関して、本人の職種によって違いが見られる。具体的には、大学教員の男性の配偶者等（妻など）では、家事専業・学生等が他の職種よりも比較的多い（57.0%）。一方で、それ以外の職種（医療系・職員）の男性の配偶者等（妻など）では、最も多いのは常勤・フルタイムの配偶者等である（48.2%）。

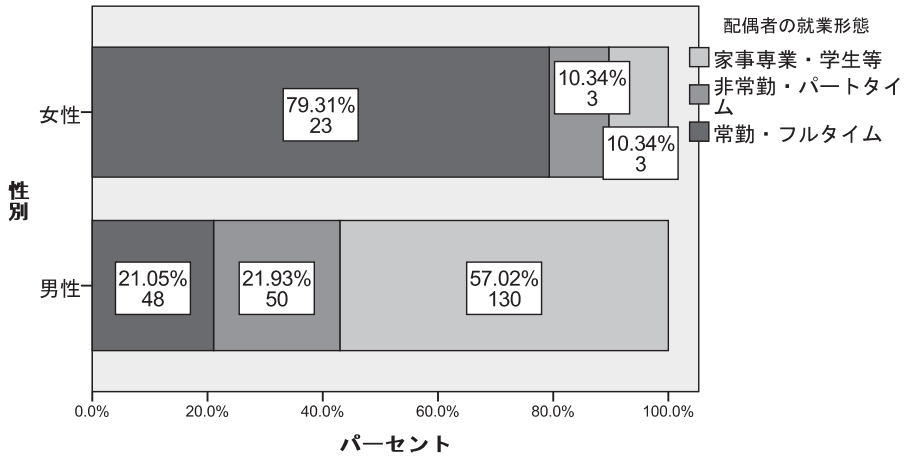


図 24　配偶者等の就職状況（大学教員）

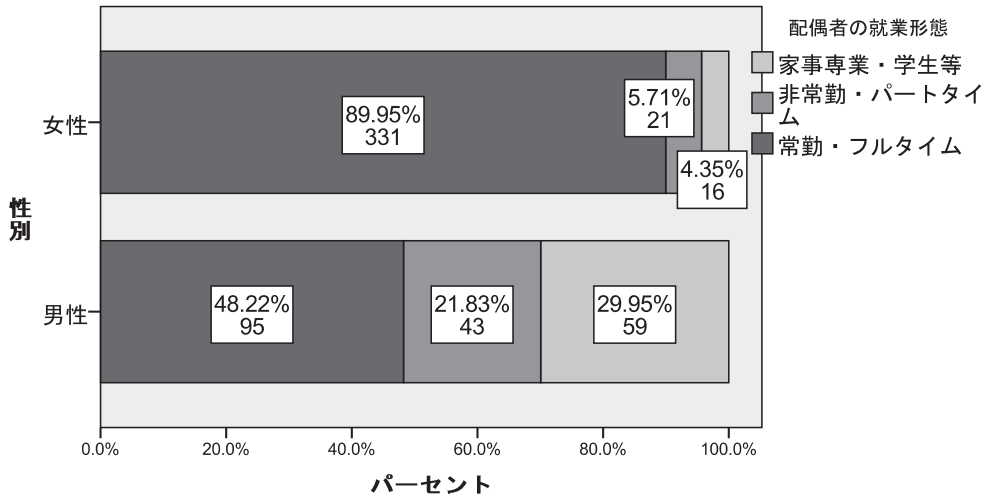


図 25　配偶者等の就職状況（医療系と職員）

次に、Q18(3)では、常勤・フルタイム、もしくは非常勤・パートタイムで収入を伴う仕事をしている配偶者等を持つ人のみに、その職種を 6 分類で聞いている。その結果をまとめたのが以下の図 26 であるが、ここでは図を見やすくするために、6 分類ではなく、研究職以外の会社員・公務員、研究職（大学・公的機関・企業）、その他等の 3 分類に分けて結果をまとめてある。

その結果、男女とも、研究職以外の会社員・公務員の配偶者等を持つ人が最も多い。研究職（大学・公的機関・企業）の配偶者等を持つ人は、女性で 6.8%、男性で 8.4%となっている。

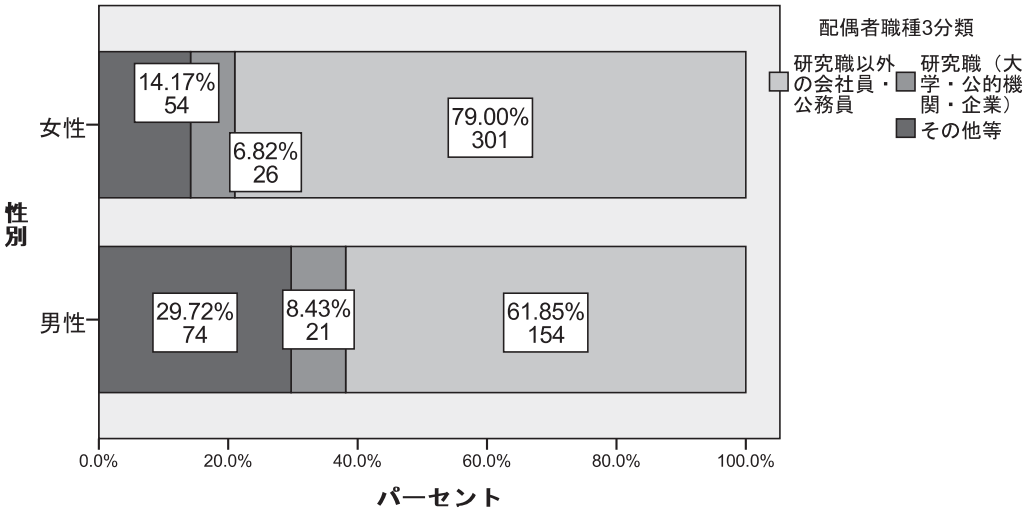


図 26　配偶者等の職種

一般に、同じような職種や同じような学歴の人同士が結婚するケースが多く、さらに研究職では特にその傾向が強いという指摘もある。そこで、大学教員と、医療系・職員という職種別に結果を見たのが以下の 2 つの図である。

その結果、大学教員では、やはり研究職の配偶者等を持つ人が、他の職種よりも多い。ケース数が少ないという留意点はあるが、特に女性の大学教員の配偶者等（夫など）では、38.5%（10 人）が研究職（大学・公的機関・企業）である。また、男性の大学教員についても配偶者等（妻など）は 14.4%（10

人）が研究職（大学・公的機関・企業）であった。

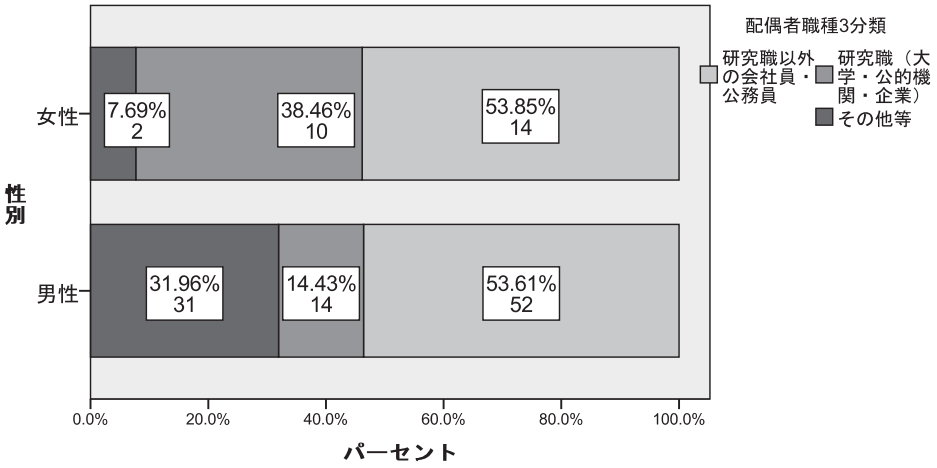


図 27　配偶者等の職種（大学教員）

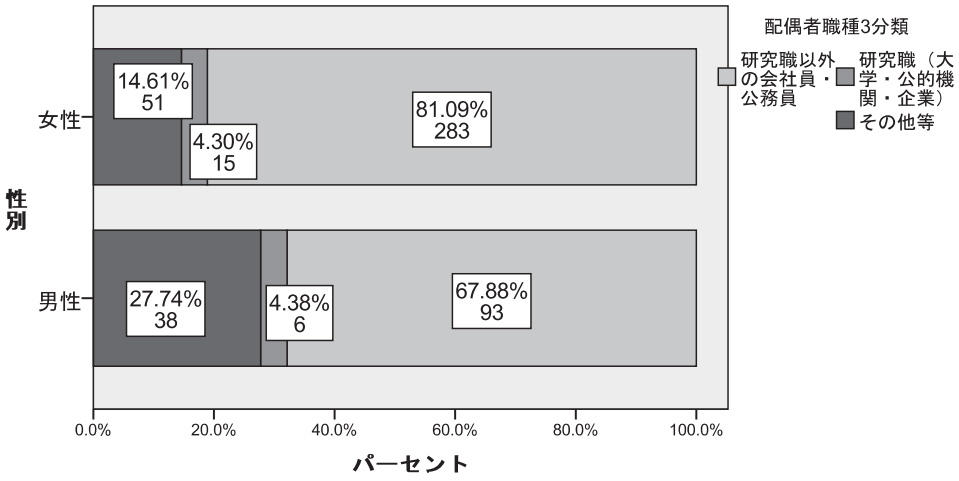


図 28　配偶者等の職種（医療系と職員）

ケース数が少ないため、これ以上詳細な分析は行わないが、このように大学教員、特に女性では研究職同士のカップルが多い。また、別居と同様に、大学教員では研究職同士のカップルが多いという特徴も、山形大学に限ったことではない。

例えば、先述の大阪大学の教員へのアンケート調査結果（大阪大学多様な人材活用推進委員会・女性研究者キャリア・デザインラボ　2010：48）でも同様に、配偶者が就業している人に、その配偶者が研究者かどうかを尋ねている。その結果、男性研究者（n=178）では、妻の 23.6%が大学研究者、3.4%が企業研究者であり、72.5%が研究者ではなかった。女性研究者（n=46）では、さらに大学研究者の割合が高く、夫の 56.5%が大学研究者、6.5%が企業研究者であり、37.0%が研究者ではなかった。

やはり、大阪大学でも研究者同士のカップルの割合が高く、特に女性の大学教員の夫は大学研究者であることが多い。山形大学では、大阪大学よりは割合は低いが、やはり同様の傾向が見られる。

家事・育児・介護時間の男女差

Q19 では平日の家事等（家事・育児・介護）の時間と育児や介護が必要な家族の有無を聞いている。その結果、育児の必要な家族がいる人は 375 人、介護の必要な家族がいる人は 228 人いた。

家事・育児・介護などの労働（ケア労働）については、昨年度の結果でもまた他の多くの先行調査でも、女性が多くを負担していることが指摘されている。本調査でもそのような傾向が見られるだろうか。

まず、昨年度の調査結果（山形大学男女共同参画推進室　2009：22）では、やはりこれらの時間は女性の方が長かった。家事は女性の平均が 2 時間 15 分ほどなのに対して、男性は 1 時間に満たない。育児は女性の平均が約 3 時間なのに対して、男性が 1 時間強である。介護は、女性の平均が 34.69 分なのに対して、男性が 15.12 分となっている。上記は、配偶者等が家事専業・常勤等の全てを含んでいるが、配偶者が常勤である人のみを男女別に見ても、家事は女性の平均が 3 時間弱なのに対して、男性はやはり 1 時間に満たない。育児では女性の平均が 3 時間を超えるのに対して、男性は 1 時間強であった。しかし、介護については若干異なっており、女性の平均が 30.00 分なのに対して、男性では 31.90 分であり、男女差は見られなかった。

今年度の結果をまとめたのが、以下の図 29 である。なお、分析では、3 つの合計時間が 24 時間を超えるなどの明らかにおかしな値について分析から除外したが、家事時間が 10 時間など非常に大きな回答の場合も分析からは除外しなかった。また、育児や介護が必要な家族がいるが、育児や介護を行わない場合は 0 分と回答してもらっており、以下の平均値にはその人たちを含めて計算している。また、家事等の時間については全て平日について聞いているため、週末などについては分からない。介護に関しても家事等と揃えるため平日の時間を聞いているが、介護の必要な親と離れて暮らし、週末のみ介護を行っているケースもあると思われるが、このデータからは分からない。

その結果、やはり、これらの労働については、女性が多くを負担していることがわかる。家事では女性の平均が 143.8 分と 2 時間を超えているのに対して、男性は 56.9 分と 1 時間に満たない。また、育児でも、女性が 181.6 分と 3 時間程度であるのに対して、男性は 64.1 分と 1 時間程度である。介護に関しては、平日ということもあるだろうが、家事や育児に比べ短く、女性では 30 分程度、男性では 12 分程度となっている。

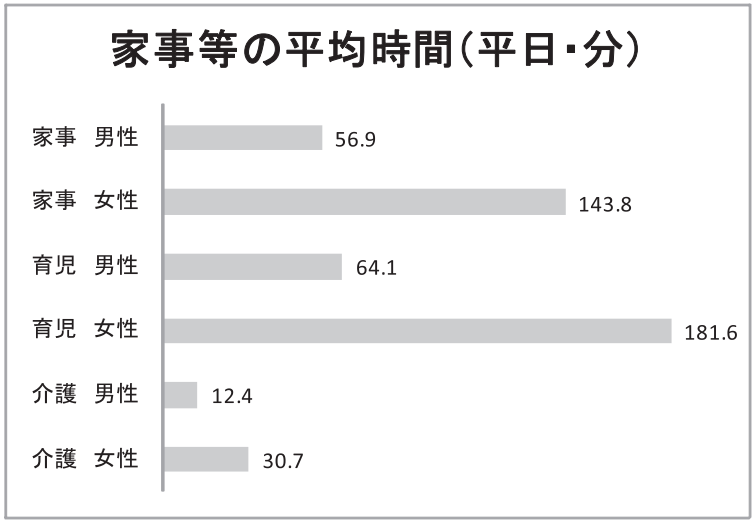


図 29　家事等の平均時間（平日・分）

次に、常勤同士の共働きカップルにおいても、女性の方が家事・育児・介護の労働時間が長い傾向が見られるかを見てみよう。

Q3(2)で本人が常勤で勤務しており、Q18（2）で配偶者等が常勤・フルタイムで就労している人を回答者から選びだすと、333 人いた。それらの人の家事・育児・介護の平均時間を男女別に示したものが、図 30 である。

その結果、上で示した全ての回答者の結果と大差なく、家事や育児では女性が長時間を担う傾向があった。介護では、それほど大きな男女差は見られなかった。具体的には、家事では女性の平均が 152.8 分と 2 時間半程度であるのに対して、男性は 1 時間程度である。育児では、女性が 169.9 分と 3 時間程度であるのに対して、男性は 80.0 分である。介護では、女性が 21.9 分、男性が 23.6 分と大きな差はなかった。

常勤カップル同士では男性の育児時間が、全カップルの結果よりは 64.1 分から 80.0 分と 16 分程度長くなっている傾向があり、その点は若干男女差が縮まっているとも言える。ただし、常勤カップル同士でもやはり女性が、家事では 2.5 倍以上、育児では 3 倍程度、長い時間労働を担っており、全体として、これらの労働については、女性が多くを負担していることがわかる。

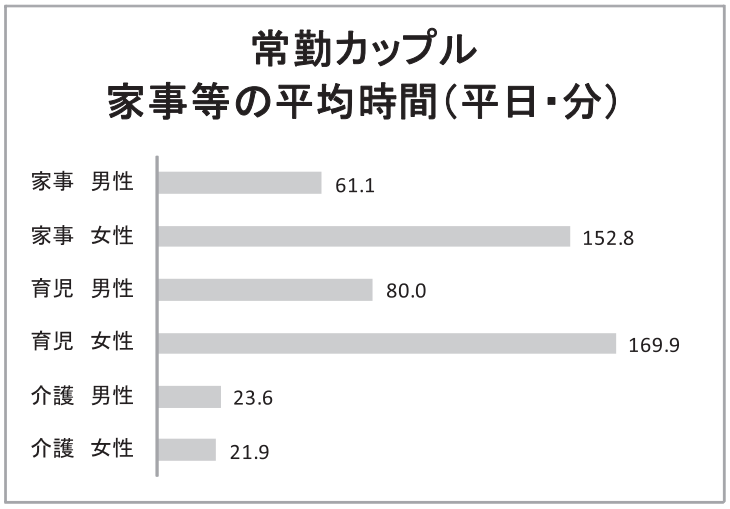


図 30　常勤カップルの家事等の平均時間（平日・分）

子どもの有無と希望

Q20 では子どもの有無と、年齢別の子ども数、また、子どもを持つ人には理想の子ども数、子供を持っていない人には子供を持つ希望の有無と希望の人数を聞いている。

その結果、子どもを持っていると回答した人は 729 人であった（この質問に回答した 1798 人中 40.5%）。性別で子どもの有無に差は見られなかった。職種別では大学院生では子どもを持つ人は 2%程度、その他の職種では医療系で子どもを持つ人が 36.2%と比較的少なかった。これは若い世代が多いためと推測できる。子どもを持つ人が多かったのは、職員（61.2%）と大学教員（67.9%）であった。

また、世代別に子どもを持つ人（有子率）を見たのが、図 31 である。20 代、30 代前半では子どもを持つ人は少なく、35-39 歳の世代で半数を超える（59.6%（109 人））。

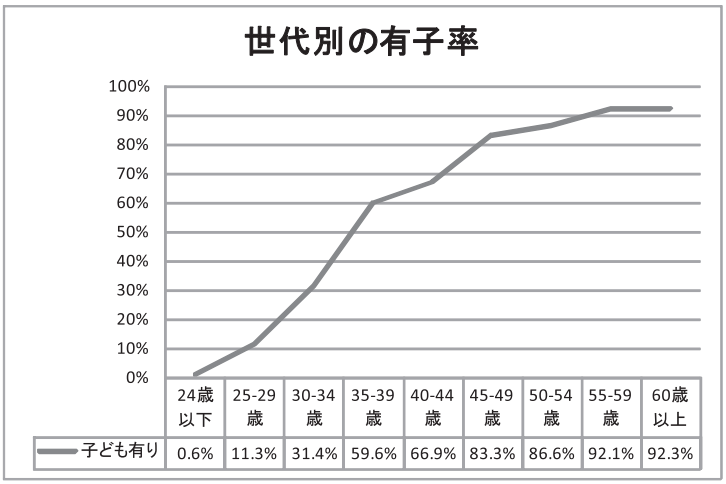


図 31　世代別の有子率

次に、子どもを持つ人が何人の子どもを持っているかまとめたのが以下の図 32 である。

その結果、子ども 2 人という人が最も多く、子どもを持つ人のうち 51.7%（374 人）であり、1 人、3 人であるという回答者が続く。平均子ども数を計算すると 1.97 人となっている。

なお、性別、職種別に平均子ども数を比べても特に差は見られず、どのカテゴリーにおいても平均子ども数は 2 人程度となっていた。

子どもを既に持っている人に対して、理想の子ども数を聞いているのが図 33 である。その結果、子ども 3 人を希望する人が最も多く、60.5%（283 人）となっている。理想の子ども数の平均値は、2.72 人となっており、現在実際に持つ子ども数の平均値よりも多い。

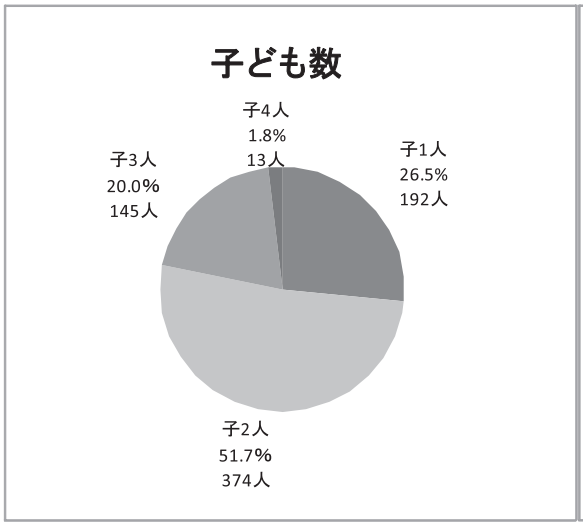


図 32　子ども数の分布

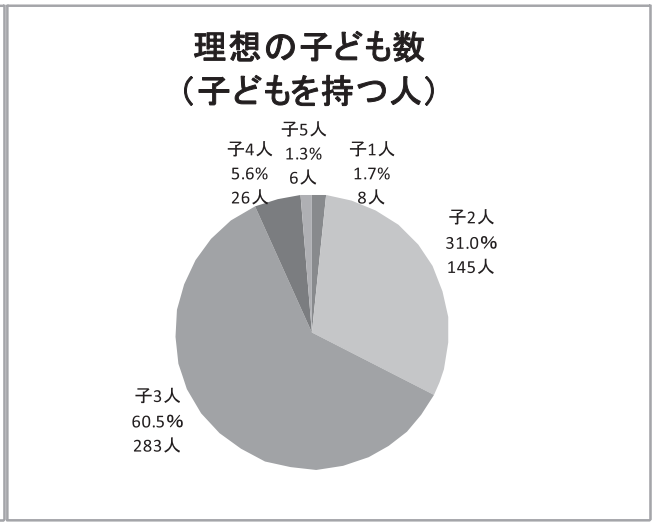


図 33　理想の子ども数（子どもを持つ人）

子どもの年齢別の分布を示したのが図 34 である。全キャンパスで、今回のアンケートに答えてくれた人の子どもだけでも全体で 1554 人、小学生以下では合計 545 人の子どもがいると推測される。回収率が半分程度だったことを考えると、単純にその倍の子どもがいると推測することもできる。ただし、夫婦で山形大学に勤め、かつ両方がアンケートに回答してくれた夫婦の子は 2 重に数えているため、正確な数は分からない。

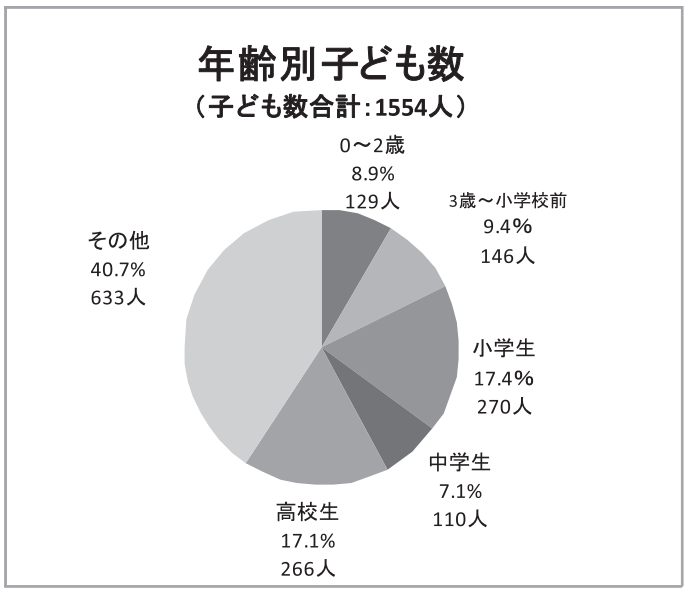


図 34　年齢別子ども数

Q20 では子どもをもっていない人に対しても、将来子どもを持つ希望の有無を聞いている。その結果、80.2%（846 人）が希望有りと答えており、多くの人が子どもを希望していることが分かる。

子どもをもっていない人に理想の子ども数を聞いた結果が図 35 である。その結果、子ども 2 人を希望する人が最も多く、59.5%（486 人）となっている。理想の子ども数の平均値は、1.89 人となっており、現在持っている人の理想子ども数の平均値（2.72 人）よりは低い。

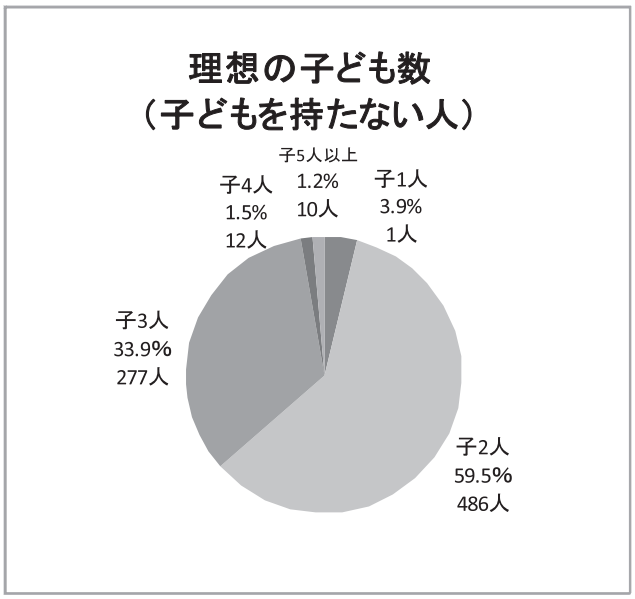


図 35　理想の子ども数（子どもを持たない人）

育児の担い手

Q21 から 24 では中学生以下の子どもがいる人のみに対して、現在の子育ての状況について詳しく聞いている。

Q23 では、主な育児の担い手を、昼間と本人が残業する場合に分けて聞いているが、昼間の結果をまとめたのが図 36、本人が残業する場合をまとめたのが図 37 である。

結論から言うと、これらから分かるのは、多くの女性にとって、自分以外には、保育所・幼稚園・学童保育が主な育児の担い手であり、それを子どもの祖父母が補完しているということである。一方、男性にとっては配偶者、つまり妻が主な育児の担い手であるケースが大半を占める。

昼間の女性の回答（145 人）で最も多いのは、保育所・幼稚園・学童保育であり、54.5%と半数を占める。次に子どもの祖父母が 25.5%と 4 分の 1、その後、本人・きょうだいの自己管理 11.7%、配偶者 5.5%、その他となっている。一方、男性の回答（154 人）では、最も多いのは、配偶者であり、64.9%である。その後、保育所・幼稚園・学童保育が 15.6%、子どもの祖父母が 12.3%、本人・きょうだいの自己管理が 6.5%と続く。

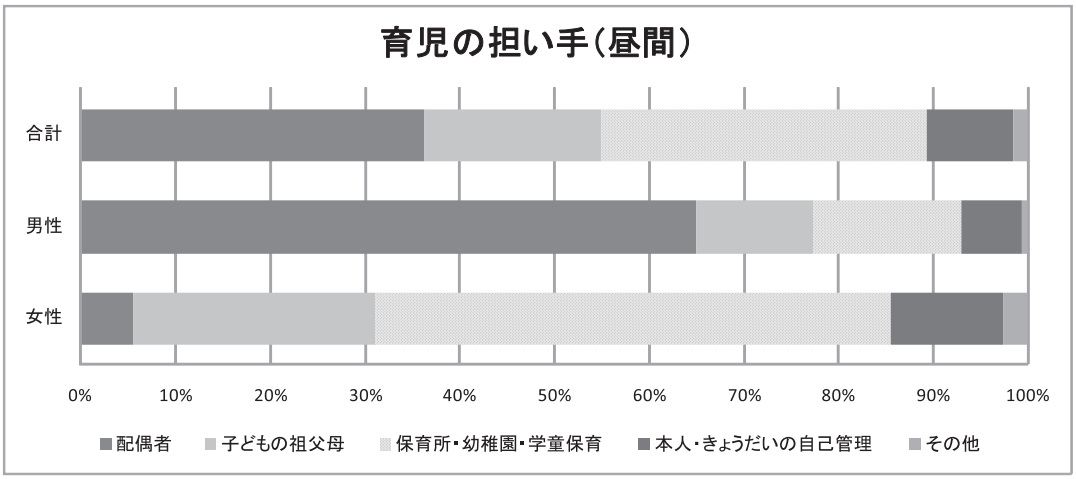


図 36　育児の担い手（昼間）

本人が残業する場合についての女性の回答（131 人）では、最も多いのは、昼間とは異なり子どもの祖父母である（42.0%）。次に保育所・幼稚園・学童保育が 22.9%、配偶者が 19.1%、本人・きょうだいの自己管理が 13.0%と続く。一方、男性の回答（165 人）では、最も多いのは、配偶者であり、83.6%である。その後、子どもの祖父母が 9.7%、本人・きょうだいの自己管理が 3.0%、保育所・幼稚園・学童保育が 1.8%と続いている。

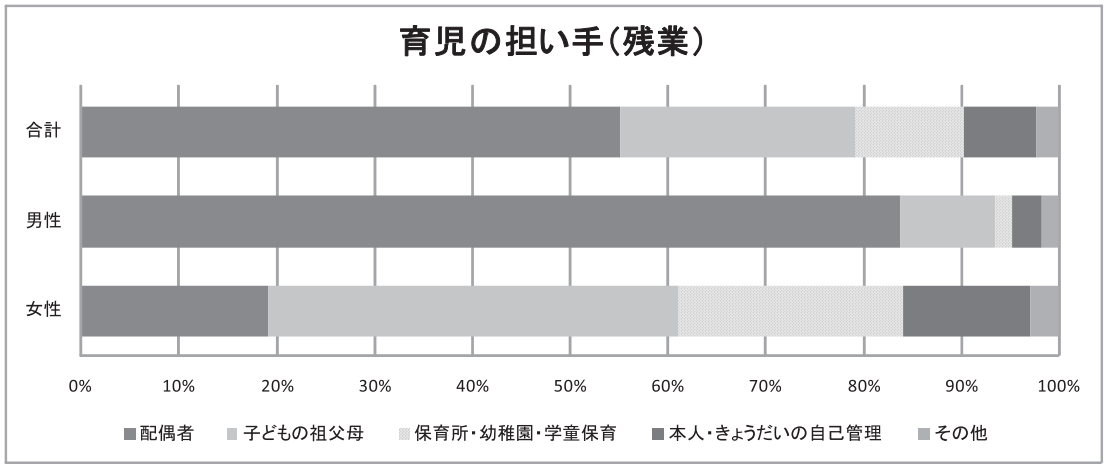


図 37　育児の担い手（残業）

子どもの病気で休んだ日数

Q21 では子どもの病気で仕事・大学を休んだ日数、その日数が十分であったか、十分でなかった場合、何日くらい休みが必要だったか等を聞いている。

Q21(1)では、昨年 1 年間（1 月から 12 月）に子どもの病気で仕事・大学を休んだ日数を聞いている（図 38）。その結果平均値では2.32 日となっている。分布を見ると、0 日から 5 日までという短い日数に大部分の人（88.4%）が入っており、その多くは 0 日であった（47.4%）。その一方で、人数としては多くはないが、6 日以上、最大値では 26 日と多くの日数を休んだ人もいることがわかる。

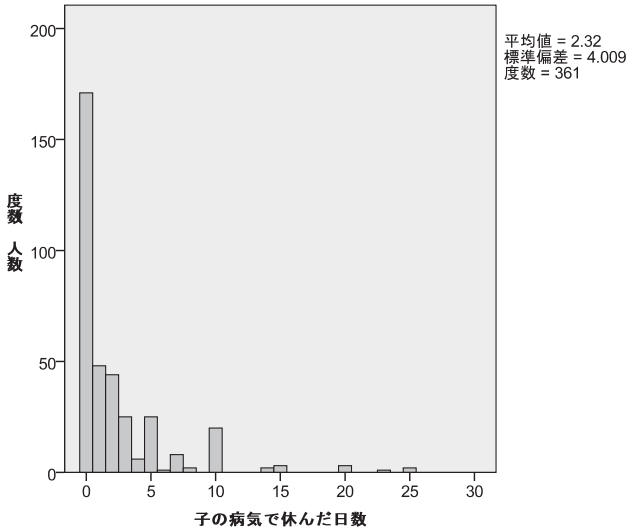


図 38　子どもの病気で休んだ日数

男性について分布を見たのが、図 39 である。平均値は 1.10 日となっており、0 日であるという人が多くを占める。女性についての図 40 では、やはり 0 日であるという人が大半を占めるが、男性と比べて、1～10 日に人数が多く分布しており、20 日以上の人も数人いる。そのため平均値は 3.51 日と男性より 2 日以上長くなっている。

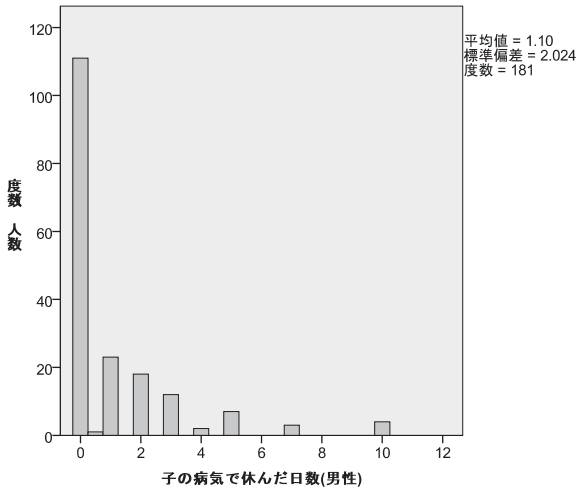


図 39　子どもの病気で休んだ日数（男性）

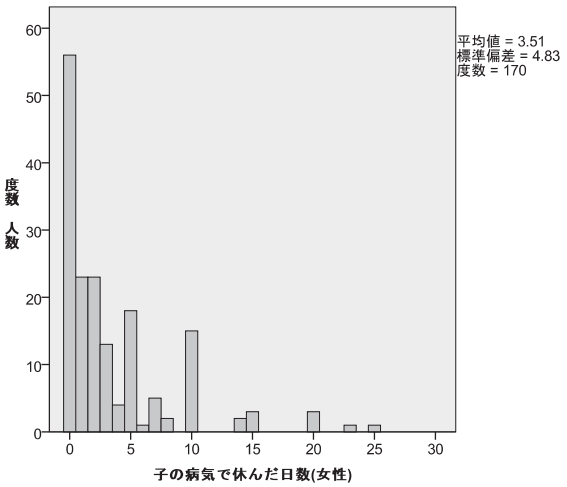


図 40　子どもの病気で休んだ日数（女性）

Q21(2)では(1)で 1 年間に休んだ日数が、十分だったか、十分でなかったかを聞いている。その結果を男女別にまとめたのが、図 41 である。図で示していないが、全体（286 人）では、十分ではなかったという人が 52.4%、十分であったという人が 47.6%とほぼ半々となっている。しかし、男女別で見ると、女性の方にもっと子どもの病気で休む必要があるというニーズがあることが分かる。具体的には、女性の方が十分でなかったという人が、63.2%と過半数をしめているのに対し、男性では 41.4%と女性よりは少ない。

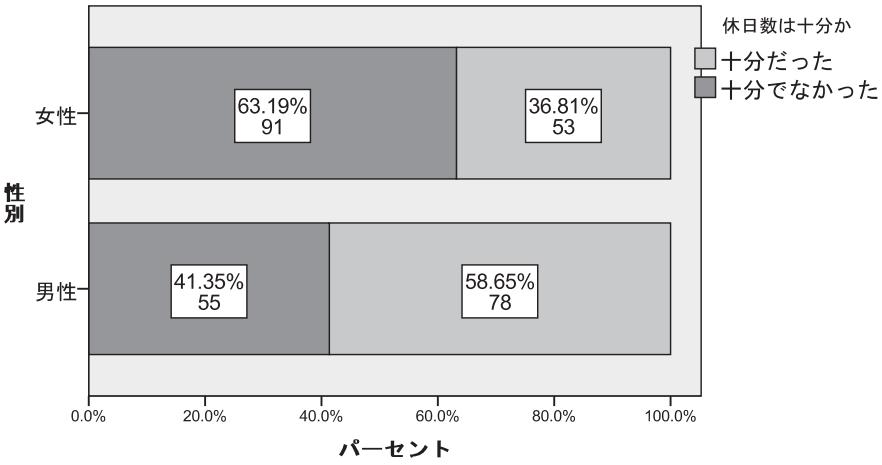


図 41　子ども病気の休日数は十分か

Q21(3)では、(2)で休んだ日数が十分でなかったと答えた人のみに、それでは何日くらい必要かというニーズを聞いている。その結果（図 42）、平均値で 7.52 日となっており、実際に休んだ日数 2.32 日より 5 日以上多くなっている。ただし、極端に多い日数の回答は多くはなく、1 日から 5 日の間で 56.6%と過半数を占めている。

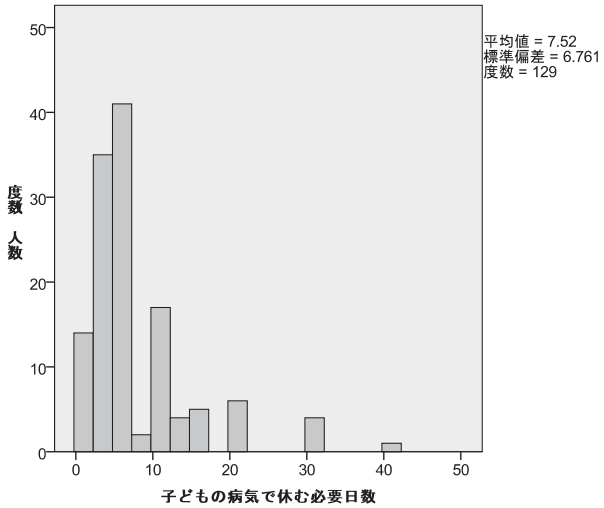


図 42　子どもの病気で休む必要日数

Q22 では、子どもが病気の際にどのようなサポートが必要と考えるかを聞いている。その結果（図 43）、病児・病後児保育や、休んだ場合の業務の代替者の設置などよりも、抽象的ではあるが、「育児を理由に

休める職場の雰囲気」という答えが、44.8%と最も多くを占めている。この結果は、現在、山形大学の職場では育児を理由に休める職場の雰囲気が無いと多くの子育て中の人が感じていることを示している。

病児・病後児保育や、休んだ場合の業務の代替者の設置など、大学としてシステムを整え、資金が必要なサポートを求める声も多い。それと並行して、まず職場の雰囲気を変える意識改革を行い、子育て中の職員にとって、子どもが病気の際に休むことができる雰囲気作りが必要であることが分かる。

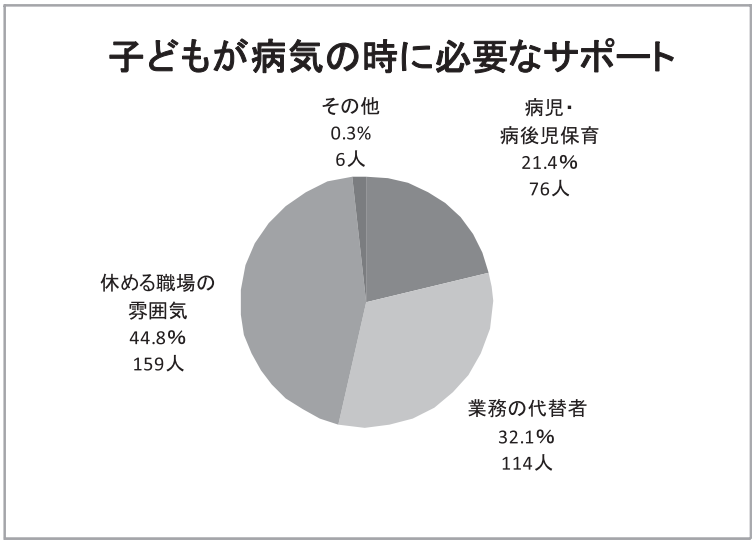


図 43　子どもが病気の際に必要なサポート

子育てと仕事の両立の困難さ

Q24 では、子育てと仕事を両立をする上で困難を感じることがあれば、a~i の 9 つの中から選んでもらっている（複数回答可、363 人が回答）。その結果（図 44）、最も多いのが、「c 仕事が忙しく子供にかける時間が削られる」であり（61.4%）、次に「f 疲労、睡眠不足、ストレス」が 57.6%と多くなっている。その後、「e 仕事が忙しい時のサポート体制が十分でない」が 27.0%と続く。

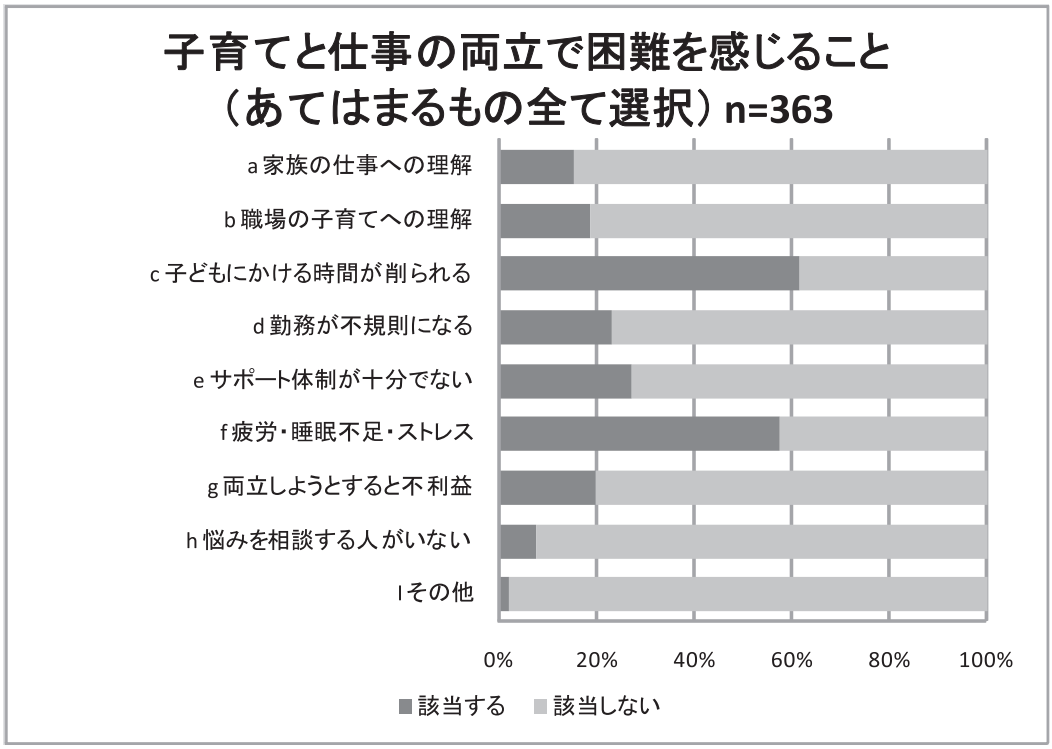


図 44　子育てと仕事の両立で困難を感じること

男女別でみると、ほとんどの項目について、大きな男女の差は見られなかった。しかし、「f 疲労、睡眠不足、ストレス」については、表 7 のように、女性が男性と比べて該当する傾向がみられた項目もある。女性では 7 割程度の人がこれらの疲れを感じているが、男性では 56.7%である。おそらく、仕事と共に育児や家事を男性よりも女性が多くを担っていることが、その原因の一つとして挙げられるだろう。

ただし、男性の過半数 56.7%もこれらの疲れを感じており、子育て期の教職員・学生は男女共に肉体的精神的な疲労を感じていることが分かる。疲れを軽減するような方策ができれば、子育て期の教職員・学生の大きなサポートとなるだろう。

表 7　性別と「f 疲労、睡眠不足、ストレスなど」のクロス表

f 疲労、睡眠不足、ストレスなど			
性別	該当の有無		
	該当する	該当しない	合計
女性	122	50	172
	70.9%	29.1%	100%
男性	101	77	178
	56.7%	43.3%	100%
合計	223	127	350
	63.7%	36.3%	100%

χ^2＝27.3　p<0.01

5、ワークについて

ここでは、全回答者の仕事上のストレス、大学教員の研究領域、職階、研究キャリアや昨年の教育研究の業績など、ワーク（仕事）に関することについてまとめていく。

仕事上のストレス

Q16 では、「忙しすぎること」、「出勤・通学したくないと感じること」があるかなど、仕事上のストレスに関して質問している。

全回答者の結果をまとめたのが図 45 である（詳しい数値は巻末の資料 2 を参照してほしい）。

まず、「A 忙しすぎると感じること」、「B 出勤・通学したくないと感じること」で「よくある」、「ときどきある」という人が多い。A では、「よくある」が 41.5%、「ときどきある」が 41.0%を占めており、合わせて 8 割以上の人が忙しすぎると感じている。Bについても、「よくある」が 23.3%、「ときどきある」が 37.1%を占めている。

C「今の仕事・就学を辞めたいと思うこと」、D「会議等で発言しにくいと思うこと」についてもほぼ半数の人が、「よくある」「ときどきある」と回答している。

一方、E「性別に寄って異なる処遇があると感じること」、F「職場・学校に何でも話せる人がいないと感じること」については、この中では比較的感じる人が少ない。

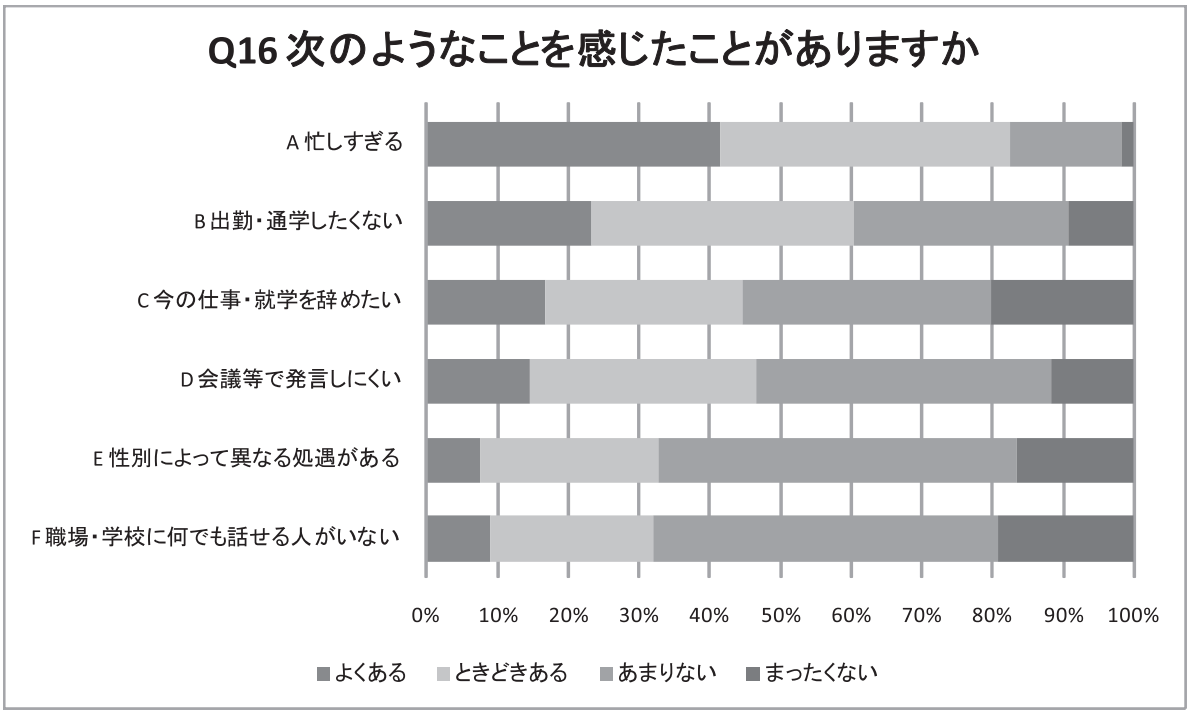


図 45　仕事上のストレスの経験

ただし、これらは職種や性別によって異なることが推測されるため、職種別と性別に各項目についてまとめたものが、以下の図 46 である。

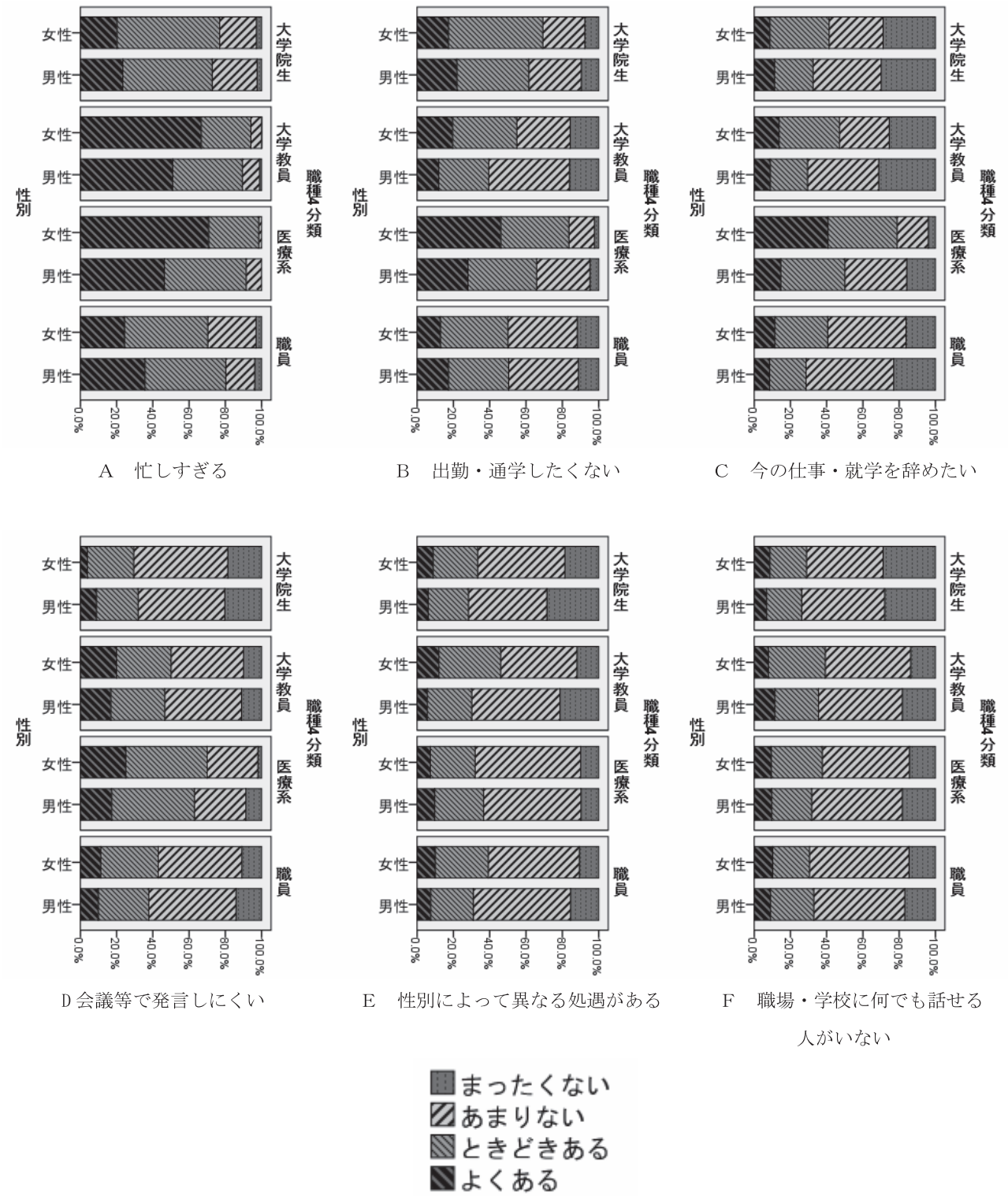


図 46　職種別・性別の仕事上のストレスの経験

「A忙しすぎる」については、どの職種、性別でも感じる人が多いが、大学院生や職員に比べると、大学教員や医療系で「よくある」と強くストレスを感じている人が多い。

「B出勤したくない」、「C今の仕事を辞めたい」、「D会議等で発言しにくい」では、医療系、特に女性に「よくある」「ときどきある」という人が多い。特に「C今の仕事を辞めたい」では医療系の女性で、

「よくある」「ときどきある」という人の割合が際だって高く、現在の山形大学の職場環境に満足していない人が大半であることが分かる。

「E性別によって異なる処遇がある」、「F職場・学校に何でも話せる人がいない」は、どの職種・性別でも比較的感じた経験が少ない項目であり、性別による差別や職場等での孤立などの問題は少ないようである。ただし、「E性別によって異なる処遇がある」については、大学教員の女性で、他職種・性別の人より「よくある」「ときどきある」という人が若干多いことから、大学教員の女性では性別による差別を感じる人もいることがわかる。

仕事上のストレスの経年変化

ここでは、Q16で聞いた仕事上のストレスに関して、事業実施前の平成20年度の調査結果と、事業実施中である今年度の調査結果を比較し、経年変化をみる。なお、この2年度の調査とも調査対象は同じであり、大学院生と教職員全てである。回収率も平成20年度が45.6%、今年度が48.2%とほぼ同程度であった。

結果をまとめたのが表8である。まず割合（%）の数値は、Q16で「よくある」「ときどきある」と回答した人の合計が、全回答者にしめる割合である。それを男女別、また、年度別に数値を表している。さらに、一番右の経年変化の欄に、結果を見やすくするため、表中の注1の通り、0から2ポイント未満の変化を：変化なし、2から8ポイント未満の変化を改善または悪化、8ポイント以上の変化を大きく改善または大きく悪化、と記した。

表をみると、「C　今の仕事・就学を辞めたい」が女性では、それほど変化が見られなかったが、それ以外の項目では、全て、ストレスの経験を感じる割合が減少しており、職場環境が改善していることがわかる。特に、「D　会議等で発言しにくい」の女性、「E　性別によって異なる処遇がある」の男女、「F職場・学校に何でも話せる人がいない」の女性で、大きな改善がみられ、本事業の効果が見られる。

表8　仕事上のストレスの経年変化

		事業実施前 平成20年度調査	全回答者数	事業実施中 平成22年度調査	全回答者数	経年変化 注1
A　忙しすぎる	女性	**89.4%**	808	**85.2%**	842	改善
	男性	**85.2%**	815	**80.6%**	926	改善
B　出勤・通学したくない	女性	**72.2%**	805	**68.0%**	843	改善
	男性	**56.2%**	813	**53.0%**	926	改善
C　今の仕事・就学を辞めたい	女性	**58.8%**	805	**58.6%**	842	変化なし
	男性	**36.9%**	814	**32.3%**	926	改善
D　会議等で発言しにくい	女性	**63.7%**	791	**54.0%**	826	大きく改善
	男性	**46.2%**	811	**40.0%**	924	改善
E　性別によって異なる処遇がある	女性	**45.4%**	802	**35.5%**	832	大きく改善
	男性	**42.9%**	813	**30.2%**	927	大きく改善
F　職場・学校に何でも話せる人がいない	女性	**42.6%**	800	**33.8%**	842	大きく改善
	男性	**36.8%**	810	**30.8%**	925	改善

注1：　0から2ポイント未満：変化なし　2から8ポイント未満：改善または悪化　8ポイント以上：大きく改善または大きく悪化とした

大学教員の研究領域・職階・研究キャリア

Q4 から 7 では、大学教員、研究員の回答者のみに対して、研究領域や現在の職階、研究のキャリア年数などについて聞いている。

まず、Q4 では研究領域を聞いている。その結果をまとめたものが図 47 であるが、医歯薬学系が最も多く、39.9%（130 人）と約 4 割を占めている。その次に、工学系 22.4%（73 人）、理学系、農学系と続き、いわゆる理系・自然科学系が多い。一方で、文系ともまとめられる社会科学系と人文科学系は、そもそも所属教員数が理系より少なく、またこれらの教員が所属する部局の回収率が比較的低いことから、今回の調査回答者に占める割合は多くない。

次に、Q5 では、現在の職階について聞いている（図 48）。その結果、教授、准教授、助教の 3 カテゴリーの占める割合が高い。

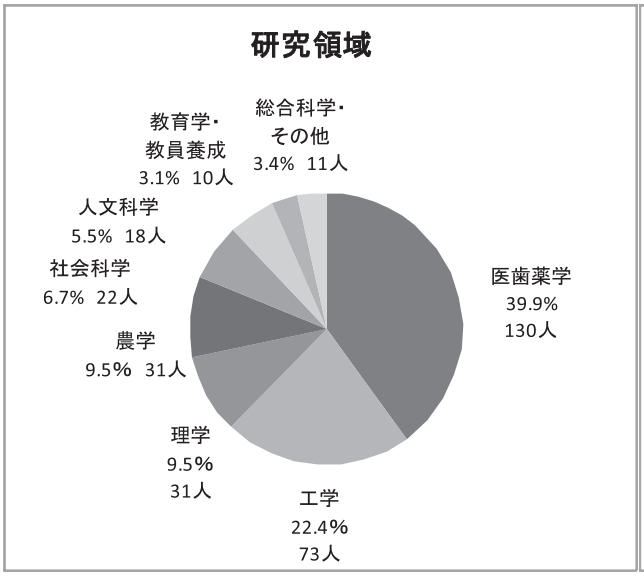


図 47　研究領域

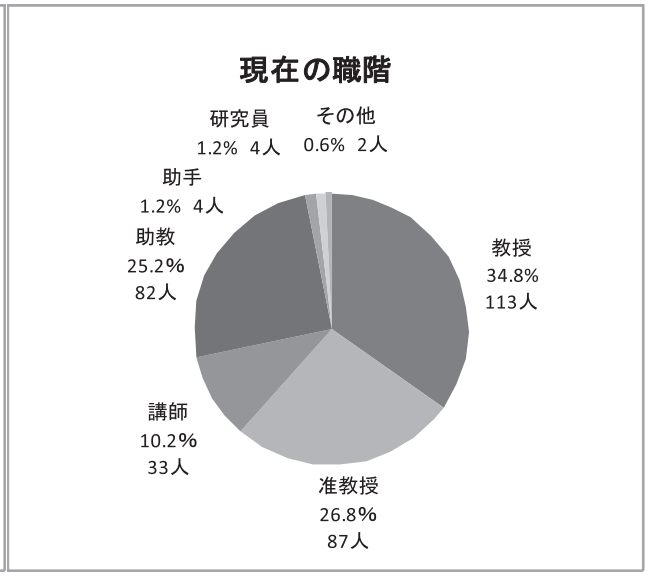


図 48　職階

性別に現在の職階について見ると（図 49）、女性では助教（42.2%）や講師（13.3%）の割合が高い一方で、男性では教授（39.8%）や准教授（28.1%）の割合が高い。

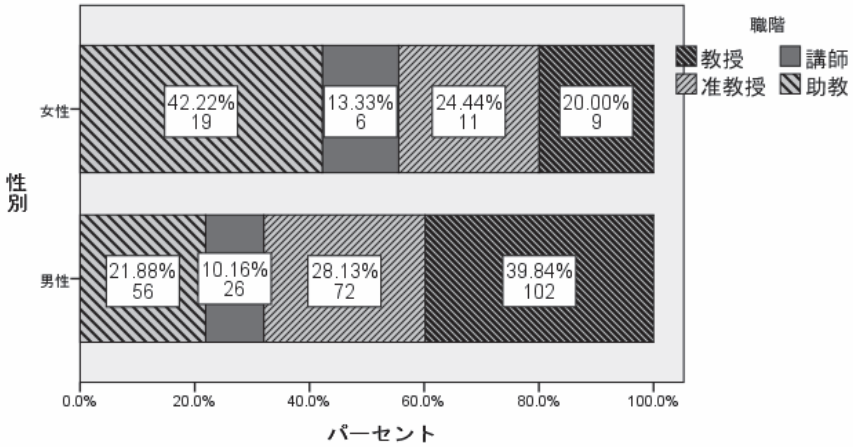


図 49　男女別の職階

Q6 では、キャリアの年数（初めて大学・研究機関等に勤めてからの通算年数）を聞いている。それを性別にまとめたのが次の図 50 である。その結果、男女ともおおむねピラミッド型になっており、15 年以下など、短いキャリアの人の数が多い。男女別では、女性では全体の人数が多くないためはっきりしたことは言えないが、15 年以上のキャリアを持つ人は、数人ずつしかおらず、長いキャリアを持つ人は多くないことが分かる。

平均キャリア年数を計算すると、男女計で 13.9 年、女性で 10.3 年、男性では 14.5 年となっており、男性の方が長い傾向がある。

また、キャリアの中で出産・育児による中断があった人には、その中断年数を聞いているが、中断があると答えた人は多くなく、合計 13 人（女性が 6 人と男性が 7 人）であった。中断した年数はいずれも 1 年未満から 3 年以内と比較的短期間であった。

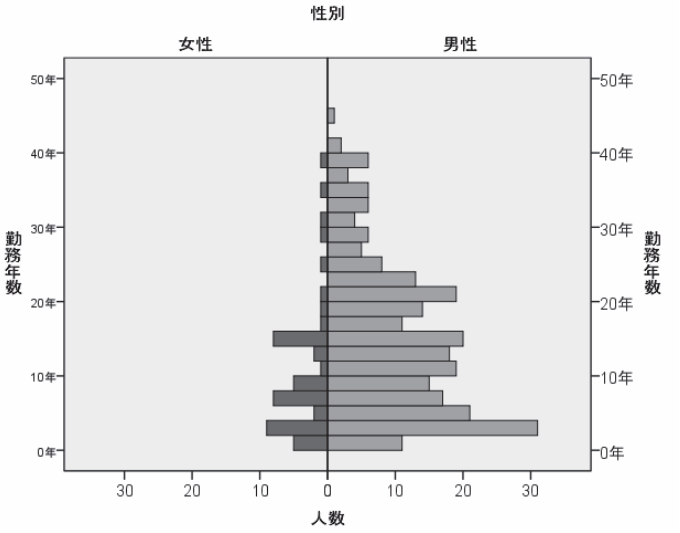


図 50　男女別の研究キャリア年数

大学教員の教育研究活動

Q7 では、昨年度（平成 21 年度）1 年間の教育・研究究動の他、学内外の会議数等を聞いている。

具体的には、勤務や教育活動について、学期中の大学での勤務日数が平均すると週何日か、夏休み等長期休業中の大学での勤務日数が平均すると週何日か、授業・実習などのコマ数が平均すると週何コマか、他大学で非常勤講師を行っている場合は平均すると週何コマか、学生の研究指導の時間数は平均週何時間か聞いている。

また、学内外の業務について、学内の会議、学外の会議（地方公共団体等の委員）、学外の会議（学会や研究会の会合）の回数（平均月何回か）を聞いている。研究業績等について、国内出張と海外出張の回数（昨年度 1 年間）、学術誌（紀要・共著を含む）の掲載論文数（昨年度 1 年間）を聞いている。

平均値をまとめると以下の表 9 のようになる。留意して頂きたい点として、長期休業中の勤務日数（週）では他の項目よりも、該当人数が 100 人ほど少ない。これは、夏休みなど学生の長期休業とは関係なく勤務している人が、「2 長期休業はない」を選択しているためで、これらの人を分析から除いているためである。また、授業実習コマ数（週）以下で、「2 受け持ちがない」という人は、分析から除外するのではなく、0 として数値を入力している。

表 9　昨年度の教育研究活動

	人数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
学期中の勤務日数（週）	301	.00	7.00	4.97	.85
長期休業中の勤務日数(週)	197	.00	7.00	4.65	1.14
授業実習コマ数（週）	291	.00	12.00	2.99	2.50
非常勤コマ数（週）	276	.00	3.00	.23	.53
学生指導時間数（週）	289	.00	50.00	7.10	8.48
学内会議数（月）	297	.00	20.00	3.68	3.53
学外会議(委員等)数（月）	284	.00	10.00	.50	1.05
学外会議(研究）数(月)	289	.00	10.00	.83	1.15
国内出張日数（年）	289	.00	86.00	14.61	15.01
海外出張日数（年）	280	.00	45.0	4.59	7.67
論文数（年）	290	.00	23.00	2.89	3.46

男女別の数値については、巻末の資料 2 の平均値の差を参照してほしいが、これらの多くの項目で、男性の方が高い数値になる傾向がある。例えば、学生の指導時間（週）、学外会議（委員等）数（月）、論文数（年）などに男女差が見られ、いずれも男性の方が高い数値になっている。

ただし、これらの項目については、性別以外に研究キャリア年数、研究分野、職階（教授・准教授・講師・助教等）によって大きく活動の形態が異なるために、数値が異なっている可能性がある。そのため、それらの変数を統制（コントロール）したうえでも、男女差が見られるか、検討しなければならない。

昨年度のアンケート結果の分析（男女共同参画推進室　2010）では、独立変数として性別の他に、研究キャリア年数、研究分野、職階を統制変数として投入し、これらの教育研究活動を従属変数として、重回帰分析を行った。その結果、例えば、男性の方が長い傾向がある学生の研究指導の時間については、研究分野の影響はあるが、性別の影響は見られなかった（具体的には医歯薬学を基準とすると、工学、農学が長く、人文社会科学は短いが、男女の差は見られない）。論文数など、その他の教育研究活動についても、研究分野や職階の影響はあるが、男女でどちらが高いということはできなかった。

そのため、男性の方が、これらの教育・研究や学内外の業務で量的に成果を出していると考えられる場合も、それが性別によるものとは断定できない。まずは、研究分野や職階の差に注目すべきであろう。

6、ワークライフバランスについて

ここでは、これまでまとめたライフ（生活）とワーク（仕事）の現状のもとで、山形大学の教職員・大学院生がワークライフバランスをとることができているか、またワークライフバランスに関する問題があるとすれば、それは何かについてまとめている。

仕事・研究の阻害要因

Q14 では、現在、仕事・研究を行う際に障害となっている要因を３つまで選択してもらっている。学生と職員では異なるため、ここでは、職種と性別に結果をまとめる。職種については、スペースの都合上、大学院生、大学教員と、職員または医療系という３カテゴリーにまとめる（図 51）。

	大学院生・女性 n=104	大学院生・男性 n=363
職場・研究室の人間関係	32.7	26.7
主となる業務と関係のない業務	22.1	30.6
管理的事務	4.8	7.7
研究・業務費の金額	22.0	31.1
スペース・設備	28.8	41.9
研究・業務の時間が十分取れない	22.1	24.5
研究・業務を補助する人がいない	7.7	17.9
女性（男性）であるための差別	2.9	1.7
妊娠・出産	12.5	1.9
育児・教育	7.7	1.7
介護・看病	2.9	1.7
家事	17.3	5.8
家族の人間関係	4.8	3.6
その他	8.7	3.9

	大学教員・女性 n=51	大学教員・男性 n=256
職場・研究室の人間関係	11.8	14.1
主となる業務と関係のない業務	49.0	56.3
管理的事務	19.6	30.9
研究・業務費の金額	33.3	41.8
スペース・設備	11.8	24.2
研究・業務の時間が十分取れない	43.1	39.8
研究・業務を補助する人がいない	39.2	35.9
女性（男性）であるための差別	2.0	0.0
妊娠・出産	3.9	4.7
育児・教育	19.6	0.8
介護・看病	5.9	2.0
家事	5.9	0.0
家族の人間関係	5.9	4.3
その他	9.8	8.4

	職員または医療系・女性 n=674	職員または医療系・男性 n=295
職場・研究室の人間関係	31.8	33.9
主となる業務と関係のない業務	40.8	42.0
管理的事務	8.0	13.9
研究・業務費の金額	5.6	14.9
スペース・設備	8.0	14.2
研究・業務の時間が十分取れない	26.3	22.7
研究・業務を補助する人がいない	15.3	18.6
女性（男性）であるための差別	3.6	2.0
妊娠・出産	9.6	0.7
育児・教育	16.2	6.4
介護・看病	8.8	4.4
家事	22.6	5.1
家族の人間関係	6.2	2.4
その他	5.2	5.1

図 51　仕事・研究の障害となっている要因・選択率（％　３つまで選択）

図 51 を見やすくするために、それぞれの職種、性別で選択する人が多かった順に、1 位から 14 位に並び替えたのが表 10 である。黒に白抜きの要因は、時間や補助人員などに対し、仕事量が多いという項目、灰色の要因は家庭面での責任の項目としている。上が女性、下が男性の結果である。

結果として、まず、どの職種、性別においても「主となる業務と関係のない業務」や「研究・業務の時間が十分とれない」など黒に白抜きの項目が、上位に来る傾向がある。また、「女性（男性）であるための差別」や「家族の人間関係」等は、下位にとどまっている。

職種別に見ると、大学院生が他と比べて上位の要因が異なる。まず、研究の「スペース・設備」や「研究・業務費の金額」が上位になっており、これらに対する不満が大きい。また、男女とも（特に女性では 1 位）に、「職場・研究室の人間関係」が上位に選ばれている。山形大学においては理系の大学院生が大部分であるが、これらの分野では、研究室において複数のメンバーとともに研究をすることが多いため、人間関係での不満があるようである。ただし、後述するが大学教員では、この「職場・研究室の人間関係」は中位にとどまっていることから、人間関係で悩むことが多いのは、職場・研究室において下位にいる人が多いと考えられる。性別では、「家事」、「妊娠・出産」、「育児・教育」等が、男性より女性で上位になる傾向がある。

大学教員では、他の職種に比べて、「研究・業務費の金額」、「管理的事務」が、男女ともに比較的上位になっている。一方で、先述した「職場・研究室の人間関係」は中位にとどまっている。

類似した設問が、独立行政法人森林総合研究所男女共同参画室（2009）の調査においても、研究職の職員に対して行われているが、そこでは男女ともに、「職場の人間関係」は半数程度が選択し、「研究・業務と関係のない雑用」に続く 2 位となっている。これは、山形大学の結果と対照的である。その解釈として、山形大学では、森林総合研究所のような研究所等と比較すれば、独立して研究や業務を行う教員が多いため、人間関係に悩まされることが比較的少ないと推測される。ただし、その裏返しと言えるかもしれないが、研究や業務に対しては人員などが少なく、忙しいと感じていると推測される。

最後に、職員または医療系では、やはり男女ともに「職場・研究室の人間関係」が 2 位と上位を占めている。また、このカテゴリーでは、他の職種より男女の差がはっきり出ているのが特徴である。具体的には女性では、「家事」、「育児・教育」、「妊娠・出産」、「介護・看病」など灰色にした項目が上位から中位に固まっている。対照的に男性では、これらの項目は中位から下位にとどまっているに過ぎず、これらの職種の女性では、ライフ、生活や家庭面での責任を担う人が男性より多いため、そちらの責任とワーク、仕事での責任の両立が男性より困難になっていることが分かる。

表 10　仕事・研究の障害となっている要因（選択が多い要因順）

	大学院生・女性	大学教員・女性	職員または医療系・女性
1位	職場・研究室の人間関係	主となる業務と関係のない業務	主となる業務と関係のない業務
2位	スペース・設備	研究・業務の時間が十分取れない	職場・研究室の人間関係
3位	主となる業務と関係のない業務	研究・業務を補助する人がいない	研究・業務の時間が十分取れない
4位	研究・業務の時間が十分取れない	研究・業務費の金額	家事
5位	研究・業務費の金額	管理的事務	育児・教育
6位	家事	育児・教育	研究・業務を補助する人がいない
7位	妊娠・出産	職場・研究室の人間関係	妊娠・出産
8位	その他	スペース・設備	介護・看病
9位	研究・業務を補助する人がいない	その他	管理的事務
10位	育児・教育	介護・看病	スペース・設備
11位	管理的事務	家事	家族の人間関係
12位	家族の人間関係	家族の人間関係	研究・業務費の金額
13位	女性（男性）であるための差別	妊娠・出産	その他
14位	介護・看病	女性（男性）であるための差別	女性（男性）であるための差別

	大学院生・男性	大学教員・男性	職員または医療系・男性
1位	スペース・設備	主となる業務と関係のない業務	主となる業務と関係のない業務
2位	研究・業務費の金額	研究・業務費の金額	職場・研究室の人間関係
3位	主となる業務と関係のない業務	研究・業務の時間が十分取れない	研究・業務の時間が十分取れない
4位	職場・研究室の人間関係	研究・業務を補助する人がいない	研究・業務を補助する人がいない
5位	研究・業務の時間が十分取れない	管理的事務	研究・業務費の金額
6位	研究・業務を補助する人がいない	スペース・設備	スペース・設備
7位	管理的事務	職場・研究室の人間関係	管理的事務
8位	家事	その他	育児・教育
9位	その他	妊娠・出産	家事
10位	家族の人間関係	家族の人間関係	その他
11位	妊娠・出産	介護・看病	介護・看病
12位	女性（男性）であるための差別	育児・教育	家族の人間関係
13位	育児・教育	女性（男性）であるための差別	女性（男性）であるための差別
14位	介護・看病	家事	妊娠・出産

仕事と生活の調和に対する意識

Q11 では性別役割分業観、本学に育児休業取得をしやすい雰囲気があるかなど、仕事と生活の調和に対する意識を聞いている。結果をまとめたのが図 52 である（詳しい数値は巻末資料 2 参照）。

その結果を項目別に見ると、A「子どもの世話は夫婦で協力して行うべきだ」に対しては、「そう思う」、「まあそう思う」という人が大半を占めている。またC「夫に経済力があれば、家事育児は妻がやるべきだ」、D「夫が外で働き、妻は家庭を守るべきだ」などの固定的な性別役割分業観を持つ人は多くない。

さらに、E「日本の大学は女性の教職員が少ない」、F「本学の女性教員はもっと増えてもよい」と回答する人も多く、日本の大学全体に対しても本学に関しても、女性の教職員が少なく、もっと増えてもよいと考える人が多いことが分かる。

しかし一方で、女性の仕事と生活の調和に関しての項目、具体的には、B「結婚は女性にとって不利になることが多い」、G「本学は女性が働きやすい環境が整っている」、H「本学は女性が育児休業を取得しやすい雰囲気がある」については、「そう思う」、「まあそう思う」の合計と「あまり思わない」、「そう思わない」の合計ではほぼ半数ずつになっており、環境が整っていると全面的に言うことはできない状態であるようだ。さらに、男性の育児休業についての質問、I「本学は男性が育児休業を取得しやすい雰囲気がある」では、「そう思う」「まあそう思う」という人は、合計しても 11.4%と少なく、男性の育児休業については、さらに環境が整っているとはいえない状態である。

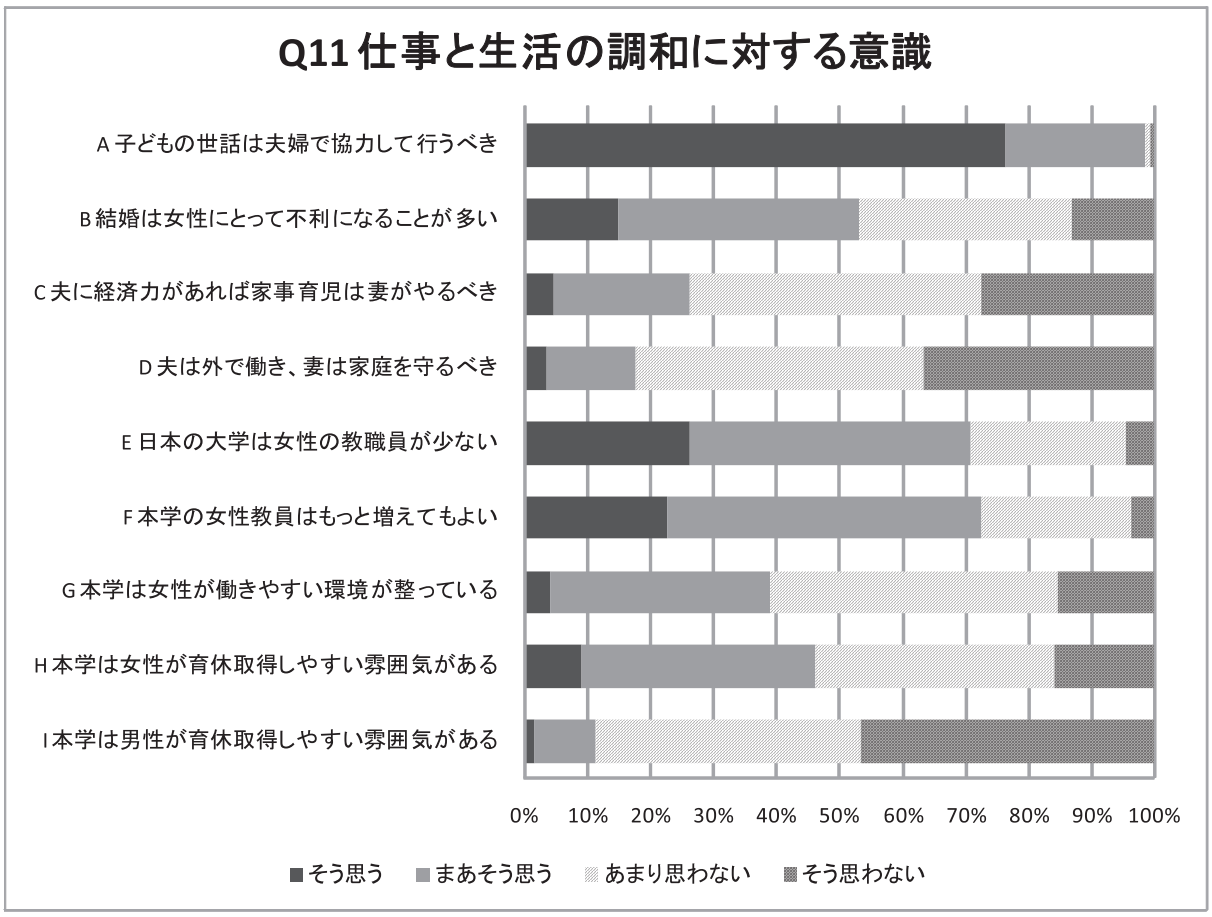


図 52　仕事と生活の調和に対する意識

これらの項目を、職種別、性別にみたのが、以下の図 53 である（ただし、スペースの都合上、全項目についてではなく特徴のある一部のみを示している）。

まず、図示していないがA「子どもの世話は夫婦で協力して行うべきだ」については、どの職種、性別についても「そう思う」、「まあそう思う」が大半を占めていた。

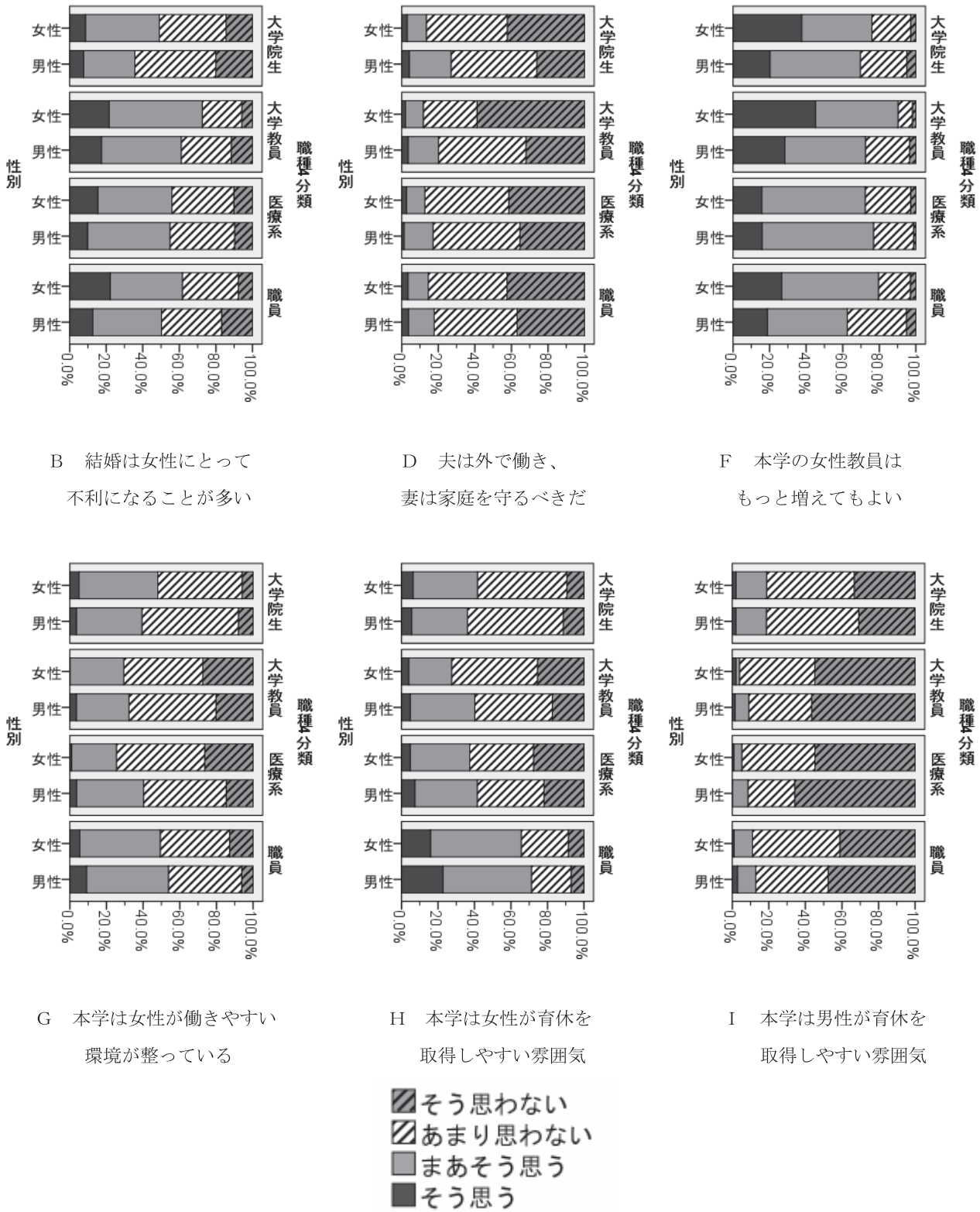
B「結婚は女性にとって不利になることが多い」については、どの職種・性別でも半数近くが、「そう思う」、「まあそう思う」と考えているが、若い世代・結婚をしていない人が多い大学院生では、男女ともにそう思う人が少ない傾向がある。

C「夫に経済力があれば、家事育児は妻がやるべきだ」とD「夫が外で働き、妻は家庭を守るべきだ」は、ほぼ同じ分布をしているため、Dのみ図示したが、これらに賛同する人はどの職種、性別でも多くない。ただし、男性の方が女性よりもわずかであるが、これらの項目で「そう思う」「まあそう思う」が多いという傾向がある。

E「日本の大学は女性の教職員が少ない」、F「本学の女性教員はもっと増えてもよい」はほぼ同じ分布をしているが、どの職種、性別でも「そう思う」、「まあそう思う」という人が多く、中でも大学教員の女性でその傾向が強い。

G「本学は女性が働きやすい環境が整っている」、H「本学は女性が育児休業を取得しやすい雰囲気がある」については、職種で分布が異なり、職員では比較的「そう思う」「まあそう思う」が多い。一方で男女の大学教員や医療系では、「あまり思わない」「そう思わない」が多くなっている。

男性の育児休業についての質問、Ｉ「本学は男性が育児休業を取得しやすい雰囲気がある」については、どの職種・性別でも「あまり思わない」「そう思わない」が大半を占めている。



B　結婚は女性にとって不利になることが多い

D　夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ

F　本学の女性教員はもっと増えてもよい

G　本学は女性が働きやすい環境が整っている

H　本学は女性が育休を取得しやすい雰囲気

I　本学は男性が育休を取得しやすい雰囲気

図 53　仕事と生活の調和に対する意識（職種・性別）

仕事と生活の調和に対する意識の経年変化

ここでは、Q11 で聞いた仕事と生活の調和に対する意識に関して、事業実施前の平成 20 年度の調査結果と、事業実施中である今年度の調査結果を比較し、経年変化をみる。

結果をまとめたのが表 11 である。まず、割合（%）の数値は、Q11 で「そう思う」「まあそう思う」と賛成した人の合計が、全回答者にしめる割合である。それを男女別、また、年度別に数値を表している。さらに、一番右の経年変化の欄には、結果を見やすくするため、表中の注 1 の通り、0 から 2 ポイント未満の変化を「変化なし」、2 から 8 ポイント未満の変化を「増加」または「減少」、8 ポイント以上の変化を「大きく増加」または「大きく減少」と記した。

表をみると、割合が高く変化のない項目（A）や、どちらの調査でも割合が低い項目（I）がある一方で、大きな増加を見せたものもある。例えば、「G　本学は女性が働きやすい環境が整っている」は、女性で大きく増加し、男性で増加している。また、「H　本学は女性が育児休業を取得しやすい雰囲気がある」も男女ともに増加している。現在も賛成する人は半数には達していないとはいえ、本事業の実施により、徐々にではあるが、女性が働きやすい環境や育児休業が取得しやすい雰囲気ができつつあると感じていることが分かった。

また、あまり大きな変化は見られないが、男女で異なる変化を見せており興味深い点として「E　日本の大学は女性教員が少ない」と「F　本学の女性教員はもっと増えてもよい」がある。これらは女性では増加しているが、男性では、事業実施前から既に数値が高かったこともあるが、変化なし、または減少している。特にFについては、7 割以上が賛成しているとはいえ、男女の意見の差が少し広がっているようにも見ることができる。

また、「C　夫に経済力があれば、家事育児は妻がやるべき」と「D　夫は外で働き妻は家庭を守るべき」が女性では増加しており、固定的な性別役割分業意識を支持する人が男性ではなく女性において増えている点も興味深い。

表 11　仕事上と生活の調和に対する意識の経年変化

		事業実施前 平成20年度調査	全回答 者数	事業実施中 平成22年度調査	全回答 者数	経年変化 注1
A　子どもの世話は夫婦で 協力して行うべきだ	女性	99.0%	812	99.4%	844	変化なし
	男性	97.3%	817	98.2%	926	変化なし
B　結婚は女性に不利になることが多い	女性	57.5%	811	58.2%	843	変化なし
	男性	49.1%	816	47.7%	923	変化なし
C　夫に経済力があれば 家事育児は妻がやるべき	女性	19.4%	809	23.2%	842	増加
	男性	31.2%	815	29.5%	925	変化なし
D　夫は外で働き妻は家庭を守るべき	女性	11.0%	809	13.3%	841	増加
	男性	22.2%	815	21.9%	924	変化なし
E　日本の大学は女性教員が少ない	女性	64.4%	807	69.4%	841	増加
	男性	71.7%	812	71.9%	925	変化なし
F　本学の女性教員はもっと増えてもよい	女性	74.2%	801	76.4%	838	増加
	男性	73.3%	812	69.1%	923	減少
G　本学は女性が働きやすい環境が 整っている	女性	27.9%	797	37.1%	831	大きく増加
	男性	37.1%	804	40.9%	915	増加
H　本学は女性が育児休業を 取得しやすい雰囲気がある	女性	39.9%	797	47.2%	829	増加
	男性	40.9%	800	46.0%	913	増加
I　本学は男性が育児休業を 取得しやすい雰囲気がある	女性	6.9%	795	8.8%	827	変化なし
	男性	12.8%	799	13.7%	913	変化なし

注1：　0から2ポイント未満：変化なし　2から8ポイント未満：増加または減少　8ポイント以上：大きく増加または大きく減少　とした

仕事と家庭を両立するために必要な方策

Q13 では仕事と家庭を両立させていくには、どのようなことが必要と思うか聞いている。結果をまとめたのが図54であるが、質問した全ての項目について、「そう思う」、「まあそう思う」と答える人が 7 割から 9 割程度となっており、全てに対して要望が高いことを示している。

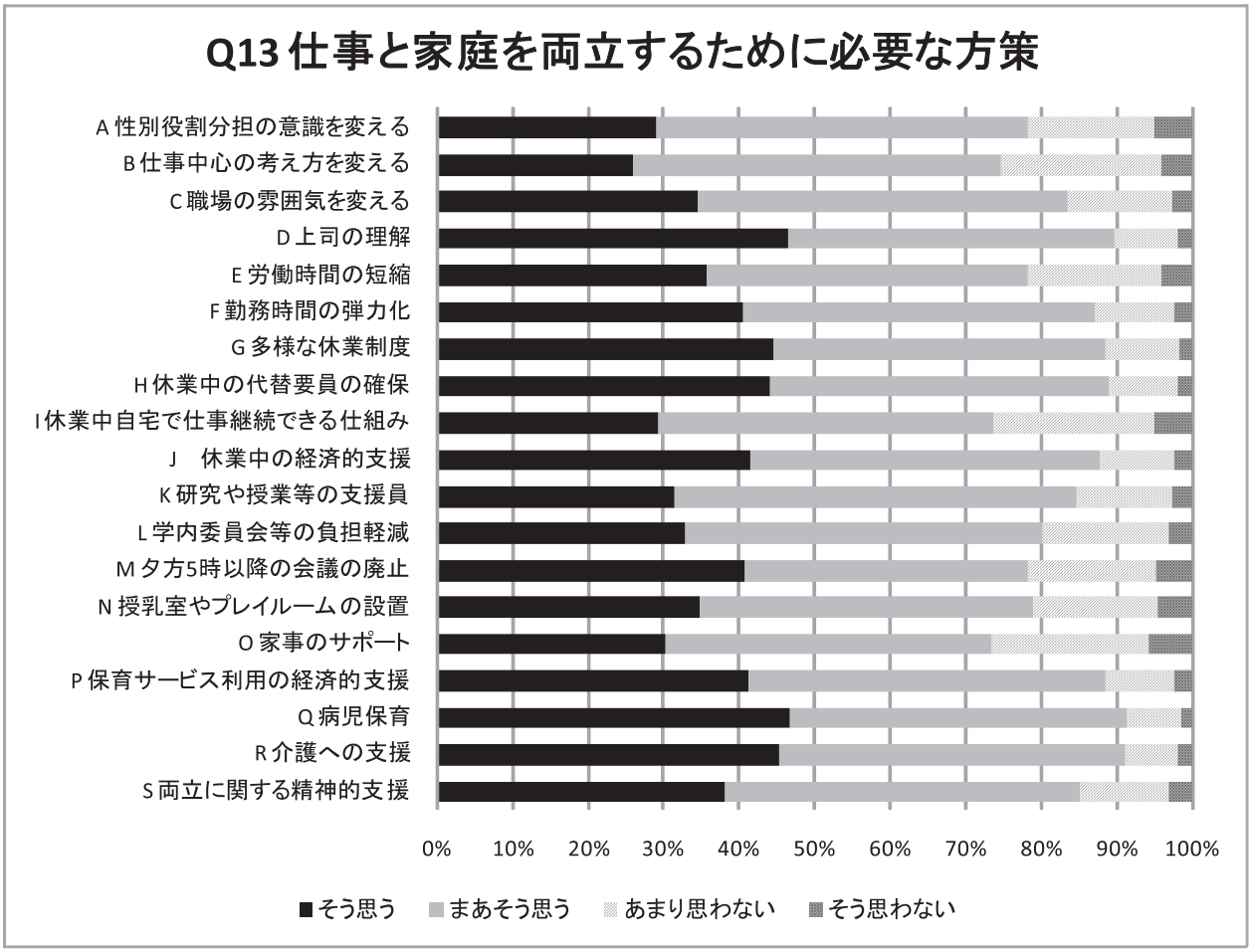


図 54　仕事と家庭を両立するために必要な方策

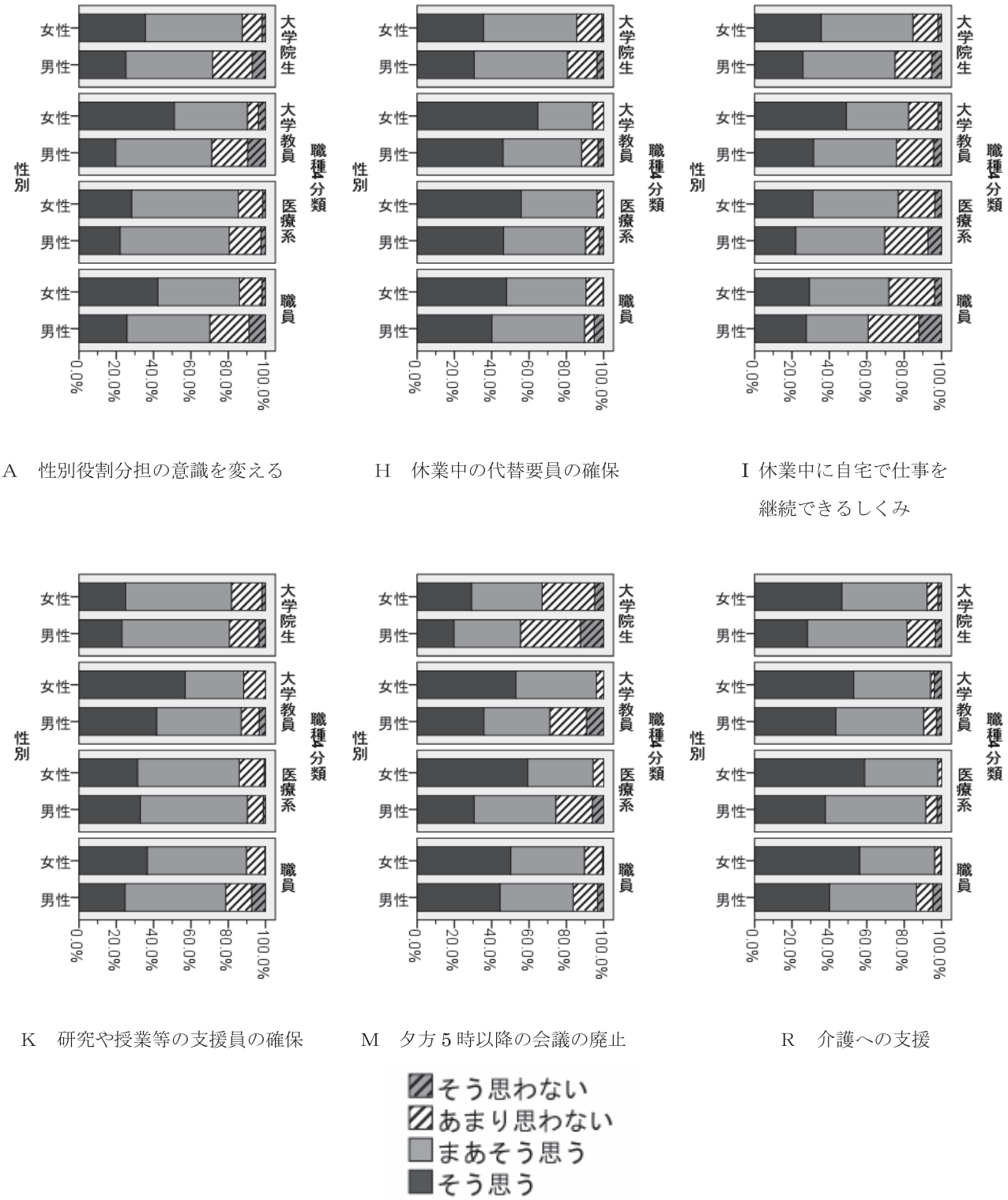
さらに、その中で特徴のあるものを職種別、性別にみたのが図 55 である（スペースの都合上、全項目についてではなく一部の項目のみ）。

その結果、どの項目についても、男性に比較して女性が「そう思う」「まあそう思う」と回答する傾向がある。さらに例えば、A「性別役割分担の意識を変える」、E「労働時間の短縮」やM「夕方 5 時以降の会議の廃止」では、男女差が見られ、これらの方策は女性の方が強く必要と考えているようだ。

また、H「休業中の代替要員の確保」、I「休業中に自宅で仕事を継続できるしくみ」、K「研究や授業等の支援員の確保」については、女性の大学教員において割合が高い。Hは全体でも要望が高い項目であるが、ＩやKについては、全体では他の項目よりは賛成割合が低い項目であった。しかし、女性の大学教員では、「そう思う」という割合が高いため、現在の山形大学の支援事業（ユビキタス・ワーキング・システムの整備と研究継続支援員）はニーズにあった支援策であると言えよう。

また、この質問では、仕事と家庭の両立のための方策というとことで、出産や育児に関する項目が多くなっている。しかし、R「介護への支援」に対しても、どの職種・性別でも、「そう思う」「まあそう

思う」と回答する人が、8割から9割を占めており、ニーズは高いと考えられる。今後、具体的にはどのような支援ができるか考える必要があろう。



A　性別役割分担の意識を変える

H　休業中の代替要員の確保

I 休業中に自宅で仕事を継続できるしくみ

K　研究や授業等の支援員の確保

M　夕方5時以降の会議の廃止

R　介護への支援

図55　仕事と家庭を両立するために必要な方策（職種・性別）

7、次世代研究者の育成

ここでは、本学での次世代研究者の育成を考えるために、女性研究者が少ない理由を全回答者に聞いた結果と、将来の研究者候補である大学院生の経歴と進学や進路の希望について聞いた結果をまとめる。

女性教員が少ない理由について

Q12 では、日本の大学で女性教員や研究者がなぜ少ないか、その理由について、全回答者に対して聞いている。その結果をまとめたのが図 56 である（詳しい数値は巻末資料 2 を参照）。
その結果、「そう思う」と、「まあそう思う」を合わせた割合が 50%を超えている項目を挙げると、F「お手本になるような女性研究者が少ないから」、I「男性を採用する傾向があるから」、G「男性が多い職場だから」、H「労働時間が長いから」、J「家庭と仕事の両立が困難だから」、K「育児期間後の復帰が困難だから」がある。FやIは、高校や大学・大学院で進路を決定する際や採用時の理由であるが、その他のGHJKは、採用された後の働き方、復帰時など職場環境に関する理由となっている。これらの選択率が高いことから、半数程度の人が、山形大学を含めた現在の日本の大学では、女性教員や研究者にとって必ずしも研究・仕事を続けるのが容易ではない、と感じていることがわかる。

一方で、A「社会的な偏見があるから」、C「幼少期から男女で異なった育てられ方をするから」、D「女子に高学歴を期待しない親が多いから」、E「中学や高校での進路指導が適切でないから」など、社会・文化・教育などの理由を選択する人は、上記の職場環境の理由よりは少ない。

また、B「男女間に能力の差があるから」、L「研究に興味を持つ人が本能的性向として女性に少ないから」という生物学的な理由を選択する人も、職場環境の要因を選択する人よりは少なくなっている。

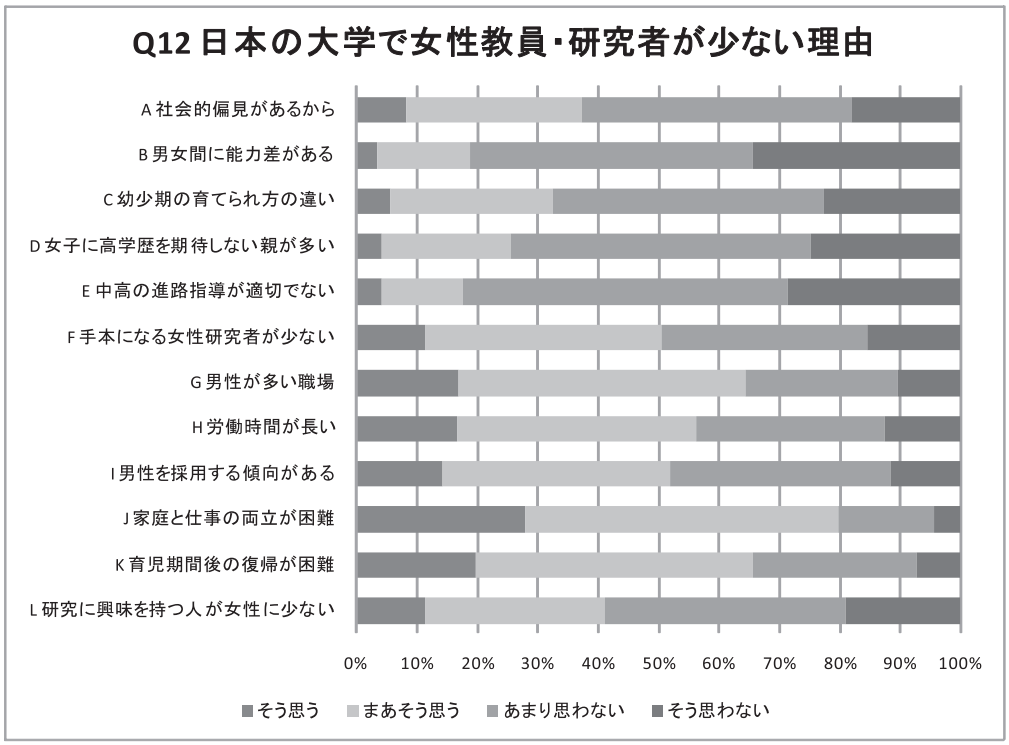


図 56　日本の大学で女性教員・研究者が少ない理由

これらの項目を、職種別、性別にみたのが図 57 である（ただし、スペースの都合上、全項目についてではなく一部の項目のみ示している）。

その結果、A「社会的な偏見があるから」については、全回答者では賛成する割合が他の項目と比べて低いが、大学教員の女性、また職員の女性で賛成する人が多いという特徴がある。

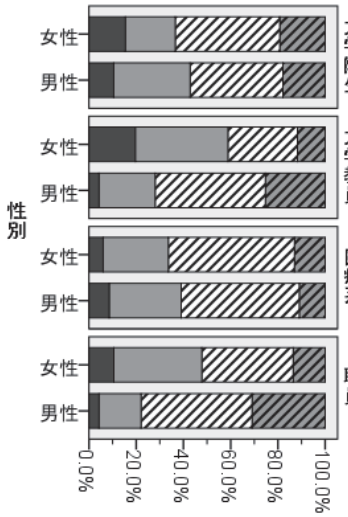
F「お手本になるような女性研究者が少ないから」については、どの職種・性別でも 4 割から 5 割程度が賛成しているが、特に大学院生の女性、大学教員の女性で賛成する割合が高くなっている。次世代の女性研究者候補となる大学院生の女性において、ロールモデルの不足が認識されていることは注目に値するだろう。

H「労働時間が長い」については、職種間で差が見られ、医療系と大学教員では、比較的賛成する割合が高くなっている。

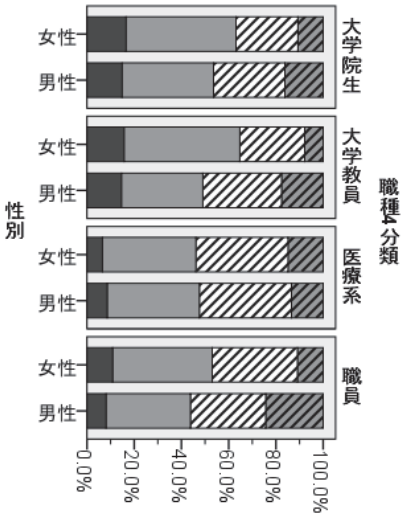
I「男性を採用する傾向があるから」については、比較的男女差がはっきり見られる。どの職種でも女性の方が男性より賛成する割合が高くなっている。特に、大学教員では男女の差が大きい。大学教員は、他の職種と違い、実際に採用された経験があり、また採用の選考過程に関わった経験を持つ人が多くいるカテゴリーである。その大学教員で、採用時の問題に対しての意見で、男女差が大きい点は注目に値する。

J「家庭と仕事の両立が困難だから」は、全回答者でも賛成する割合が最も高い項目である。職種・性別にみても、どのカテゴリーでも賛成する割合が高い。ただ、どの職種でも（特に職員）、女性の方が男性より賛成する割合が高い。

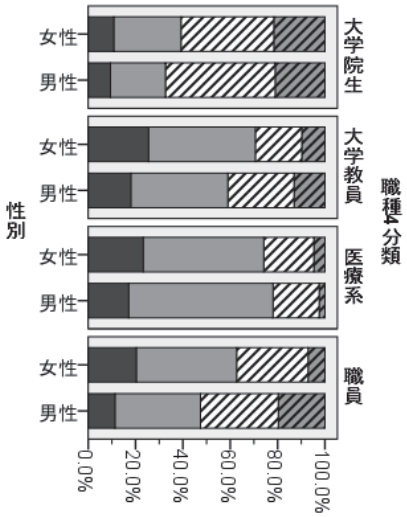
L「研究に興味を持つ人が本能的性向として女性に少ないから」については、比較的職種によって差が見られる。大学院生の男女では賛成する割合が高く、大学教員の男女や医療系の男性では賛成する人は少ない。



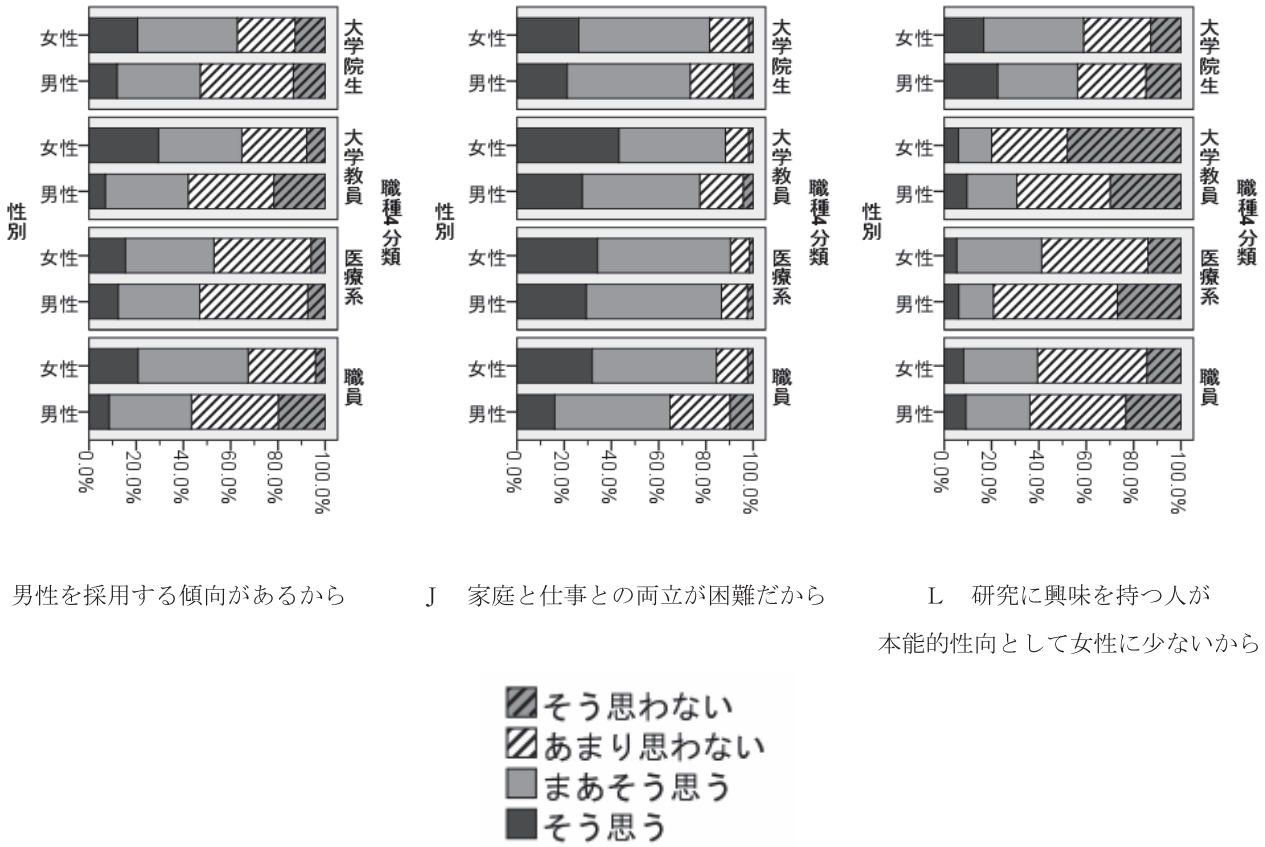
A　社会的な偏見があるから



F　お手本になるような
女性研究者が少ないから



H　労働時間が長い



I 男性を採用する傾向があるから　　J 家庭と仕事との両立が困難だから　　L 研究に興味を持つ人が本能的性向として女性に少ないから

図 57　日本の大学で女性教員・研究者が少ない理由（職種・性別）

出身地・出身校

Q8 では、大学院生の経歴を知るために、卒業・修了した高校、大学学部、修士課程（博士前期課程）の所在地をたずねている。

ある人の出身地を定義するのは難しいが、卒業した高校の所在地を出身地とするなら、図 58 で分かるように、山形県内の出身者が女性では 22.3%、男性では 24.9%となる。それ以外の地域では、女性では、山形県以外の東北地方の出身者が最も多く 46.6%、東北以外の国内・海外の出身者が 31.1%となっている。男性では、東北地方以外の日本国内または海外の出身者が最も多く、42.3%をしめており、山形以外の東北地方の出身者は、32.8%となっている。

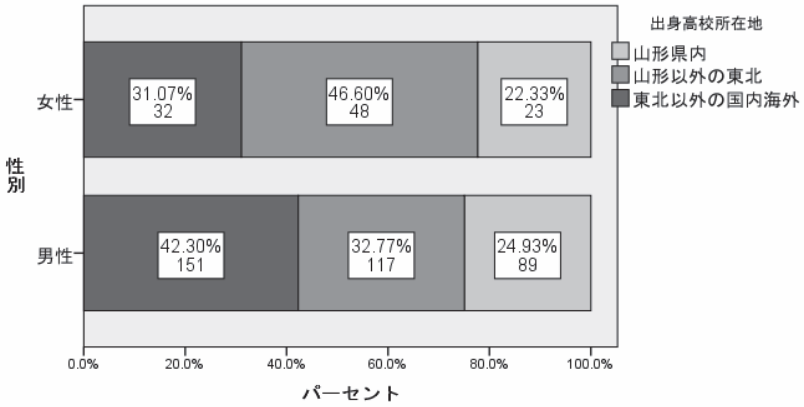


図 58　出身高校の所在地

出身大学（学部）の図 58 については、男女とも山形県内の大学の出身者が大半を占める。女性では 78.4%が、男性では 9 割以上が山形県内の大学出身者である。また、出身大学（学部）の設置者（国公立か私立か）をまとめた図 59 を見ると、男女ともに 9 割以上が国公立の大学出身となっている。これらから、大学院生では、山形大学内部からの進学者が大半を占めていると考えられる。

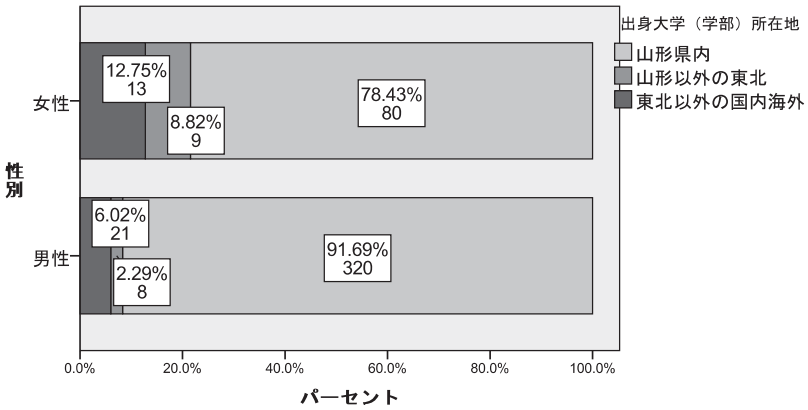


図 58　出身大学の所在地

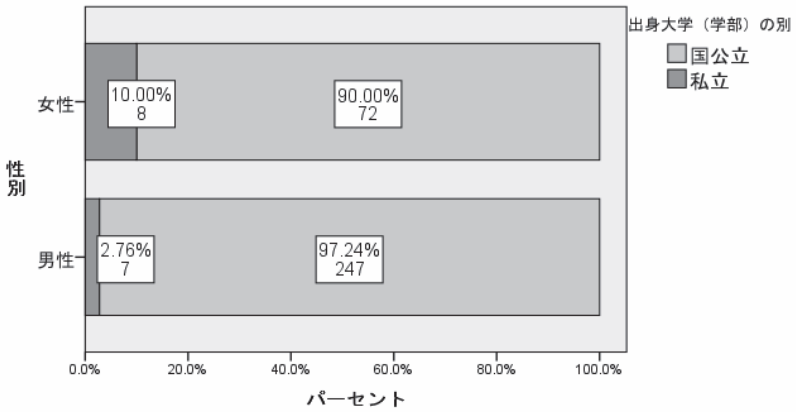


図 59　出身大学の設置者

卒業・修了した修士課程（博士前期課程）の所在地については、該当人数が非常に少ないため、図示しないが、女性では 37.5%（3 人）が東北地方以外の国内・海外であり、62.5%（5 人）が山形県内であった。男性では 11.8%（4 人）が東北地方以外の国内・海外、64.8%（22 人）が山形県内、23.6%（8 人）が、修士課程（博士前期課程）には行っていないと答えている。その他、修士課程（博士前期課程）の設置者（国公立か私立か）については、全ての回答者が国公立と回答している。これもやはり、山形大学内部からの進学者が多いと考えられる。

進学希望と研究者志望の有無

Q9 では、修士課程（博士前期課程）に在学中の学生のみに、現在の課程修了後に博士課程（博士後期課程）に進学を希望するか、また進学希望先は山形大学の大学院か、他大学の大学院かを聞いている。

その結果（図 60）、男女ともに「進学するつもりはない」が 9 割以上を占めている。進学希望者は、

山形大学、また他大学の大学院への進学希望を合わせても、1割に達していない。そして、この傾向に男女差は見られない。

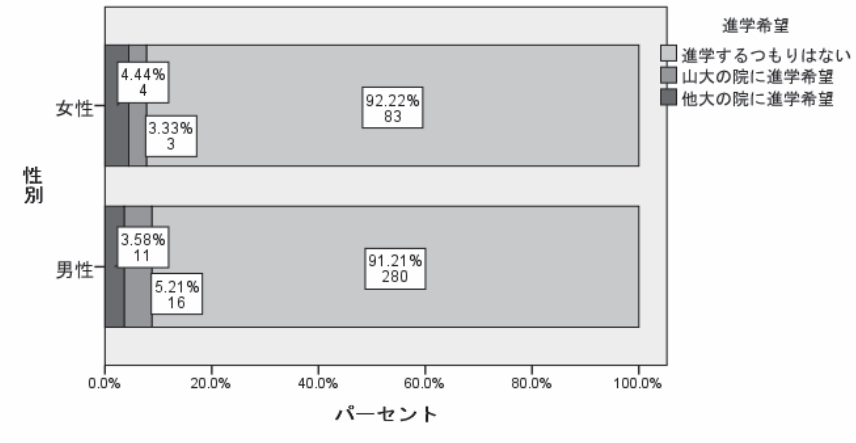


図 60　修士課程後の進学希望

修士課程後、「進学するつもりはない」という人が9割を占めるという上記の傾向を、所属学部別に見たのが、図 61 である。その結果、多くの学部で同様の傾向が見られる。工学部・農学部・理学部では、9割程度が「進学するつもりはない」と答えている。また、人数が少ないため、はっきりしたことは言えないが、地域教育文化学部では、この質問への回答者全てで「進学するつもりはない」と答えている。一方で、回答人数が少ないため断定できないが、進学希望者が多いのが医学部・附属病院と人文学部である。医学部・附属病院では、本学への進学希望者が過半数を占め、また他大への進学希望も多い。また、人文学部では、本学に博士課程がないため、他大の院に進学希望する人が、他部局よりも多い。

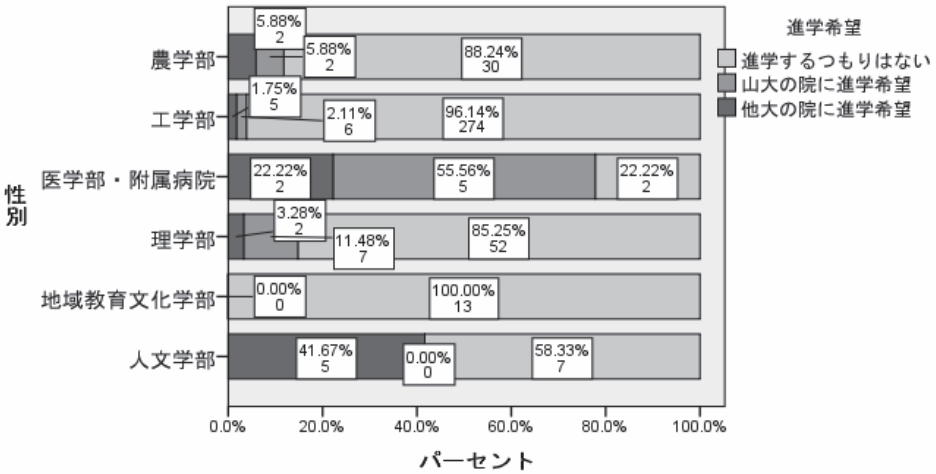


図 61　修士課程後の進学希望（部局別）

この学部による差を裏付けているのが、昨年度の調査結果である。昨年度は大学教員に出身の大学院を聞いているが、その結果をまとめているのが図 62 である（男女共同参画推進室　2009：39）。結論から言うと、多くの学部の大学教員で山形県の大学（山形大学と考えられる）の博士課程の出身が 0%から 6%でしかなかったのに対して、医・附属病院では山形県の大学の博士課程出身が多く（36.7％）、山形

大学の博士課程で学んだ人が、山形大学の教員になっているケースが他の学部よりも多いことが分かる。

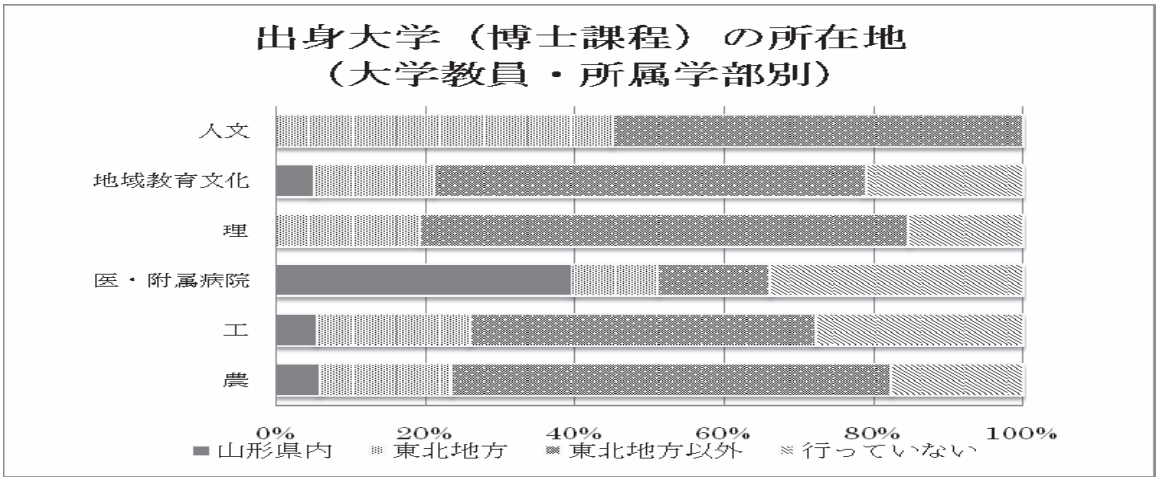


図 62　大学教員の出身大学院（博士課程）の所在地　（昨年度調査）

次に、Q10 では、大学院生全て（修士課程・博士課程在籍者とも）に対して、大学院修了後（進学希望の人については、進学した大学院修了後）に、研究職に就くことを希望しているかを聞いている。

その結果をまとめた図 63 を見ると、男女に大きな差はなく、どちらでも研究職（企業）の回答が最も多く 38%程度を占めている。次に、研究職以外（企業・教員・公務員）が続く（Q10 の 1・2・3 を統合したもの）。研究職（大学・公的機関）になることを希望している人は、男女ともに多くなく、女性では 6.2%、男性では 10.1%に過ぎない。他には、未定・その他（具体的な記述は無回答が大半）と、具体的な希望はまだ決まっていない人が男女とも 2 割弱であった。

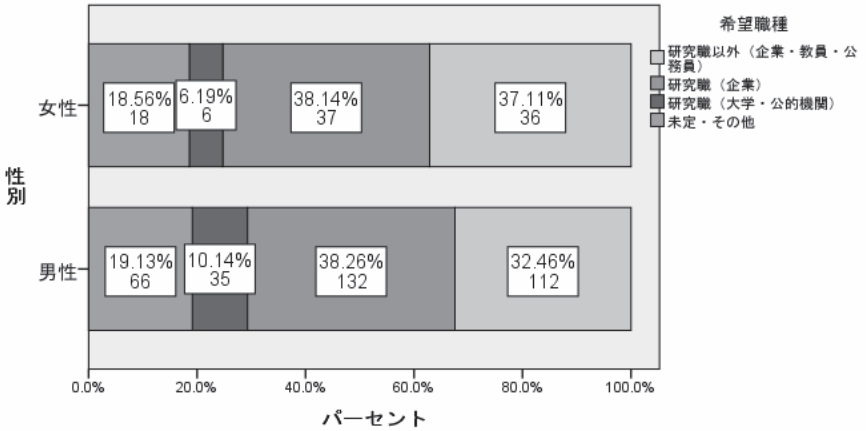


図 63　大学院修了後の希望職種

これまでの Q9 と Q10 の調査結果を見ると、本学の多くの大学院生は、修士課程を卒業後は、博士課程へは進学せず、企業の研究職や研究職以外の職を希望していることがわかる。博士課程へ進学し、大学・公的機関の研究職を目指すというルートを志望している人は多くない。

そして、その傾向に男女差は見られない。そのため、山形大学で女性の研究者を増加させようとする場合も、医・附属病院以外の学部では、自大学の出身者だけにアピールするのでは足りず、積極的に他大学の大学院の出身者、在籍者にアピールする必要があると考えられる。

8、取り組みの周知度

ここでは、男女共同参画に関連する法律や本学の取り組みについての周知度を、性別・職種別・またキャンパス別に結果をまとめる。

法律や本学の取り組みの周知度

Q15 では男女共同参画に関連する法律や本学の取り組みについての周知度を調べるために、「知っている」と「知らない」の 2 件法で質問している。

その結果、図 64 のように、項目によりかなりばらつきが見られる。

国全体の取り組み・法律である A「男女共同参画社会という言葉」は 90.4%（1659 人）、B「男女共同参画社会基本法」は 63.4%（1163 人）と周知度が高い。女性研究者支援モデル育成「山形ワークライフバランス・イノベーション」では、達成目標（ミッションステートメント）として、平成 23 年度までに「男女共同参画社会」という言葉の周知度を 60%とすることを挙げているが、これについては、達成されていることが分かる。

山形大学の取り組みでは、D「男女共同参画推進室の設置（平成 21 年 2 月）」と、C「学長による山形大学男女共同参画推進宣言（平成 21 年 1 月）」など時間的に前に行われた取り組みで比較的周知度が高い。一方で、特定の職種やキャンパスのみが対象となっている事業では、当然ではあるが、全体としては周知度が高くない。

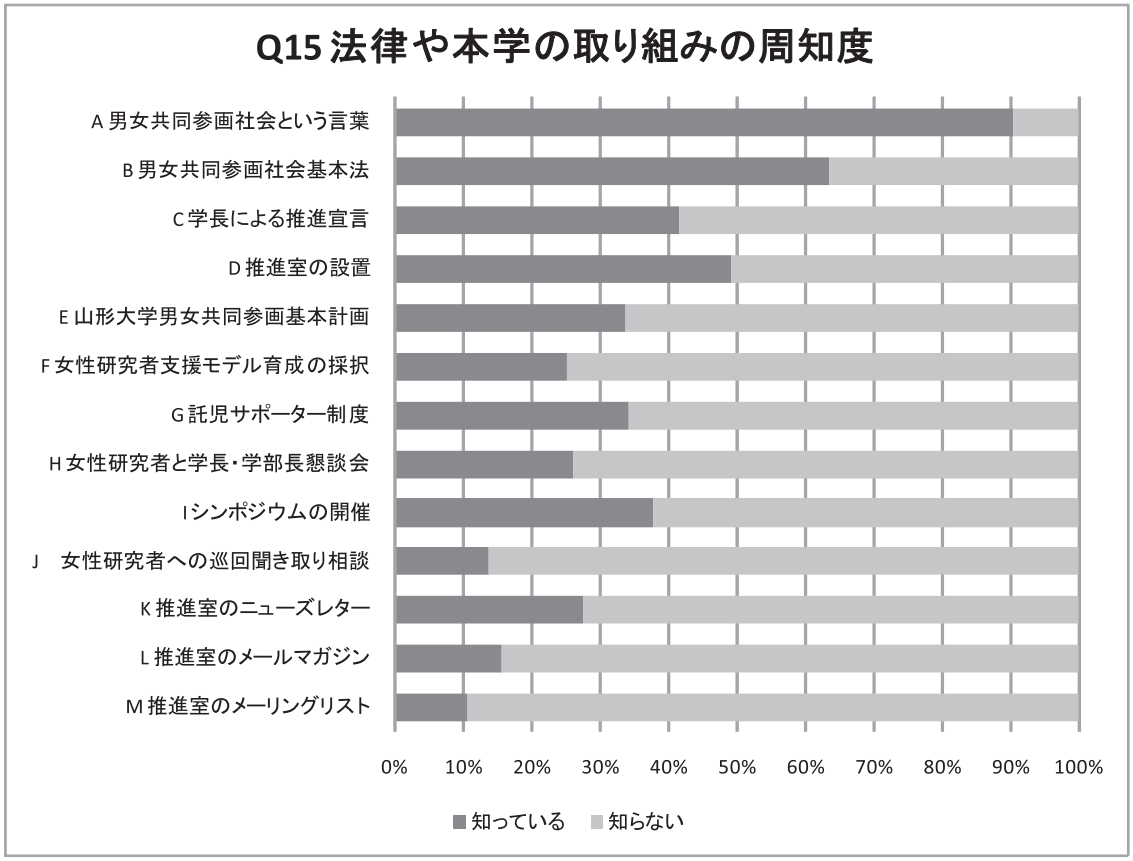


図 64　法律や本学の取り組みの周知度

職種・性別ごとの周知度の違い

ただし、これらの周知度も職種や性別によって異なることが推測される。そのため職種 4 分類と性別に各項目について見たのが、図 65 である（ただし、スペースの都合上、全項目についてではなく一部の項目のみ示している）。

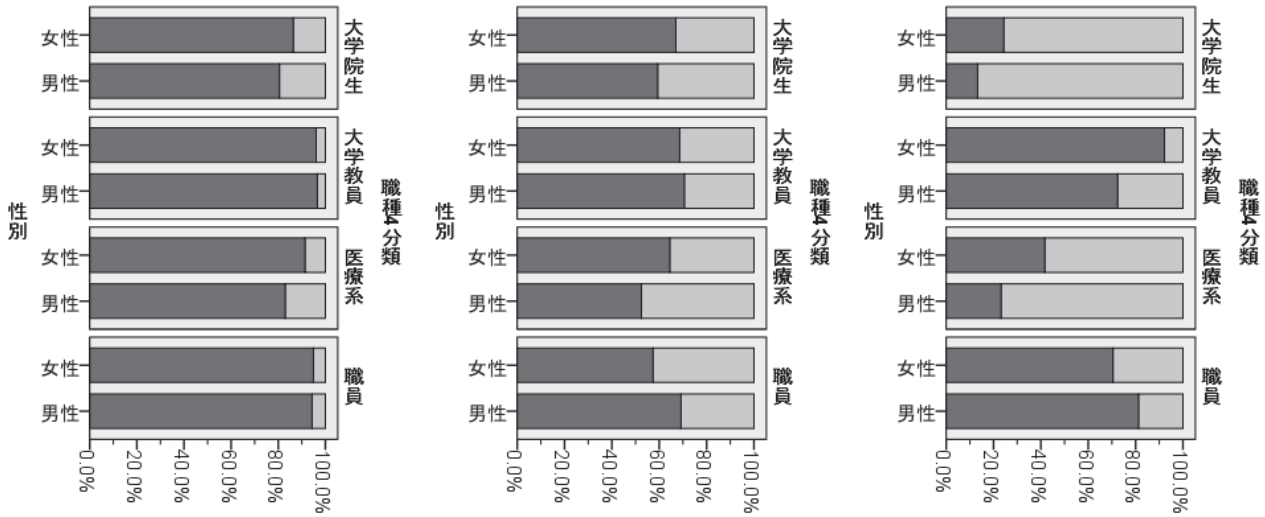
全体的に周知度の高い A「男女共同参画社会という言葉」では、どの職種・性別においても周知度は高い。図示しないが、B「男女共同参画社会基本法」でも、A よりは周知度は低いが、同じようにまんべんなく周知されている。

本学の取り組みでこの中で最も早く出されたC「学長による男女共同参画推進宣言（平成 21 年 1 月）」については、どの職種・性別でも過半数が知っており、周知度が高い。

一方で、D から M までは、職種と性別によって周知度が異なる。DからMまでは、どれもおおまかに同じ分布の形をしており、大学院生と医療系では、男女ともに周知度は低い傾向があり、大学教員や職員で周知度は高い。例えばD「男女共同参画推進室の設置（平成 21 年 2 月）」や、E「山形大学男女共同参画基本計画（平成 22 年 6 月）」、K「男女共同参画推進室のニューズレター」で、その傾向が見られる。

また、女性研究者（教員と博士課程以上の大学院生）が対象の J「全キャンパスでの女性研究者への巡回聞き取り相談」では、当然ながら対象となっている大学教員の女性で周知度が高い。H「各学部での女性研究者と学長・学部長の懇談会」も同様（H では 70.6%36 人）である。

事業の周知は、短期間ではなかなか浸透せず、特に年度ごとに学生が入れ替わる大学院生や、人数が多い医療系などでは、容易ではない。シンポジウムやニューズレターなどをさらに活用し、特に周知度が低い職種に対して広報活動を行う必要があるだろう。



A　男女共同参画社会という言葉　　C　学長による推進宣言　　D　男女共同参画推進室の設置

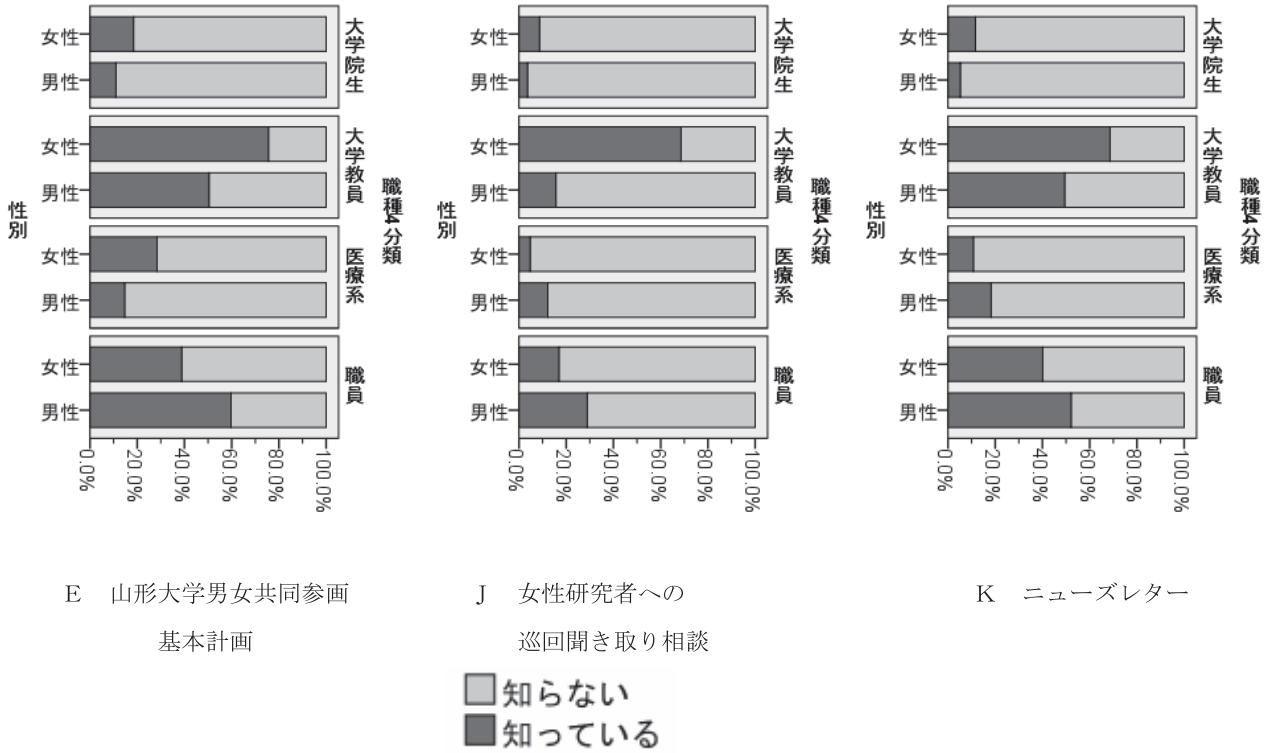


図 65　法律や本学の取り組みの周知度（職種・性別）

キャンパスごとの周知度の違い

これらの周知度は、昨年度のアンケート結果では、キャンパスごとに差が見られた。具体的には、男女共同参画推進室の周知度については、小白川キャンパスと鶴岡キャンパスが高い傾向がある一方で、松波・飯田・米沢キャンパスでは周知度が低かった。その理由としては、小白川キャンパスには男女共同参画推進室のオフィスがあり事業が多かったため、鶴岡キャンパスではキャリアセミナーなどのイベントが多かったため周知度が高くなったと推測される（山形大学男女共同参画推進室 2009：42）。

今年度の結果（昨年度と揃えるため大学院生を除く）をまとめた図 66 でも、小白川と鶴岡キャンパスが高い。その一方で、米沢キャンパス、松波キャンパスでも周知度が上がっていることがわかる。

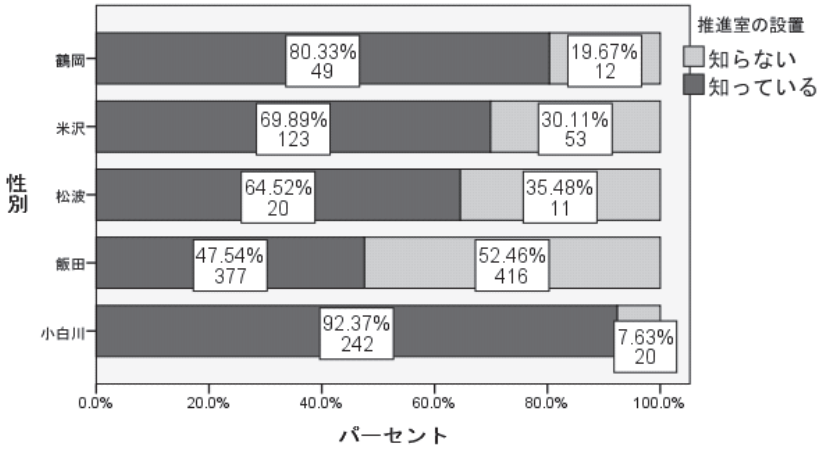


図 66　推進室の周知度（キャンパス別・大学院生を除く）

9、自由記述の分析

Q 25 では、本学における男女共同参画の推進についての自由意見を記述する設問を設けている。本問いについて、468 名が自由意見を記述している。回答は手書きで記述しているため、判読不能な回答もあるが、ここでは自由意見の記述を分析し、本学の教職員・学生が求める男女共同参画の推進について把握する。

分析方法と結果概要

分析にあたっては、自由意見の各々についてインデックスを付け、ＫＪ法を用いて分類した。自由意見の中には、内容が多岐に渡る意見も見られるため、一人の回答に複数のインデックスを付加している。それらのインデックスを整理分類した結果、①職場改善に関する意見、②男女共同参画推進全般に関する意見、③本学男女共同参画推進室の活動に関する意見に集約した。これらの大分類の中には、複数の中分類があり、さらに下位分類に整理することができる。その結果は下図のとおりである。次節では、その詳細について記述する。

① 職場改善に関する意見
- ○職場の現状と改善策、要望
  - ・勤務時間：長時間労働、休日出勤、残業を強いる風潮
  - ・人員数：人員不足
  - ・休暇：育児休業,子供が病気の際の休み,休めない雰囲気,休暇の取れる仕組み作り
  - ・設備：改善要望
  - ・待遇：報酬の低さ
  - ・勤務地の配慮
- ○短時間勤務職員の現状
  - ・改善策の要望
- ○管理職の理解
- ○働きやすい職場環境に向けて

② 男女共同参画推進全般に関する意見
- ○女性研究者の積極的採用についての意見
  - ・必要性
  - ・具体的方策
  - ・慎重論
- ○女性の管理職ポストへの登用についての意見
  - ・現状
  - ・具体策
- ○逆差別への不安
  - ・男性
  - ・独身者
- ○男女共同参画一般論についての意見
  - ・積極的意見と慎重論
  - ・男女の役割分担

③ 男女共同参画推進室の活動に関する意見
- ○推進室が行うべき事柄とその必要性
- ○アンケート調査について
  - ・アンケート調査への要望
  - ・アンケート調査の効果

【職場環境の改善に関する意見】

最も意見が多かったのが、「職場環境の改善に関する意見」である。その中でも、勤務時間と人員不足、休暇についての記述が多く、本学の職場環境について改善を求める声が高い。

勤務時間では、「勤務時間外まで働いているのが当たり前」や「家族のために早く帰宅することが許されない雰囲気」があり、「勤務時間外に行われる会議」で、定時に帰宅することができることは少なく、「精神的にも身体的にも悲鳴を上げている」状況である。人員不足に加え全体的に仕事量が増加しつつある現状も寄せられており、人員の拡充を希望する意見があげられている。

休暇の取得状況についても、人員不足ゆえに休暇を取得しにくい状況に加え、休みを取得しにくい雰囲気にあることが分かる。中には、実際に休暇を希望しても「猛反対された」「怒られた」等の休暇取得を直接拒否された例や、「取らないように説得された」等の休暇取得希望を出せないような雰囲気が、大学全般にあることが分かる。せめて、「子どもが病気のときだけでも、休暇を取得できるようにする」意見が寄せられている。また、制度として休暇の取得を義務付ける等の「ルール化」の要望、育児休業や介護休業のみならず、「ボランティア休暇」等の新たな休暇・休業制度の要望があげられている。このような休暇の取得できない現状を改善するため、休暇を取得しやすい環境づくりを求める声が高い。

職場の設備環境の改善を求める意見もあげられている。学部によっては圧倒的に女性用のトイレが不足していること、悪化している更衣室や休憩室の環境の改善を求める意見、女性研究者が気軽に集まって情報交換のできるスペースの設備等を望む意見があげられている。

勤務地の配慮を求める意見も述べられている。具体的には「夫婦が同居できるように異動時に配慮する」希望がある。

短時間勤務職員の待遇や休暇取得、期限付き雇用の職員の待遇等についても、多くの意見が寄せられている。具体的には、現状では短時間勤務職員が産前産後の休暇を取得する際は有給ではないため、産休や育休中の給与補償を求める声が高い。また、能力のある非常勤職員を常勤職員とする制度を求める意見が寄せられている。

休暇取得の阻害要因の１つとして考えられているのが「管理職の理解のなさ」であり、管理職の意識改革の必要性・緊急性が高い。また「女性の管理職が少ない」ことも、職場の環境改善が図られないことの１つの要因として捉えられている。

このような現状を改善し、働きやすい大学づくり、そして、「結婚、出産をしても誰もが働きやすい」大学を目指すことが強く望まれている。

【男女共同参画推進全般に関する意見】

男女共同の推進全般については、「男女共同参画は必要である」等、山形大学においても男女共同参画の推進を望む意見が数多く寄せられている。その一方で、「男女の役割分担への配慮」を求める意見等、男女共同参画推進への慎重な意見も見られる。

個別の事案については、「女性研究者の積極的採用についての意見」「女性の管理職ポストへの登用についての意見」「男性や独身者への逆差別への不安」等の具体策についての意見が見られる。

「女性研究者の積極的採用」については、積極的に推し進める意見がある一方、慎重に進めるべきであるとの意見も寄せられている。賛成意見では「男女の人数差が大きく」、学部によっては「女性教員と女子学生の数がとても少ない」ため、「女性研究者の増加が必要」であるとの意見が寄せられており、そ

のためには「各学部に女性教員増の人数を割り当てる」こと、そして、積極的改善策を取った場合の「批判も覚悟して行うべき」との意見がある。積極的改善措置への慎重な意見については、「女子学生の比率を見ながら考えるべき」「合理的な根拠があるかを慎重に精査すべき」との意見がある。

女性の管理職ポストへの登用についても、「女性の教員数が少ない」ことに加え、「女性の方が昇進が遅く、昇進の際に男女に差異が生じている」ことについての改善策が求められている。

また、男性や独身者の「逆差別」を心配する意見も多く見られる。「男女共同参画は大学が単体で展開した場合男性への逆差別になる可能性がある」「男女共同参画ではなく女性優遇策になってしまう」「採用等は公平な競争であるべきだ」との「行き過ぎ」の男女共同参画を憂慮する意見に加え、「男女の比率が等しくなることが良いのかどうかはわからない」と、教職員の男女比を是正することへの懐疑的意見も寄せられている。また、独身者であるがゆえに育児中の職員の業務を肩代わりすることにより、業務の負担増に結び付くのではないかと憂慮する意見もあげられている。

その他に、子育てや介護の支援策は「女性だけではなく男性についても支援をすべき」課題であり、「女性も積極的に研究・業務への参画が求められる」等の、女性が積極的に研究業務等へ参画することを促す女性自身の意識改革についての意見も述べられている。

【男女共同参画推進室の活動に関する意見】

男女共同参画推進室の活動に関しても、数多くの意見が述べられている。その半数は男女共同参画推進室の活動を評価し、室の活動についての理解を示す意見が占めている。その一方で、「男女共同参画推進理由の明確化」「何を目標にしているのかわからない」等の男女共同参画推進室の活動のＰＲ不足を示す意見も寄せられている。その他、「男女共同参画推進室が行うべき事柄や具体策とその必要性」「アンケート調査についての意見」、「男女共同参画推進室の活動の不明瞭さ」についての記載が多い。

「男女共同参画推進室が行うべき事柄」については、啓発活動を求める意見、特に「無関心な男性教員」や「管理職」への啓発活動の必要性が高い。また男女共同参画推進室が実施している事業についても「知らなかった」との意見が寄せられており、「情報発信とＰＲの必要性」を求める意見のほか、「メーリングリストの活用」や「ホームページのＱＲコードの附置」等の具体案が述べられている。

そのほか、男女共同参画推進室から「ロールモデルとなる研究者を紹介する」や「他キャンパスでの保育の支援」等、小白川キャンパス以外でも、積極的な支援プログラムを求める意見が多い。

支援プログラムについては、他大学や地域と連携することによる出張時の保育支援プログラム等の方策について寄せられている。また、積極的にプログラムを推進していくために、どのくらいの人数が各種制度を利用しているのか、そして、どのように職場の環境が変化しているかについて、数値を公表することを求める意見がある。

アンケート調査についての意見も数多く見られ、「アンケートを通して男女共同参画を推進していることを知った」等、本アンケート調査を実施すること自体が、男女共同参画室の活動を広報する一役となっていることがわかる。その一方で、本アンケートが男女共同参画推進室の事業に、どのように具体的に反映されるのかを疑問視する意見も挙げられている。

また、調査対象範囲の見直しや、設問数の見直しを求める意見、そして、調査方法・質問内容によって「個人が特定されてしまう」ことへの不安を訴える意見も見られた。本年度から修士課程の学生を調査対象として含めたが、「学生には分からない質問が多い」「学生の立場だと質問に答えられない」との

意見も多数見られる。

男女共同参画推進室の活動を評価し、室の活動についての理解を示す人が増加している一方で、「男女共同参画推進理由の明確化」「何を目標にしているのかわからない」等の男女共同参画推進室の活動のＰＲ不足を示す意見も少なからず寄せられている。

【自由記述分析のまとめ】

男女共同参画の推進についての自由意見では、職場環境改善に関する具体案から男女共同参画推進室の活動、そして男女共同参画推進全般についての考え方を述べる意見など、多岐にわたる意見が寄せられていた。その中には、推進室において、すぐに対応できる広報活動の改善や各種プログラムの利用人数の公表等をしながら、各プログラムの利用増を図る等の意見も含まれている。これらの対応可能な意見について、その意見を次年度の事業運営において活用して行きたい。

一方、職場環境の改善に関する意見では、全学として扱わなくてはならない事案が含まれており、一朝一夕で解決していくことは困難なものも多い。しかし、本学の教職員の抱く意見として、本アンケートの結果を関係部署等に確実に周知し、全学の課題として対応するよう、学内関係部署に理解を求めて行きたい。

参考資料　資料１

形大労第　　37　号
平成　22年　10月　15日

各学部長（附属支援施設等を含む。）
基盤教育院長
附属学校（園）長
山形大学 事務局各部長（監査室、ＥＭ室、
大学連携推進室は室長、国際化主幹は主幹）　殿
小白川事務部長（小白川図書館、附属博物館及び
情報ネットワークセンターを含む。）
保健管理センター所長

山形大学男女共同参画推進室長
理　事　　北　野　通　世

男女共同参画に係るアンケートのお願い（通知）

男女共同参画推進室では、取組みを実のあるものにするために、過去２年度アンケート調査を行って参りました。昨年度は半数以上の皆様にご協力頂き、結果は報告書にまとめるとともに、男女共同参画推進に活用させて頂いております。本年度も下記の通りアンケートを実施いたします。つきましては、お忙しいところ恐縮ですが、個人情報の保護には十分配慮して行いますので、ご協力くださるようお願いいたします。

なお、各部局で回収いただいたアンケート用紙は、11月10日（水）までに男女共同参画推進室へ送付願います。なお、回収率の確認のため、対象者に配付しなかった余りの部数を送付の際に併せてお知らせください。

記

1 実施日程：
①各部局へアンケート用紙の到着　平成22年10月19日（火）まで
②各部局での対象者への配布期間　10月20日（水）～22日（金）
③各部局での回収期限　11月5日（金）
④男女共同参画推進室への送付期限　11月10日（水）

2 アンケート内容：別紙アンケート用紙の通り

3 調査対象者：山形大学の全ての教職員と大学院生
各部局での対象者の数は別紙各部局対象者数の通り

教職員：　定時勤務職員及び短時間勤務職員を含む
医学部にあっては医員及び研修医も含む
各部局の附属支援施設等の教職員を含むので、別紙アンケート用紙のＱ２「所属部局」の欄で確認願います。
大学院生：社会文化システム研究科（修士課程）
教育学研究科の修士課程・地域教育文化研究科の修士課程
医学系研究科の博士課程・博士前期課程・博士後期課程・修士課程
理工学研究科（理学系）の博士前期課程・博士後期課程
理工学研究科（工学系）の博士前期課程・博士後期課程
農学研究科の修士課程・岩手大学大学院連合農学研究科の博士課程（山形大学の教員を指導教員にする学生）
以上の全ての大学院生を含む。
ただし、教育実践研究科（専門職学位課程）、養護教諭特別別科は対象者に含めない。

4　実施方法：過去２年度と同様に、配付及び回収方法を含め各部局に一任します。

［　本件の問い合わせ先：　男女共同参画推進室　調査担当　坂無　淳
Tel:023-628-4939　　E-mail:　sknsj@jm.kj.yamagta-u.ac.jp　］

男女共同参画に係るアンケートのお願い

平成２２年１０月２２日

山形大学男女共同参画推進室　室長（理事）　北野　通世

山形大学は、平成２１年度から文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」に採択され、男女共同参画推進室を中心に男女共同参画を推進しております。その取組みを実のあるものにするために、本学の実態と皆さまの意識の把握が必要であると考え、過去２年度アンケート調査を行って参りました。過去２回とも多くの方々からご回答をいただき、大変感謝しております。その貴重な情報は、報告書にまとめ、男女共同参画推進室の取組みに反映させて頂いております。

報告書は以下の男女共同参画推進室のホームページに公開しておりますので、ご覧ください。

http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/works/toukei.html

上記の目的のため、今年度もアンケートを実施いたします。お忙しいところ恐縮ですが、本学の実態と意識の経年変化をとらえることが必要なため、ご回答をどうぞよろしくお願いします。

個人が特定されることがないように、今回のアンケートも無記名で実施しますので、率直なご意見をお寄せください。記入後は封筒に入れて提出頂くため、各部局の担当係が内容を見ることはありません。また、回収したアンケート用紙は、男女共同参画推進室でのみ扱い、質問項目別に統計的な処理をし、分析終了後は直ちに破棄します。

ご記入後は封筒に入れて、**１１月５日（金）までに**各部局の担当係にご提出ください。

問い合わせ先　山形大学男女共同参画推進室　（小白川キャンパス事務局２階）

e-mail： danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp　　電話： 023-628-4939（内線 4939）

※ここから質問にお答え下さい。

Ⅰ.はじめにあなたの仕事や就学についてうかがいます。

Ｑ１．勤務・就学しているキャンパスについて、あてはまる１つに〇をつけて下さい。

１　小白川　　２　飯田　　３　松波　　４　米沢　　５　鶴岡

Ｑ２．あなたの所属部局について、あてはまる部局の番号に〇をつけて下さい。

１　人文学部・（社会文化システム研究科）

２　地域教育文化学部・（地域教育文化研究科・教育実践研究科・養護教諭特別別科・附属教職研究総合センター）

３　理学部・（理工学研究科（理学系）・放射性同位元素実験室・理学部裏磐梯湖沼実験所）

４　医学部・医学部附属病院・（医学系研究科・医学部図書館・附属実験実習機器センター・医学部情報基盤センター・附属動物実験施設・医学部遺伝子実験施設・環境保全センター・医学部ＲＩセンター・医学部総合医学教育センター・医学部がんセンター）

5　工学部・（理工学研究科（工学系）・工学部図書館・工学部学術情報基盤センター・国際事業化研究センター・工学部国際交流センター）

6　農学部・（農学研究科・附属やまがたフィールド科学センター・農学部図書館・農学部遺伝子実験室・農学部学術情報基盤センター・農学部放射同位元素実験室・岩手大学大学院連合農学研究科）

7　基盤教育院

8　附属学校・附属幼稚園

9　事務局（監査室・研究プロジェクト戦略室・評価分析室・男女共同参画推進室・教育企画室・ＥＭ室・大学連携推進室・学務・入試企画室・国際課主幹を含む）・小白川事務部・小白川図書館・附属博物館・情報ネットワークセンター・高等教育研究企画センター・保健管理センター

Ｑ３．あなたの職種と勤務形態について、お聞きします。

（1）あなたの職種について、最もあてはまる番号１つに〇をつけて下さい。

学生	1　大学院生（修士または博士前期課程）	2　大学院生（博士または博士後期課程）
	3　上記以外の学生	**⇒学生の方はＱ８へ**
大学教員	4　大学教員	5　研究員
職員	6　事務系職員（施設系・図書系を含む）	7　教室系技術職員・教務職員
	8　技能系職員	9　附属学校園教員
医療系	10　医療職員	11　医員及び研修医
その他	12　その他（　　）	

（2）学生以外の方は、勤務形態についてあてはまる番号１つに〇をつけて下さい。

1　常勤　　2　定時勤務職員　　3　短時間勤務職員　　4　その他（　　）

※大学教員、研究員の方はＱ４に、学生の方は次ページのＱ８に、職員・医療系・その他の方は４ページのＱ11 にお進み下さい。

※Ｑ４～Ｑ７は大学教員、研究員の方のみお答え下さい。

Ｑ４．最もあてはまる研究領域を１つ選び、〇をつけて下さい。

1　人文科学系　　2　社会科学系　　3　理学系　　4　工学系　　5　農学系

6　医歯薬学系　　7　教育学系・教員養成系　　8　総合科学系　　9　その他（　　）

Ｑ５．現在の職階について、あてはまる番号１つに〇をつけて下さい。

1　教授　　2　准教授　　3　常勤講師　　4　助教　　5　助手　　6　その他（　　）

Ｑ６．初めて大学・研究機関（山形大学以外を含む）に勤めてから、今年度で通算何年目になりますか。今年度から大学・研究機関で勤務している方はａに〇をつけて下さい。出産・育児による中断があった方は、その年数を含めてご回答下さい。

a　今年度から大学・研究機関で勤務している⇒Q11 へ

b　通算【　　】年目　　（出産・育児の中断期間【　　】年を含む）

Ｑ７. 昨年度（平成 21 年度）の教育研究活動などについてうかがいます。

（１）教育活動について、大学での勤務日数、また担当授業コマ数などをお答え下さい。出講キャンパスが複数にわたる場合、本務校であれば出勤日として下さい。

a. 学期中の大学での勤務日数	平均　週【　　】日	
b. 夏休み等長期休業中の大学での勤務日数	平均　週【　　】日	2　長期休業はない
c. 授業・実習などのコマ数	平均　週【　　】コマ	2　受け持ちはない
d. 他大学の非常勤（集中講義は１科目を１コマ）	平均　週【　　】コマ	2　受け持ちはない
e. 学生の研究指導の時間数	平均　週【　　】時間	2　受け持ちはない

（２）学内外の会議・委員会等への出席回数をお答え下さい。また、研究活動について、出張や学術誌への掲載論文数をお答え下さい。

f. 学内の会議	平均　月【　　】回	2　受け持ちはない
g. 学外の会議（地方公共団体等の委員）	平均　月【　　】回	2　受け持ちはない
h. 学外の会議（学会や研究会の会合）	平均　月【　　】回	2　受け持ちはない
i. 国内出張	昨年度　年【　　】日	
j. 海外出張	昨年度　年【　　】日	
k. 学術誌（紀要・共著を含む）の掲載論文数	昨年度　年【　　】本	

⇒大学教員、研究員の方は記入後Ｑ11 へ

※Ｑ８～Q10 は学生の方のみお答え下さい。

Ｑ８．あなたの卒業・修了（中退を含む）した高校や大学の所在地について、以下の表のあてはまる番号にそれぞれ〇をつけて下さい。また大学等には国公立/私立の別に〇をつけて下さい。複数の大学等を卒業された方は最後に卒業した大学等についてお答え下さい。キャンパスが複数の都道府県にわたる場合は本部所在地ではなく、在学時に最も長い時間を過ごした所についてお答え下さい。

所在地 ／ 学校・職場	行っていない	山形県内	山形県以外の東北地方	東北地方以外の国内・海外	設置者の別に〇をつけて下さい
高校	1	2	3	4	
大学学部	1	2	3	4	国公立・私立
修士課程（博士前期課程）	1	2	3	4	国公立・私立

Ｑ９．修士課程（博士前期課程）の方にお聞きします。現在の課程修了後、博士課程（博士後期課程）に進学しようと考えていますか。あてはまる番号１つに〇をつけて下さい。

1　進学するつもりはない　2　山形大学の大学院に進学したい　3　他大学の大学院に進学したい

Q10. あなたは大学院を修了した後、将来的に研究職に就くことを希望していますか。あてはまる番号１つに〇をつけて下さい。現在の課程後にさらに進学をお考えの方は、進学した大学院修了後の希望についてお答え下さい。

1　研究職以外（企業等）　2　研究職以外（小中高等の教員等）　3　研究職以外（公務員等）
4　研究職（企業等）　5　研究職（大学・公的機関）　6　まだ具体的な希望は無い
7　その他（具体的に　　）

※ここからは全員がご回答下さい。

Ⅱ．仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に関して、お尋ねします。

Q11. 次にあげることについて、あなたの考えに近い番号を選び〇をつけて下さい。

	そう思う	まあそう思う	あまり思わない	そう思わない
A. 子どもの世話は夫婦で協力して行うべきだ	1	2	3	4
B. 結婚は女性にとって不利になることが多い	1	2	3	4
C. 夫に経済力があれば、家事育児は妻がやるべきだ	1	2	3	4
D. 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ	1	2	3	4
E. 日本の大学は女性の教職員が少ない	1	2	3	4
F. 本学の女性教員はもっと増えてもよい	1	2	3	4
G. 本学は女性が働きやすい環境が整っている	1	2	3	4
H. 本学は女性が育児休業を取得しやすい雰囲気がある	1	2	3	4
I. 本学は男性が育児休業を取得しやすい雰囲気がある	1	2	3	4

Q12. 日本の大学で女性教員や研究者が少ない理由について、どう思われますか。あなたの考えに近い番号を選んで〇をつけて下さい。

	そう思う	まあそう思う	あまり思わない	そう思わない
A. 社会的な偏見があるから	1	2	3	4
B. 男女間には能力の差があるから	1	2	3	4
C. 幼少期から男女で違った育てられ方をするから	1	2	3	4
D. 女子に高学歴を期待しない親が多いから	1	2	3	4
E. 中学や高校での進路指導が適切でないから	1	2	3	4
F. お手本になるような女性研究者が少ないから	1	2	3	4
G. 男性が多い職場だから	1	2	3	4
H. 労働時間が長いから	1	2	3	4
I. 男性を採用する傾向があるから	1	2	3	4
J. 家庭と仕事の両立が困難だから	1	2	3	4
K. 育児期間後の復帰が困難だから	1	2	3	4
L. 研究に興味を持つ人が本能的性向として女性に少ないから	1	2	3	4

その他、お考えの理由があれば具体的に記入下さい（　　）

Q13. 男女ともに、仕事と家庭を両立させていくには、どのようなことが必要だと思いますか。あなたの考えに近い番号を選んで〇をつけて下さい。

	そう思う	まあそう思う	あまり思わない	そう思わない
A. 性別役割分担の意識を変えること	1	2	3	4
B. 仕事中心の考え方を変えること	1	2	3	4
C. 職場の雰囲気を変えること	1	2	3	4
D. 上司の理解	1	2	3	4
E. 労働時間の短縮	1	2	3	4
F. 勤務時間の弾力化	1	2	3	4
G. 多様な休業制度	1	2	3	4
H. 休業中の代替要員の確保	1	2	3	4
I. 休業中に自宅で仕事を継続できるしくみ	1	2	3	4
J. 休業中の経済的支援	1	2	3	4
K. 研究や授業等の支援員の確保	1	2	3	4
L. 学内委員会等の負担の軽減	1	2	3	4
M. 夕方５時以降の会議の廃止	1	2	3	4
N. 職場内に授乳室やプレイルームを設置	1	2	3	4
O. 家事のサポート	1	2	3	4
P. 保育サービス利用の経済的支援	1	2	3	4
Q. 病時保育	1	2	3	4
R. 介護への支援	1	2	3	4
S. 両立に関する精神的支援	1	2	3	4

その他、必要なことがあれば具体的に記入下さい（　　）

Q14. 現在、あなたが仕事・研究を行う際に障害となっている要因は何ですか。以下のうちから、主なものを 3 つまで選択し、あてはまる記号に〇をつけて下さい。

A. 職場・研究室の人間関係
B. 主となる仕事と関係のない業務
C. 管理的事務
D. 研究・業務費の金額
E. 研究や業務のスペース・設備
F. 研究や業務時間が十分とれないこと
G. 研究や業務を補助する人がいないこと
H. 女性（男性）であるための差別
I. 妊娠・出産
J. 育児・子供の教育
K. 介護・看病
L. 家事
M. 家族の人間関係
N. その他(具体的に　　)

Q15. 以下の法律や本学の取り組みをご存知ですか。あてはまる番号に〇をつけて下さい。

	知っている	知らない
A. 男女共同参画社会という言葉	1	2
B. 男女共同参画社会基本法	1	2
C. 学長による山形大学男女共同参画推進宣言（平成 21 年 1 月）	1	2
D. 男女共同参画推進室の設置（平成 21 年 2 月）	1	2
E. 山形大学男女共同参画基本計画（平成 22 年 6 月）	1	2
F. 文部科学省平成 21 年度科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」に本学が採択されたこと	1	2
G. 託児サポーター制度（小白川キャンパス）	1	2
H. 各学部での女性研究者と学長・学部長の懇談会	1	2
I. 男女共同参画関連のシンポジウムを毎年開催していること	1	2
J. 全キャンパスでの女性研究者への巡回聞き取り相談	1	2
K. 男女共同参画推進室のニューズレター	1	2
L. 男女共同参画推進室のメールマガジン	1	2
M. 男女共同参画推進室のメーリングリスト	1	2

Q16. 次のようなことを感じたことがありますか。あてはまる番号に〇をつけて下さい。

	よくある	ときどきある	あまりない	まったくない
A. 忙しすぎると感じること	1	2	3	4
B. 出勤・通学したくないと感じること	1	2	3	4
C. 今の仕事・就学を辞めたいと思うこと	1	2	3	4
D. 会議等で発言しにくいと思うこと	1	2	3	4
E. 性別によって異なる処遇があると感じること	1	2	3	4
F. 職場・学校に何でも話せる人がいないと感じること	1	2	3	4

Ⅲ. 最後にあなた自身やご家族についておうかがいします。

Q17. 年齢（10 月 1 日現在）と性別をお答え下さい。あてはまる記号に〇をつけて下さい。

年齢　a. 24 歳以下　b. 25～29 歳　c. 30 歳～34 歳　d. 35 歳～39 歳
e. 40～44 歳　f. 45～49 歳　g. 50～54 歳　h. 55～59 歳　i. 60 歳以上

性別　【　a. 女性　b. 男性　c. ab 以外　】

Q18. 家族構成についてうかがいます。

(1) 配偶者・パートナーの有無や同居・別居について、あてはまる番号に〇をつけて下さい。

1　いない（結婚したことはない）⇒Q19 へ　2　いない（離別・死別）　⇒Q19 へ
3　いる（同居している）　⇒ (2) へ　4　いる（別居している）　⇒ (2) へ

(2) 配偶者・パートナーがいる方にお聞きします。配偶者・パートナーは現在、収入を伴う仕事をしていらっしゃいますか。最もあてはまる番号１つに〇をつけて下さい。

1　していない（家事専業・学生等）⇒Q19へ

2　常勤・フルタイムで就業⇒ (3) へ　　3　非常勤・パートタイムで就業⇒ (3) へ

(3) 配偶者・パートナーが現在、収入を伴う仕事をしていらっしゃる方は、その職種をお答え下さい。

1　会社員（研究職以外）　2　公務員（研究職以外）　3　民間企業の研究職

4　大学教員・公的機関の研究職　5　自営業・家族従業者・農業等　6　その他（　　）

Q19. あなたは、家事や育児・介護を平日にどのくらい行いますか。育児や介護の必要な家族がいない場合は２に〇をつけ、家族はいてもご自身は行わない場合は０分とご記入下さい。

家事・・・・・【　　】時間　【　　】分

育児・・・・・【　　】時間　【　　】分　2　育児が必要な家族はいない

介護・・・・・【　　】時間　【　　】分　2　介護が必要な家族はいない

Q20. お子様の有無や希望についてうかがいます。

(1) あなたは、お子様をお持ちですか。現在妊娠中でまだ生まれていない方は１「いない」に〇をつけて下さい。

1　いない　⇒ (2) へ　　2　いる　⇒ (3) へ

(2) お子様がいない方は、将来持つ希望の有無と、理想の子ども数を記入下さい。

1　ない　⇒Q21へ　　2　ある　（理想の子ども数　【　　】人）⇒Q21へ

(3) お子様がいる方は、年齢別のお子様の人数を記入下さい。また、理想の子ども数を記入下さい。

0～2歳【　　】人　3歳～小学校就学前【　　】人　小学生【　　】人

中学生【　　】人　高校生【　　】人　上記以外【　　】人

理想の子ども数　【　　】人

※現在、中学生以下のお子様をお持ちの方はQ21～Q24にお答え下さい。

※それ以外の方は、Q25へお進み下さい。

Q21. お子様の病気で仕事・大学を休んだ日数についてうかがいます。

(1) お子様の病気で休んだことは、昨年（１月から１２月）、年に何日くらいありましたか。

【　　】日位

(2) 休んだ日数は十分でしたか。あてはまる番号に〇をつけて下さい。

1　十分だった　⇒Q22へ　　2　十分でなかった　⇒ (3) へ

(3) 十分でない場合、何日位休みが必要だと思いましたか。また、休めなかった理由があれば、具体的に記入下さい。

【　　】日位必要　⇒十分休めなかった理由（　　）

Q22. お子様が病気のとき、どのようなサポートがあればよいと思いますか。最も必要だと思うもの１つに〇をつけて下さい。

1　病児・病後児保育　　2　休んだ場合の業務の代替者　　3　育児を理由に休める職場の雰囲気
4　その他（　　）

Q23. 昼間、またあなたが残業する場合に、育児を行っているのは主にどなたですか。それぞれの時間について、以下の表のあてはまる番号に〇をつけて下さい。

育児者／時間	配偶者	子どもの祖父母	保育所	幼稚園	学童保育	本人・きょうだいの自己管理	その他（具体的にご記入下さい）
昼間	1	2	3	4	5	6	
残業する場合	1	2	3	4	5	6	

Q24. 子育てと仕事を両立させる上で、困難に感じることはありますか。次の中からあてはまる記号をいくつでも選んで〇をつけて下さい。学生の方は就学と子育てについてお答え下さい。

a. 仕事に対して家族の理解が得にくい
b. 職場で子育てに対する理解が得にくい
c. 仕事が忙しく子どもにかける時間が削られる
d. 早退、遅刻、休みなど、勤務が不規則になる
e. 仕事が忙しい時のサポート体制が十分でない
f. 疲労、睡眠不足、精神的ストレスなど
g. 仕事と子育てを両立させようとすると不利益を被る
h. 仕事と子育ての両立に関する悩みを相談する人がいない
i. その他　（　　）

※全員がご回答下さい。

Q25. 最後に、本学における男女共同参画推進について、ご意見があればご自由にお書き下さい。

（　　）

以上で終了です。ご協力ありがとうございました。封筒に入れ、各部局へご提出下さい。

資料2　基礎集計　　クロス表（性別×各質問項目）・男女別平均値

Q1. 勤務・就学しているキャンパスについて、あてはまる1つに○をつけて下さい。

所属キャンパス		人数	%	有効%
有効	小白川	366	19.7	19.8
	飯田	833	44.7	45.1
	松波	31	1.7	1.7
	米沢	514	27.6	27.8
	鶴岡	104	5.6	5.6
	合計	1848	99.2	100
欠損値	無回答	14	0.8	
合計		1862	100	

所属キャンパス

		小白川	飯田	松波	米沢	鶴岡	合計
性別	女性	146	543	16	105	30	840
	%	17.38%	64.64%	1.90%	12.50%	3.57%	100.00%
	男性	205	254	15	378	72	924
	%	22.19%	27.49%	1.62%	40.90%	7.79%	100.00%
合計		351	797	31	483	102	1764
		19.90%	45.18%	1.78%	27.38%	5.78%	100.00%

χ^2=282.98　p=0.00

Q2. あなたの所属部局について、あてはまる部局の番号に○をつけて下さい。

	所属部局	人数	%	有効%
有効	人文学部	47	2.5	2.6
	地域教育文化	54	2.9	2.9
	理学部	120	6.4	6.5
	医学部・附属病院	812	43.6	44.1
	工学部	500	26.9	27.1
	農学部	103	5.5	5.6
	基盤教育院	5	0.3	0.3
	附属学校園	59	3.2	3.2
	事務局等	142	7.6	7.7
	合計	1842	98.9	100
欠損値	無回答	19	1.0	
	不正回答	1	0.1	
	合計	20	1.1	
合計		1862	100	

所属部局

性別		人文学部	地域教育文化学部	理学部	医学部・附属病院	工学部	農学部	基盤教育院	附属学校園	事務局等	合計
女性	人数	15	23	40	534	102	29	2	30	64	839
	性別の%	1.80%	2.70%	4.80%	63.60%	12.20%	3.50%	0.20%	3.60%	7.60%	100.00%
男性	人数	30	29	73	245	370	72	1	28	74	922
	性別の%	3.30%	3.10%	7.90%	26.60%	40.10%	7.80%	0.10%	3.00%	8.00%	100.00%
合計	人数	45	52	113	779	472	101	3	58	138	1761
	性別の%	2.60%	3.00%	6.40%	44.20%	26.80%	5.70%	0.20%	3.30%	7.80%	100.00%

χ^2=290.88　p=0.00　　2 セル (11.1%) は期待人数が 5 未満

Q3. あなたの職種と勤務形態について、お聞きします。

(1)あなたの職種について、最もあてはまる番号1つに○をつけて下さい。

	職種	人数	%	有効%
有効	院生（修士）	429	23	23.3
	院生（博士）	44	2.4	2.4
	学生（その他）	19	1.0	1
	大学教員	328	17.6	17.8
	研究員	5	0.3	0.3
	事務系職員	347	18.6	18.8
	教室系技術・教務	62	3.3	3.4
	技能系職員	58	3.1	3.1
	附属学校園教員	53	2.8	2.9
	医療職員	430	23.1	23.3
	医員・研修医	54	2.9	2.9
	その他	14	0.8	0.8
	合計	1843	99	100
欠損値	無回答	15	0.8	
	不正回答	4	0.2	
	合計	19	1.0	
合計		1862	100	

職種

性別		院生（修士）	院生（博士）	学生（その他）	大学教員	研究員	事務系職員	教室系技術教務職員	技能系職員	附属学校園教員	医療職員
女性	人数	91	9	4	49	2	209	23	28	26	361
	性別の%	10.9%	1.10%	0.50%	5.90%	0.20%	25.00%	2.80%	3.30%	3.10%	43.20%
男性	人数	318	32	14	262	1	121	37	28	26	54
	性別の%	34.40%	3.50%	1.50%	28.40%	0.10%	13.10%	4.00%	3.00%	2.80%	5.80%
合計	人数	409	41	18	311	3	330	60	56	52	415
	性別の%	23.20%	2.30%	1.00%	17.70%	0.20%	18.80%	3.40%	3.20%	3.00%	23.60%

性別		医員・研修医	その他	合計
女性	人数	23	11	836
	性別の%	2.80%	1.30%	100.00%
男性	人数	28	3	924
	性別の%	3.00%	0.30%	100.00%
合計	人数	51	14	1760
	性別の%	2.90%	0.80%	100.00%

χ^2=543.44　p=0.00

(2)学生以外の方は、勤務形態についてあてはまる番号1つに○をつけて下さい。

	勤務形態	人数	%	有効%
有効	常勤	951	51.1	75.4
	定時勤務	112	6.0	8.9
	短時間勤務	189	10.2	15
	その他	9	0.5	0.7
	合計	1261	67.7	100
欠損値	無回答	105	5.6	
	非該当	496	26.6	
	合計	601	32.3	
合計		1862	100	

勤務形態

性別		常勤	定時勤務職員	短時間勤務職員	その他	合計
女性	人数	459	74	170	4	707
	性別の%	64.90%	10.50%	24.00%	0.60%	100.00%
男性	人数	451	33	12	5	501
	性別の%	90.00%	6.60%	2.40%	1.00%	100.00%
合計	人数	910	107	182	9	1208
	性別の%	75.30%	8.90%	15.10%	0.70%	100.00%

χ^2=121.46　p=0.00　　1 セル (12.5%) は期待人数が 5 未満

Q4. 最もあてはまる研究領域を1つ選び、○をつけて下さい。

	研究領域	人数	%	有効%
有効	人文科学	18	1.0	5.5
	社会科学	22	1.2	6.7
	理学	31	1.7	9.5
	工学	73	3.9	22.4
	農学	31	1.7	9.5
	医歯薬学	130	7.0	39.9
	教育学・教員養成	10	0.5	3.1
	総合科学	6	0.3	1.8
	その他	5	0.3	1.5
	合計	326	17.5	100
欠損値	無回答	15	0.8	
	不正回答	11	0.6	
	非該当	1510	81.1	
	合計	1536	82.5	
合計		1862	100	

研究領域

		人文科学	社会科学	理学	工学	農学	医歯薬学	教育学・教員養成	総合科学	その他	合計
女性	人数	3	5	2	1	4	28	4	1	0	48
	性別の%	6.30%	10.40%	4.20%	2.10%	8.30%	58.30%	8.30%	2.10%	0.00%	100.00%
男性	人数	13	17	28	67	26	94	6	5	5	261
	性別の%	5.00%	6.50%	10.70%	25.70%	10.00%	36.00%	2.30%	1.90%	1.90%	100.00%
合計	人数	16	22	30	68	30	122	10	6	5	309
	性別の%	5.20%	7.10%	9.70%	22.00%	9.70%	39.50%	3.20%	1.90%	1.60%	100.00%

χ^2=23.76 p=0.003　　8 セル (44.4%) は期待人数が 5 未満

Q5. 現在の職階について、あてはまる番号1つに○をつけて下さい。

	職階	人数	%	有効%
有効	教授	113	6.1	34.8
	准教授	87	4.7	26.8
	講師(常勤)	33	1.8	10.2
	助教	82	4.4	25.2
	助手	4	0.2	1.2
	その他	2	0.1	0.6
	研究員・ポスドク	4	0.2	1.2
	合計	325	17.5	100
欠損値	無回答	16	0.9	
	不正回答	9	0.5	
	非該当	1512	81.2	
	合計	1537	82.5	
合計		1862	100	

職階

		教授	准教授	講師	助教	助手	その他	研究員・ポスドク	合計
女性	人数	9	11	6	19	1	0	2	48
	性別の%	18.80%	22.90%	12.50%	39.60%	2.10%	0.00%	4.20%	100.00%
男性	人数	102	72	26	56	3	1	1	261
	性別の%	39.10%	27.60%	10.00%	21.50%	1.10%	0.40%	0.40%	100.00%
合計	人数	111	83	32	75	4	1	3	309
	性別の%	35.90%	26.90%	10.40%	24.30%	1.30%	0.30%	1.00%	100.00%

χ^2=17.17 p=0.009　　7 セル (50.0%) は期待人数が 5 未満

Q6.初めて大学・研究機関(山形大学以外を含む)に勤めてから、今年度で通算何年目になりますか。

	勤務年数	人数	%	有効%
有効	1年目	18	1.0	5.6
	2～5年	67	3.6	21.0
	6～10年	67	3.6	21.0
	11年～15年	53	2.8	16.6
	16年～20年	44	2.4	13.8
	21年～25年	27	1.5	8.5
	26年～30年	16	0.9	5.0
	31年～35年	14	0.8	4.4
	36年～44年	13	0.7	4.1
	合計	319	17.1	100
欠損値	無回答	22	1.2	
	不正回答	5	0.3	
	非該当	1516	81.4	
	合計	1543	82.9	
合計		1862	100	

	出産育児の中断期間	人数	%	有効%
有効	0.0年	8	0.4	57.1
	0.5年	1	0.1	7.1
	1.0年	2	0.1	14.3
	1.5年	2	0.1	14.3
	3.0年	1	0.1	7.1
	合計	14	0.8	100.0
欠損値	無回答	21	1.1	
	非該当	1827	98.1	
	合計	1848	99.2	
合計		1862	100.0	

Q7.昨年度（平成21年度）の教育研究活動などについてうかがいます。
（1）教育活動について、大学での勤務日数、また担当授業コマ数などをお答え下さい。

学期中の勤務日数（週）		人数	%	有効%
有効	0.0日	4	0.2	1.3
	2.0日	4	0.2	1.3
	3.0日	3	0.2	1.0
	4.0日	16	0.9	5.3
	5.0日	231	12.4	76.7
	5.5日	7	0.4	2.3
	6.0日	30	1.6	10.0
	6.5日	1	0.1	.3
	7.0日	5	0.3	1.7
	合計	301	16.2	100
欠損値	無回答	27	1.5	
	不正回答	1	0.1	
	非該当	1533	82.3	
	合計	1561	83.8	
合計		1862	100.0	

長期休業中の勤務日数（週）		人数	%	有効%
有効	0.0日	6	0.3	3.0
	0.5日	1	0.1	.5
	1.0日	1	0.1	.5
	2.0日	2	0.1	1.0
	3.0日	9	0.5	4.6
	3.8日	1	0.1	.5
	4.0日	20	1.1	10.2
	5.0日	143	7.7	72.6
	5.5日	1	0.1	.5
	6.0日	11	0.6	5.6
	6.5日	1	0.1	.5
	7.0日	1	0.1	.5
	合計	197	10.6	100.0
欠損値	無回答	36	1.9	
	不正回答	1	0.1	
	非該当	1628	87.4	
	合計	1665	89.4	
合計		1862	100.0	

長期休業の有無		人数	%	有効%
有効	無	101	5.4	100.0
欠損値	無回答	36	1.9	
	不正回答	2	0.1	
	非該当	1723	92.5	
	合計	1761	94.6	
合計		1862	100.0	

授業実習コマ数（週）		人数	%	有効%
有効	0	41	2.2	14.1
	0.06～1	54	2.9	18.6
	～2	52	2.8	17.9
	～3	34	1.8	11.7
	～4	29	1.6	10.0
	～5	39	2.1	13.4
	6	15	0.8	5.2
	7	7	0.4	2.4
	～8	11	0.6	3.8
	～9	4	0.2	1.4
	10	3	0.2	1.0
	12	2	0.1	0.7
	合計	291	15.6	100
欠損値	無回答	32	1.7	
	不正回答	6	0.3	
	非該当	1533	82.3	
	合計	1571	84.4	
合計		1862	100	

非常勤コマ数（週）		人数	%	有効%
有効	0	222	11.9	80.4
	0.04	1	0.1	0.4
	0.1	1	0.1	0.4
	0.5	2	0.1	0.7
	1	37	2.0	13.4
	1.5	1	0.1	0.4
	2	11	0.6	4.0
	3	1	0.1	0.4
	合計	276	14.8	100.0
欠損値	無回答	49	2.6	
	不正回答	3	0.2	
	非該当	1534	82.4	
	合計	1586	85.2	
合計		1862	100.0	

学生指導時間数（週）		人数	%	有効%
有効	0時間	66	3.5	22.8
	1～2	43	2.3	14.9
	3～4	36	1.9	12.5
	5～6	36	1.9	12.5
	8～10	52	2.8	18.0
	12～14	8	0.4	2.8
	15～18	18	1.0	6.2
	20～25	20	1.1	6.9
	30時間	5	0.3	1.7
	40時間	3	0.2	1.0
	50時間	2	0.1	0.7
	合計	289	15.5	100.0
欠損値	無回答	39	2.1	
	非該当	1534	82.4	
	合計	1573	84.5	
合計		1862	100.0	

		勤務年数	出産育児の中断	学期中勤務日数（週）	長期休業中の勤務日数（週）	授業実習コマ数（週）	非常勤コマ数（週）	学生指導時間数（週）	学内会議数（月）	学外会議（委員等）数（月）	学外会議（研究）数（月）	国内出張日数（年）	海外出張日数（年）	論文数（年）
女性	平均値	10.29	1.17	4.74	4.21	3.05	.28	4.00	3.19	.28	.63	10.97	3.47	2.01
	人数	48	6	42	24	39	39	39	43	40	40	39	38	40
男性	平均値	14.52	.00	5.01	4.71	2.91	.24	7.63	3.82	.56	.87	15.40	4.69	3.03
	人数	256	7	243	163	236	222	235	238	230	233	235	230	237
合計	平均値	13.86	.54	4.97	4.64	2.93	.25	7.12	3.72	.52	.83	14.77	4.52	2.88
	人数	304	13	285	187	275	261	274	281	270	273	274	268	277
		t=-2.633	t=2.767	t=-1.623	t=-1.331	t=0.293	t=0.460	t=-3.425	t=-1.061	t=-2.64	t=-1.204	t=-1.678	t=-0.903	t=-2.819
		p=0.009	p=0.040	p=0.111	p=0.195	p=0.771	p=0.646	p=0.001	p=0.289	p=0.009	p=0.230	p=0.094	p=0.367	p=0.006

Q8. あなたの卒業・修了（中退を含む）した高校や大学の所在地について、以下の表のあてはまる番号にそれぞれ○をつけて下さい。
また大学等には国公立/私立の別に○をつけて下さい。

出身高校所在地		人数	%	有効%
有効	行っていない	1	0.1	0.2
	山形県内	119	6.4	24.6
	山形以外の東北	173	9.3	35.7
	東北以外の国内・海外	191	10.3	39.5
	合計	484	26.0	100
欠損値	無回答	19	1.0	
	不正回答	11	0.6	
	非該当	1348	72.4	
	合計	1378	74.0	
合計		1862	100	

		行っていない	山形県内	山形以外の東北	東北以外の国内・海外	合計
女性	人数	1	23	48	32	104
	性別の%	1.00%	22.10%	46.20%	30.80%	100.00%
男性	人数	0	89	117	151	357
	性別の%	0.00%	24.90%	32.80%	42.30%	100.00%
合計	人数	1	112	165	183	461
	性別の%	0.20%	24.30%	35.80%	39.70%	100.00%

χ^2=10.42 p=0.015　　2 セル (25.0%) は期待度数が 5 未満

出身大学(学部)所在地		人数	%	有効%
有効	行っていない	4	0.2	0.8
	山形県内	421	22.6	87.9
	山形以外の東北	19	1.0	4.0
	東北以外の国内・海外	35	1.9	7.3
	合計	479	25.7	100
欠損値	無回答	23	1.2	
	不正回答	11	0.6	
	非該当	1349	72.4	
	合計	1383	74.3	
合計		1862	100	

出身大学(学部)所在地

		行っていない	山形県内	山形以外の東北	東北以外の国内・海外	合計
女性	人数	0	80	9	13	102
	性別の%	0.00%	78.40%	8.80%	12.70%	100.00%
男性	人数	4	320	8	21	353
	性別の%	1.10%	90.70%	2.30%	5.90%	100.00%
合計	人数	4	400	17	34	455
	性別の%	0.90%	87.90%	3.70%	7.50%	100.00%

χ^2=16.50 p=0.001　　3 セル (37.5%) は期待度数が 5 未満

出身大学(学部)の別		人数	%	有効%
有効	国公立	333	17.9	95.1
	私立	17	0.9	4.9
	合計	350	18.8	100
欠損値	無回答	148	7.9	
	不正回答	8	0.4	
	非該当	1356	72.8	
	合計	1512	81.2	
合計		1862	100	

出身大学(学部)の別

		国公立	私立	合計
女性	人数	72	8	80
	性別の%	90.00%	10.00%	100.00%
男性	人数	247	7	254
	性別の%	97.20%	2.80%	100.00%
合計	人数	319	15	334
	性別の%	95.50%	4.50%	100.00%

χ^2=7.44 p=0.006　　1 セル (25.0%) は期待度数が 5 未満

出身大学(修士)所在地		人数	%	有効%
有効	行っていない	8	0.4	18.2
	山形県内	29	1.6	65.9
	東北以外の国内・海外	7	0.4	15.9
	合計	44	2.4	100
欠損値	無回答	22	1.2	
	不正回答	10	0.5	
	非該当	1786	95.9	
	合計	1818	97.6	
合計		1862	100	

出身大学(修士)所在地

		行っていない	山形県内	東北以外の国内・海外	合計
女性	人数	0	5	3	8
	性別の%	0.00%	62.50%	37.50%	100.00%
男性	人数	8	22	4	34
	性別の%	23.50%	64.70%	11.80%	100.00%
合計	人数	8	27	7	42
	性別の%	19.00%	64.30%	16.70%	100.00%

χ^2=4.46 p=0.107　　2 セル (33.3%) は期待度数が 5 未満

出身大学(修士)の別		人数	%	有効%
有効	国公立	22	1.2	100.0
欠損値	無回答	41	2.2	
	不正回答	7	0.4	
	非該当	1792	96.2	
	合計	1840	98.8	
合計		1862	100.0	

出身大学(修士)の別

		国公立	合計
女性	人数	5	5
	性別の	100.00%	100.00%
男性	人数	16	16
	性別の	100.00%	100.00%
合計	人数	21	21
	性別の	100.00%	100.00%

Q9. 修士課程(博士前期課程)の方にお聞きします。現在の課程修了後、博士課程(博士後期課程)に進学しようと考えていますか。

進学希望		人数	%	有効%
有効	進学するつもりはない	380	20.4	91.3
	山大院に進学希望	20	1.1	4.8
	他大院に進学希望	16	0.9	3.8
	合計	416	22.3	100
欠損値	無回答	28	1.5	
	不正回答	4	0.2	
	非該当	1414	75.9	
	合計	1446	77.7	
合計		1862	100	

進学希望

		進学するつもりはない	山大の院に進学希望	他大の院に進学希望	合計
女性	人数	83	3	4	90
	性別の%	92.20%	3.30%	4.40%	100.00%
男性	人数	280	16	11	307
	性別の%	91.20%	5.20%	3.60%	100.00%
合計	人数	363	19	15	397
	性別の%	91.40%	4.80%	3.80%	100.00%

χ^2=0.66 p=0.72　　2 セル (33.3%) は期待度数が 5 未満

Q10.あなたは大学院を修了した後、将来的に研究職に就くことを希望していますか。

希望職種(院修了後)		人数	%	有効%
有効	研究職以外企業	112	6.0	24.1
	研究職以外小中高	15	0.8	3.2
	研究職以外公務員	31	1.7	6.7
	研究職企業等	177	9.5	38.1
	研究職大学・公的機関	43	2.3	9.2
	具体的な希望はない	80	4.3	17.2
	その他	7	0.4	1.5
	合計	465	25.0	100
欠損値	無回答	34	1.8	
	不正回答	5	0.3	
	非該当	1358	72.9	
	合計	1397	75.0	
合計		1862	100	

希望職種(院修了後)

		研究職以外(企業等)	研究職以外(小中高の教員等)	研究職以外(公務員)	研究職(企業等)	研究職(大学・公的機関)	具体的な希望はない	その他	合計
女性	人数	17	8	11	37	6	15	3	97
	性別の%	17.50%	8.20%	11.30%	38.10%	6.20%	15.50%	3.10%	100.00%
男性	人数	86	7	19	132	35	62	4	345
	性別の%	24.90%	2.00%	5.50%	38.30%	10.10%	18.00%	1.20%	100.00%
合計	人数	103	15	30	169	41	77	7	442
	性別の%	23.30%	3.40%	6.80%	38.20%	9.30%	17.40%	1.60%	100.00%

χ^2=17.54 p=0.007　　2 セル (14.3%) は期待度数が 5 未満

Q11.次にあげることについて、あなたの考えに近い番号を選び○をつけて下さい

子供の世話は夫婦で協力すべき		人数	%	有効%
有効	そう思う	1412	75.8	76.4
	まあそう思う	412	22.1	22.3
	あまり思わない	15	0.8	0.8
	そう思わない	10	0.5	0.5
	合計	1849	99.3	100
欠損値	無回答	12	0.6	
	不正回答	1	0.1	
	合計	13	0.7	
合計		1862	100	

子供の世話は夫婦で協力すべき

		そう思う	まあそう思う	あまり思わない	そう思わない	合計
女性	人数	696	143	4	1	844
	性別の%	82.50%	16.90%	0.50%	0.10%	100.00%
男性	人数	658	251	9	8	926
	性別の%	71.10%	27.10%	1.00%	0.90%	100.00%
合計	人数	1354	394	13	9	1770
	性別の%	76.50%	22.30%	0.70%	0.50%	100.00%

χ^2=34.31 p=0.00　　2 セル (25.0%) は期待度数が 5 未満

結婚は女性に不利		人数	%	有効%
有効	そう思う	274	14.7	14.9
	まあそう思う	706	37.9	38.3
	あまり思わない	623	33.5	33.8
	そう思わない	241	12.9	13.1
	合計	1844	99.0	100
欠損値	無回答	15	0.8	
	不正回答	3	0.2	
	合計	18	1.0	
合計		1862	100	

結婚は女性に不利

		そう思う	まあそう思う	あまり思わない	そう思わない	合計
女性	人数	147	344	271	81	843
	性別の%	17.40%	40.80%	32.10%	9.60%	100.00%
男性	人数	108	332	333	150	923
	性別の%	11.70%	36.00%	36.10%	16.30%	100.00%
合計	人数	255	676	604	231	1766
	性別の%	14.40%	38.30%	34.20%	13.10%	100.00%

χ^2=29.59 p=0.00

夫に経済力があれば家事育児は妻がやるべき		人数	%	有効%
有効	そう思う	88	4.7	4.8
	まあそう思う	395	21.2	21.4
	あまり思わない	855	45.9	46.3
	そう思わない	507	27.2	27.5
	合計	1845	99.1	100
欠損値	無回答	16	0.9	
	不正回答	1	0.1	
	合計	17	0.9	
合計		1862	100	

夫に経済力があれば家事育児は妻がやるべき

		そう思う	まあそう思う	あまり思わない	そう思わない	合計
女性	人数	41	154	387	260	842
	性別の%	4.90%	18.30%	46.00%	30.90%	100.00%
男性	人数	41	232	430	222	925
	性別の%	4.40%	25.10%	46.50%	24.00%	100.00%
合計	人数	82	386	817	482	1767
	性別の%	4.60%	21.80%	46.20%	27.30%	100.00%

χ^2=17.16 p=0.001

夫は外で働き妻は家庭を守るべき		人数	%	有効%
有効	そう思う	64	3.4	3.5
	まあそう思う	262	14.1	14.2
	あまり思わない	840	45.1	45.6
	そう思わない	676	36.3	36.7
	合計	1842	98.9	100
欠損値	無回答	16	0.9	
	不正回答	4	0.2	
	合計	20	1.1	
合計		1862	100	

夫は外で働き妻は家庭を守るべき

		そう思う	まあそう思う	あまり思わない	そう思わない	合計
女性	人数	25	87	367	362	841
	性別の%	3.00%	10.30%	43.60%	43.00%	100.00%
男性	人数	33	169	435	287	924
	性別の%	3.60%	18.30%	47.10%	31.10%	100.00%
合計	人数	58	256	802	649	1765
	性別の%	3.30%	14.50%	45.40%	36.80%	100.00%

χ^2=37.98 p=0.00

日本の大学は女性教職員が少ない		人数	%	有効%
有効	そう思う	485	26.0	26.3
	まあそう思う	821	44.1	44.5
	あまり思わない	457	24.5	24.8
	そう思わない	81	4.4	4.4
	合計	1844	99.0	100
欠損値	無回答	15	0.8	
	不正回答	3	0.2	
	合計	18	1.0	
合計		1862	100	

日本の大学は女性教職員が少ない

		そう思う	まあそう思う	あまり思わない	そう思わない	合計
女性	人数	211	373	228	29	841
	性別の%	25.10%	44.40%	27.10%	3.40%	100.00%
男性	人数	254	411	214	46	925
	性別の%	27.50%	44.40%	23.10%	5.00%	100.00%
合計	人数	465	784	442	75	1766
	性別の%	26.30%	44.40%	25.00%	4.20%	100.00%

χ^2=6.13 p=0.105

本学の女性教員はもっと増えてもよい		人数	%	有効%
有効	そう思う	420	22.6	22.8
	まあそう思う	916	49.2	49.8
	あまり思わない	435	23.4	23.7
	そう思わない	68	3.7	3.7
	合計	1839	98.8	100
欠損値	無回答	20	1.1	
	不正回答	3	0.2	
	合計	23	1.2	
合計		1862	100	

本学の女性教員はもっと増えてもよい

		そう思う	まあそう思う	あまり思わない	そう思わない	合計
女性	人数	203	437	173	25	838
	性別の%	24.20%	52.10%	20.60%	3.00%	100.00%
男性	人数	200	438	246	39	923
	性別の%	21.70%	47.50%	26.70%	4.20%	100.00%
合計	人数	403	875	419	64	1761
	性別の%	22.90%	49.70%	23.80%	3.60%	100.00%

χ^2=11.73 p=0.008

本学は女性が働きやすい環境が整っている		人数	%	有効%
有効	そう思う	74	4.0	4.1
	まあそう思う	635	34.1	34.9
	あまり思わない	835	44.8	45.9
	そう思わない	277	14.9	15.2
	合計	1821	97.8	100
欠損値	無回答	40	2.1	
	不正回答	1	0.1	
	合計	41	2.2	
合計		1862	100	

本学は女性が働きやすい環境が整っている

		そう思う	まあそう思う	あまり思わない	そう思わない	合計
女性	人数	26	282	365	158	831
	性別の%	3.10%	33.90%	43.90%	19.00%	100.00%
男性	人数	44	330	434	107	915
	性別の%	4.80%	36.10%	47.40%	11.70%	100.00%
合計	人数	70	612	799	265	1746
	性別の%	4.00%	35.10%	45.80%	15.20%	100.00%

χ^2=20.17 p=0.00

本学は女性が育休をしやすい雰囲気がある		人数	%	有効%
有効	そう思う	167	9.0	9.2
	まあそう思う	672	36.1	37.0
	あまり思わない	692	37.2	38.1
	そう思わない	287	15.4	15.8
	合計	1818	97.6	100
欠損値	無回答	43	2.3	
	不正回答	1	0.1	
	合計	44	2.4	
合計		1862	100	

本学は女性が育休をしやすい雰囲気がある

		そう思う	まあそう思う	あまり思わない	そう思わない	合計
女性	人数	73	318	284	154	829
	性別の%	8.80%	38.40%	34.30%	18.60%	100.00%
男性	人数	87	333	374	119	913
	性別の%	9.50%	36.50%	41.00%	13.00%	100.00%
合計	人数	160	651	658	273	1742
	性別の%	9.20%	37.40%	37.80%	15.70%	100.00%

χ^2=14.35 p=0.002

本学は男性が育休をしやすい雰囲気がある		人数	%	有効%
有効	そう思う	29	1.6	1.6
	まあそう思う	178	9.6	9.8
	あまり思わない	765	41.1	42.1
	そう思わない	845	45.4	46.5
	合計	1817	97.6	100
欠損値	無回答	43	2.3	
	不正回答	2	0.1	
	合計	45	2.4	
合計		1862	100	

本学は男性が育休をしやすい雰囲気がある

		そう思う	まあそう思う	あまり思わない	そう思わない	合計
女性	人数	10	63	361	393	827
	性別の%	1.20%	7.60%	43.70%	47.50%	100.00%
男性	人数	17	108	375	413	913
	性別の%	1.90%	11.80%	41.10%	45.20%	100.00%
合計	人数	27	171	736	806	1740
	性別の%	1.60%	9.80%	42.30%	46.30%	100.00%

χ^2=10.19 p=0.017

Q12. 日本の大学で女性教員や研究者が少ない理由について、どう思われますか。あなたの考えに近い番号を選んで○をつけて下さい。

社会的偏見		人数	%	有効%
有効	そう思う	153	8.2	8.3
	まあそう思う	533	28.6	28.9
	あまり思わない	825	44.3	44.7
	そう思わない	336	18.0	18.2
	合計	1847	99.2	100
欠損値	無回答	15	0.8	
合計		1862	100	

社会的偏見

		そう思う	まあそう思う	あまり思わない	そう思わない	合計
女性	人数	82	261	383	116	842
	性別の%	9.70%	31.00%	45.50%	13.80%	100.00%
男性	人数	65	244	409	207	925
	性別の%	7.00%	26.40%	44.20%	22.40%	100.00%
合計	人数	147	505	792	323	1767
	性別の%	8.30%	28.60%	44.80%	18.30%	100.00%

χ^2=25.19 p=0.00

男女の能力差		人数	%	有効%
有効	そう思う	63	3.4	3.4
	まあそう思う	282	15.1	15.3
	あまり思わない	867	46.6	46.9
	そう思わない	636	34.2	34.4
	合計	1848	99.2	100
欠損値	無回答	14	0.8	
合計		1862	100	

男女の能力差

		そう思う	まあそう思う	あまり思わない	そう思わない	合計
女性	人数	26	151	424	242	843
	性別の%	3.10%	17.90%	50.30%	28.70%	100.00%
男性	人数	36	117	403	369	925
	性別の%	3.90%	12.60%	43.60%	39.90%	100.00%
合計	人数	62	268	827	611	1768
	性別の%	3.50%	15.20%	46.80%	34.60%	100.00%

χ^2=29.12 p=0.00

幼少期の育てられ方		人数	%	有効%
有効	そう思う	103	5.5	5.6
	まあそう思う	496	26.6	26.9
	あまり思わない	825	44.3	44.8
	そう思わない	417	22.4	22.7
	合計	1841	98.9	100
欠損値	無回答	19	1.0	
	不正回答	2	0.1	
	合計	21	1.1	
合計		1862	100	

幼少期の育てられ方

		そう思う	まあそう思う	あまり思わない	そう思わない	合計
女性	人数	47	222	395	174	838
	性別の%	5.60%	26.50%	47.10%	20.80%	100.00%
男性	人数	52	256	387	229	924
	性別の%	5.60%	27.70%	41.90%	24.80%	100.00%
合計	人数	99	478	782	403	1762
	性別の%	5.60%	27.10%	44.40%	22.90%	100.00%

χ^2=6.08 p=0.108

女子に高学歴を期待しない親が多い		人数	%	有効%
有効	そう思う	75	4.0	4.1
	まあそう思う	395	21.2	21.4
	あまり思わない	917	49.2	49.7
	そう思わない	459	24.7	24.9
	合計	1846	99.1	100
欠損値	無回答	16	0.9	
合計		1862	100	

女子に高学歴を期待しない親が多い

		そう思う	まあそう思う	あまり思わない	そう思わない	合計
女性	人数	28	168	445	201	842
	性別の%	3.30%	20.00%	52.90%	23.90%	100.00%
男性	人数	42	213	430	240	925
	性別の%	4.50%	23.00%	46.50%	25.90%	100.00%
合計	人数	70	381	875	441	1767
	性別の%	4.00%	21.60%	49.50%	25.00%	100.00%

χ^2=7.94 p=0.047

中高の進路指導が適切でない		人数	%	有効%
有効	そう思う	74	4.0	4.0
	まあそう思う	247	13.3	13.4
	あまり思わない	994	53.4	54.0
	そう思わない	527	28.3	28.6
	合計	1842	98.9	100
欠損値	無回答	17	0.9	
	不正回答	3	0.2	
	合計	20	1.1	
合計		1862	100	

中高の進路指導が適切でない

		そう思う	まあそう思う	あまり思わない	そう思わない	合計
女性	人数	39	108	471	222	840
	性別の%	4.64%	12.86%	56.07%	26.43%	100.00%
男性	人数	31	127	476	289	923
	性別の%	3.36%	13.76%	51.57%	31.31%	100.00%
合計	人数	70	235	947	511	1763
	性別の%	3.97%	13.33%	53.72%	28.98%	100.00%

χ^2=7.37 p=0.061

手本になる女性研究者が少ない		人数	%	有効%
有効	そう思う	208	11.2	11.3
	まあそう思う	723	38.8	39.3
	あまり思わない	627	33.7	34.0
	そう思わない	284	15.3	15.4
	合計	1842	98.9	100
欠損値	無回答	20	1.1	
合計		1862	100	

手本になる女性研究者が少ない

		そう思う	まあそう思う	あまり思わない	そう思わない	合計
女性	人数	84	352	298	106	840
	性別の%	10.00%	41.90%	35.50%	12.60%	100.00%
男性	人数	116	338	300	168	922
	性別の%	12.60%	36.70%	32.50%	18.20%	100.00%
合計	人数	200	690	598	274	1762
	性別の%	11.40%	39.20%	33.90%	15.60%	100.00%

χ^2=15.66 p=0.001

男性が多い職場だから		人数	%	有効%
有効	そう思う	311	16.7	16.87
	まあそう思う	874	46.9	47.42
	あまり思わない	466	25.0	25.28
	そう思わない	192	10.3	10.42
	合計	1843	99.0	100
欠損値	無回答	17	0.9	
	不正回答	2	0.1	
	合計	19	1.0	
合計		1862	100	

男性が多い職場だから

		そう思う	まあそう思う	あまり思わない	そう思わない	合計
女性	人数	121	394	250	77	842
	性別の%	14.40%	46.80%	29.70%	9.10%	100.00%
男性	人数	177	436	200	108	921
	性別の%	19.20%	47.30%	21.70%	11.70%	100.00%
合計	人数	298	830	450	185	1763
	性別の%	16.90%	47.10%	25.50%	10.50%	100.00%

χ^2=19.90 p=0.00

労働時間が長い		人数	%	有効%
有効	そう思う	307	16.5	16.7
	まあそう思う	730	39.2	39.6
	あまり思わない	573	30.8	31.1
	そう思わない	232	12.5	12.6
	合計	1842	98.9	100
欠損値	無回答	16	0.9	
	不正回答	4	0.2	
	合計	20	1.1	
合計		1862	100	

労働時間が長い

		そう思う	まあそう思う	あまり思わない	そう思わない	合計
女性	人数	175	374	223	67	839
	性別の%	20.90%	44.60%	26.60%	8.00%	100.00%
男性	人数	119	318	331	155	923
	性別の%	12.90%	34.50%	35.90%	16.80%	100.00%
合計	人数	294	692	554	222	1762
	性別の%	16.70%	39.30%	31.40%	12.60%	100.00%

χ^2=67.28 p=0.00

男性を採用する傾向がある		人数	%	有効%
有効	そう思う	261	14.0	14.2
	まあそう思う	695	37.3	37.8
	あまり思わない	669	35.9	36.4
	そう思わない	214	11.5	11.6
	合計	1839	98.8	100
欠損値	無回答	17	0.9	
	不正回答	6	0.3	
	合計	23	1.2	
合計		1862	100	

男性を採用する傾向がある

		そう思う	まあそう思う	あまり思わない	そう思わない	合計
女性	人数	159	345	281	52	837
	性別の%	19.00%	41.20%	33.60%	6.20%	100.00%
男性	人数	90	323	356	154	923
	性別の%	9.80%	35.00%	38.60%	16.70%	100.00%
合計	人数	249	668	637	206	1760
	性別の%	14.10%	38.00%	36.20%	11.70%	100.00%

χ^2=75.16 p=0.00

家庭と仕事の両立が困難		人数	%	有効%
有効	そう思う	512	27.5	27.8
	まあそう思う	959	51.5	52.0
	あまり思わない	291	15.6	15.8
	そう思わない	82	4.4	4.4
	合計	1844	99.0	100
欠損値	無回答	17	0.9	
	不正回答	1	0.1	
	合計	18	1.0	
合計		1862	100	

家庭と仕事の両立が困難

		そう思う	まあそう思う	あまり思わない	そう思わない	合計
女性	人数	278	452	94	17	841
	性別の%	33.10%	53.70%	11.20%	2.00%	100.00%
男性	人数	208	472	180	64	924
	性別の%	22.50%	51.10%	19.50%	6.90%	100.00%
合計	人数	486	924	274	81	1765
	性別の%	27.50%	52.40%	15.50%	4.60%	100.00%

χ^2=61.01 p=0.00

育児期間後の復帰が困難		人数	%	有効%
有効	そう思う	359	19.3	19.7
	まあそう思う	836	44.9	45.9
	あまり思わない	493	26.5	27.1
	そう思わない	133	7.1	7.3
	合計	1821	97.8	100
欠損値	無回答	37	2.0	
	不正回答	4	0.2	
	合計	41	2.2	
合計		1862	100	

育児期間後の復帰が困難

		そう思う	まあそう思う	あまり思わない	そう思わない	合計
女性	人数	212	402	178	35	827
	性別の%	25.60%	48.60%	21.50%	4.20%	100.00%
男性	人数	127	398	292	97	914
	性別の%	13.90%	43.50%	31.90%	10.60%	100.00%
合計	人数	339	800	470	132	1741
	性別の%	19.50%	46.00%	27.00%	7.60%	100.00%

χ^2=73.94 p=0.00

研究に興味を持つ女性が少ない		人数	%	有効%
有効	そう思う	206	11.1	11.2
	まあそう思う	548	29.4	29.9
	あまり思わない	730	39.2	39.8
	そう思わない	349	18.7	19.0
	合計	1833	98.4	100
欠損値	無回答	29	1.6	
合計		1862	100	

研究に興味を持つ女性が少ない

		そう思う	まあそう思う	あまり思わない	そう思わない	合計
女性	人数	65	279	354	133	831
	性別の%	7.80%	33.60%	42.60%	16.00%	100.00%
男性	人数	132	249	338	203	922
	性別の%	14.30%	27.00%	36.70%	22.00%	100.00%
合計	人数	197	528	692	336	1753
	性別の%	11.20%	30.10%	39.50%	19.20%	100.00%

χ^2=34.82 p=0.00

Q13.男女ともに、仕事と家庭を両立させていくには、どのようなことが必要だと思いますか。あなたの考えに近い番号を選んで〇をつけて下さい。

性別役割分担の意識を変える		人数	%	有効%
有効	そう思う	535	28.7	29.0
	まあそう思う	907	48.7	49.2
	あまり思わない	307	16.5	16.7
	そう思わない	94	5.0	5.1
	合計	1843	99.0	100
欠損値	無回答	19	1.0	
合計		1862	100	

性別役割分担の意識を変える

		そう思う	まあそう思う	あまり思わない	そう思わない	合計
女性	人数	300	423	100	16	839
	性別の%	35.80%	50.40%	11.90%	1.90%	100.00%
男性	人数	215	445	190	73	923
	性別の%	23.30%	48.20%	20.60%	7.90%	100.00%
合計	人数	515	868	290	89	1762
	性別の%	29.20%	49.30%	16.50%	5.10%	100.00%

χ^2=75.19 p=0.00

仕事中心の考え方を変える		人数	%	有効%
有効	そう思う	482	25.9	26.1
	まあそう思う	896	48.1	48.5
	あまり思わない	395	21.2	21.4
	そう思わない	75	4.0	4.1
	合計	1848	99.2	100
欠損値	無回答	13	0.7	
	不正回答	1	0.1	
	合計	14	0.8	
合計		1862	100	

仕事中心の考え方を変える

		そう思う	まあそう思う	あまり思わない	そう思わない	合計
女性	人数	262	416	156	9	843
	性別の%	31.10%	49.30%	18.50%	1.10%	100.00%
男性	人数	202	440	219	64	925
	性別の%	21.80%	47.60%	23.70%	6.90%	100.00%
合計	人数	464	856	375	73	1768
	性別の%	26.20%	48.40%	21.20%	4.10%	100.00%

χ^2=56.77 p=0.00

職場の雰囲気を変える		人数	%	有効%
有効	そう思う	641	34.4	34.7
	まあそう思う	900	48.3	48.7
	あまり思わない	258	13.9	14.0
	そう思わない	49	2.6	2.7
	合計	1848	99.2	100
欠損値	無回答	14	0.8	
合計		1862	100	

職場の雰囲気を変える

		そう思う	まあそう思う	あまり思わない	そう思わない	合計
女性	人数	361	394	82	5	842
	性別の%	42.90%	46.80%	9.70%	0.60%	100.00%
男性	人数	256	459	165	44	924
	性別の%	27.70%	49.70%	17.90%	4.80%	100.00%
合計	人数	617	853	247	49	1766
	性別の%	34.90%	48.30%	14.00%	2.80%	100.00%

χ^2=78.11 p=0.00

上司の理解		人数	%	有効%
有効	そう思う	862	46.3	46.6
	まあそう思う	798	42.9	43.2
	あまり思わない	152	8.2	8.2
	そう思わない	37	2.0	2.0
	合計	1849	99.3	100
欠損値	無回答	13	0.7	
合計		1862	100	

上司の理解

		そう思う	まあそう思う	あまり思わない	そう思わない	合計
女性	人数	475	326	40	2	843
	性別の%	56.30%	38.70%	4.70%	0.20%	100.00%
男性	人数	351	433	106	34	924
	性別の%	38.00%	46.90%	11.50%	3.70%	100.00%
合計	人数	826	759	146	36	1767
	性別の%	46.70%	43.00%	8.30%	2.00%	100.00%

χ^2=88.45 p=0.00

労働時間の短縮		人数	%	有効%
有効	そう思う	661	35.5	35.8
	まあそう思う	787	42.3	42.6
	あまり思わない	326	17.5	17.6
	そう思わない	74	4.0	4.0
	合計	1848	99.2	100
欠損値	無回答	14	0.8	
合計		1862	100	

労働時間の短縮

		そう思う	まあそう思う	あまり思わない	そう思わない	合計
女性	人数	387	355	90	8	840
	性別の%	46.10%	42.30%	10.70%	1.00%	100.00%
男性	人数	250	389	222	65	926
	性別の%	27.00%	42.00%	24.00%	7.00%	100.00%
合計	人数	637	744	312	73	1766
	性別の%	36.10%	42.10%	17.70%	4.10%	100.00%

χ^2=127.49 p=0.00

勤務時間の弾力化		人数	%	有効%
有効	そう思う	747	40.1	40.5
	まあそう思う	859	46.1	46.6
	あまり思わない	191	10.3	10.4
	そう思わない	46	2.5	2.5
	合計	1843	99.0	100
欠損値	無回答	18	1.0	
	不正回答	1	0.1	
	合計	19	1.0	
合計		1862	100	

勤務時間の弾力化

		そう思う	まあそう思う	あまり思わない	そう思わない	合計
女性	人数	422	367	44	7	840
	性別の%	50.20%	43.70%	5.20%	0.80%	100.00%
男性	人数	298	449	136	39	922
	性別の%	32.30%	48.70%	14.80%	4.20%	100.00%
合計	人数	720	816	180	46	1762
	性別の%	40.90%	46.30%	10.20%	2.60%	100.00%

χ^2=95.27 p=0.00

多様な休業制度		人数	%	有効%
有効	そう思う	823	44.2	44.6
	まあそう思う	807	43.3	43.8
	あまり思わない	181	9.7	9.8
	そう思わない	33	1.8	1.8
	合計	1844	99.0	100
欠損値	無回答	17	0.9	
	不正回答	1	0.1	
	合計	18	1.0	
合計		1862	100	

多様な休業制度

		そう思う	まあそう思う	あまり思わない	そう思わない	合計
女性	人数	450	330	54	5	839
	性別の%	53.60%	39.30%	6.40%	0.60%	100.00%
男性	人数	343	431	122	28	924
	性別の%	37.10%	46.60%	13.20%	3.00%	100.00%
合計	人数	793	761	176	33	1763
	性別の%	45.00%	43.20%	10.00%	1.90%	100.00%

χ^2=66.20 p=0.00

休業中の代替要員		人数	%	有効%
有効	そう思う	814	43.7	44.1
	まあそう思う	828	44.5	44.9
	あまり思わない	166	8.9	9.0
	そう思わない	36	1.9	2.0
	合計	1844	99.0	100
欠損値	無回答	17	0.9	
	不正回答	1	0.1	
	合計	18	1.0	
合計		1862	100	

休業中の代替要員

		そう思う	まあそう思う	あまり思わない	そう思わない	合計
女性	人数	430	349	59	2	840
	性別の%	51.20%	41.50%	7.00%	0.20%	100.00%
男性	人数	356	435	98	34	923
	性別の%	38.60%	47.10%	10.60%	3.70%	100.00%
合計	人数	786	784	157	36	1763
	性別の%	44.60%	44.50%	8.90%	2.00%	100.00%

χ^2=50.74 p=0.00

休業中に自宅で仕事をできる仕組み		人数	%	有効%
有効	そう思う	542	29.1	29.4
	まあそう思う	818	43.9	44.4
	あまり思わない	389	20.9	21.1
	そう思わない	95	5.1	5.2
	合計	1844	99.0	100
欠損値	無回答	18	1.0	
合計		1862	100	

休業中に自宅で仕事をできる仕組み

		そう思う	まあそう思う	あまり思わない	そう思わない	合計
女性	人数	272	370	170	28	840
	性別の%	32.40%	44.00%	20.20%	3.30%	100.00%
男性	人数	252	405	203	63	923
	性別の%	27.30%	43.90%	22.00%	6.80%	100.00%
合計	人数	524	775	373	91	1763
	性別の%	29.70%	44.00%	21.20%	5.20%	100.00%

χ^2=14.85 p=0.002

休業中の経済的資源		人数	%	有効%
有効	そう思う	765	41.1	41.5
	まあそう思う	853	45.8	46.3
	あまり思わない	180	9.7	9.8
	そう思わない	45	2.4	2.4
	合計	1843	99.0	100
欠損値	無回答	17	0.9	
	不正回答	2	0.1	
	合計	19	1.0	
合計		1862	100	

休業中の経済的資源

		そう思う	まあそう思う	あまり思わない	そう思わない	合計
女性	人数	412	380	42	6	840
	性別の%	49.00%	45.20%	5.00%	0.70%	100.00%
男性	人数	325	432	128	37	922
	性別の%	35.20%	46.90%	13.90%	4.00%	100.00%
合計	人数	737	812	170	43	1762
	性別の%	41.80%	46.10%	9.60%	2.40%	100.00%

χ^2=75.80 p=0.00

研究や授業の支援員		人数	%	有効%
有効	そう思う	577	31.0	31.4
	まあそう思う	978	52.5	53.2
	あまり思わない	235	12.6	12.8
	そう思わない	47	2.5	2.6
	合計	1837	98.7	100
欠損値	無回答	24	1.3	
	不正回答	1	0.1	
	合計	25	1.3	
合計		1862	100	

研究や授業の支援員

		そう思う	まあそう思う	あまり思わない	そう思わない	合計
女性	人数	285	443	103	6	837
	性別の%	34.10%	52.90%	12.30%	0.70%	100.00%
男性	人数	272	490	122	39	923
	性別の%	29.50%	53.10%	13.20%	4.20%	100.00%
合計	人数	557	933	225	45	1760
	性別の%	31.60%	53.00%	12.80%	2.60%	100.00%

χ^2=24.33 p=0.00

学内委員会等の負担軽減		人数	%	有効%
有効	そう思う	603	32.4	32.9
	まあそう思う	867	46.6	47.3
	あまり思わない	306	16.4	16.7
	そう思わない	57	3.1	3.1
	合計	1833	98.4	100
欠損値	無回答	26	1.4	
	不正回答	3	0.2	
	合計	29	1.6	
合計		1862	100	

学内委員会等の負担軽減

		そう思う	まあそう思う	あまり思わない	そう思わない	合計
女性	人数	325	406	95	7	833
	性別の%	39.00%	48.70%	11.40%	0.80%	100.00%
男性	人数	250	423	200	49	922
	性別の%	27.10%	45.90%	21.70%	5.30%	100.00%
合計	人数	575	829	295	56	1755
	性別の%	32.80%	47.20%	16.80%	3.20%	100.00%

χ^2=74.68 p=0.00

夕方5時以降の会議廃止		人数	%	有効%
有効	そう思う	750	40.3	40.8
	まあそう思う	686	36.8	37.3
	あまり思わない	313	16.8	17.0
	そう思わない	89	4.8	4.8
	合計	1838	98.7	100
欠損値	無回答	22	1.2	
	不正回答	2	0.1	
	合計	24	1.3	
合計		1862	100	

夕方5時以降の会議廃止

		そう思う	まあそう思う	あまり思わない	そう思わない	合計
女性	人数	435	311	82	8	836
	性別の%	52.00%	37.20%	9.80%	1.00%	100.00%
男性	人数	284	344	213	81	922
	性別の%	30.80%	37.30%	23.10%	8.80%	100.00%
合計	人数	719	655	295	89	1758
	性別の%	40.90%	37.30%	16.80%	5.10%	100.00%

χ^2=147.57 p=0.00

授乳室やプレイルームの設置		人数	%	有効%
有効	そう思う	643	34.5	34.9
	まあそう思う	812	43.6	44.1
	あまり思わない	301	16.2	16.3
	そう思わない	86	4.6	4.7
	合計	1842	98.9	100
欠損値	無回答	20	1.1	
合計		1862	100	

授乳室やプレイルームの設置

		そう思う	まあそう思う	あまり思わない	そう思わない	合計
女性	人数	357	359	107	18	841
	性別の%	42.40%	42.70%	12.70%	2.10%	100.00%
男性	人数	261	415	182	64	922
	性別の%	28.30%	45.00%	19.70%	6.90%	100.00%
合計	人数	618	774	289	82	1763
	性別の%	35.10%	43.90%	16.40%	4.70%	100.00%

χ^2=60.64 p=0.00

家事のサポート		人数	%	有効%
有効	そう思う	555	29.8	30.2
	まあそう思う	794	42.6	43.2
	あまり思わない	381	20.5	20.8
	そう思わない	106	5.7	5.8
	合計	1836	98.6	100
欠損値	無回答	25	1.3	
	不正回答	1	0.1	
	合計	26	1.4	
合計		1862	100	

家事のサポート

		そう思う	まあそう思う	あまり思わない	そう思わない	合計
女性	人数	322	348	139	27	836
	性別の%	38.50%	41.60%	16.60%	3.20%	100.00%
男性	人数	213	408	226	73	920
	性別の%	23.20%	44.30%	24.60%	7.90%	100.00%
合計	人数	535	756	365	100	1756
	性別の%	30.50%	43.10%	20.80%	5.70%	100.00%

χ^2=65.00 p=0.00

保育サービス利用の経済的支援		人数	%	有効%
有効	そう思う	761	40.9	41.3
	まあそう思う	870	46.7	47.2
	あまり思わない	167	9.0	9.1
	そう思わない	46	2.5	2.5
	合計	1844	99.0	100
欠損値	無回答	18	1.0	
合計		1862	100	

保育サービス利用の経済的支援

		そう思う	まあそう思う	あまり思わない	そう思わない	合計
女性	人数	436	354	43	8	841
	性別の%	51.80%	42.10%	5.10%	1.00%	100.00%
男性	人数	294	475	117	37	923
	性別の%	31.90%	51.50%	12.70%	4.00%	100.00%
合計	人数	730	829	160	45	1764
	性別の%	41.40%	47.00%	9.10%	2.60%	100.00%

χ^2=94.59 p=0.00

病児保育		人数	%	有効%
有効	そう思う	862	46.3	46.8
	まあそう思う	821	44.1	44.6
	あまり思わない	128	6.9	7.0
	そう思わない	29	1.6	1.6
	合計	1840	98.8	100
欠損値	無回答	21	1.1	
	不正回答	1	0.1	
	合計	22	1.2	
合計		1862	100	

病児保育

		そう思う	まあそう思う	あまり思わない	そう思わない	合計
女性	人数	500	305	29	6	840
	性別の%	59.50%	36.30%	3.50%	0.70%	100.00%
男性	人数	328	476	94	23	921
	性別の%	35.60%	51.70%	10.20%	2.50%	100.00%
合計	人数	828	781	123	29	1761
	性別の%	47.00%	44.30%	7.00%	1.60%	100.00%

χ^2=114.00 p=0.00

介護支援		人数	%	有効%
有効	そう思う	838	45.0	45.4
	まあそう思う	841	45.2	45.6
	あまり思わない	129	6.9	7.0
	そう思わない	36	1.9	2.0
	合計	1844	99.0	100
欠損値	無回答	16	0.9	
	不正回答	2	0.1	
	合計	18	1.0	
合計		1862	100	

介護支援

		そう思う	まあそう思う	あまり思わない	そう思わない	合計
女性	人数	471	338	25	5	839
	性別の%	56.10%	40.30%	3.00%	0.60%	100.00%
男性	人数	333	462	98	31	924
	性別の%	36.00%	50.00%	10.60%	3.40%	100.00%
合計	人数	804	800	123	36	1763
	性別の%	45.60%	45.40%	7.00%	2.00%	100.00%

χ^2=101.15 p=0.00

両立に関する精神的支援		人数	%	有効%
有効	そう思う	695	37.3	38.2
	まあそう思う	854	45.9	46.9
	あまり思わない	216	11.6	11.9
	そう思わない	56	3.0	3.1
	合計	1821	97.8	100
欠損値	無回答	41	2.2	
合計		1862	100	

両立に関する精神的支援

		そう思う	まあそう思う	あまり思わない	そう思わない	合計
女性	人数	404	341	72	12	829
	性別の%	48.70%	41.10%	8.70%	1.40%	100.00%
男性	人数	264	477	132	42	915
	性別の%	28.90%	52.10%	14.40%	4.60%	100.00%
合計	人数	668	818	204	54	1744
	性別の%	38.30%	46.90%	11.70%	3.10%	100.00%

χ^2=82.23 p=0.00

Q14.現在、あなたが仕事・研究を行う際に障害となっている要因は何ですか。

職場の人間関係		人数	%	有効%
有効	あてはまらない	1324	71.1	72
	あてはまる	514	27.6	28
	合計	1838	98.7	100
欠損値	無回答	6	0.3	
	不正回答	18	1.0	
	合計	24	1.3	
合計		1862	100	

職場の人間関係

		あてはまらない	あてはまる	合計
女性	人数	581	256	837
	性別の%	69.41%	30.59%	100.00%
男性	人数	682	237	919
	性別の%	74.21%	25.79%	100.00%
合計	人数	1263	493	1756
	性別の%	71.92%	28.08%	100.00%

χ^2=4.99 p=0.025

主となる仕事と関係のない業務		人数	%	有効%
有効	あてはまらない	1107	59.5	60.2
	あてはまる	731	39.3	39.8
	合計	1838	98.7	100
欠損値	無回答	6	0.3	
	不正回答	18	1.0	
	合計	24	1.3	
合計		1862	100	

主となる仕事と関係のない業務

		あてはまらない	あてはまる	合計
女性	人数	513	324	837
	性別の%	61.29%	38.71%	100.00%
男性	人数	538	381	919
	性別の%	58.54%	41.46%	100.00%
合計	人数	1051	705	1756
	性別の%	59.85%	40.15%	100.00%

χ^2=1.38 p=0.241

管理的事務		人数	%	有効%
有効	あてはまらない	1605	86.2	87.3
	あてはまる	233	12.5	12.7
	合計	1838	98.7	100
欠損値	無回答	6	0.3	
	不正回答	18	1.0	
	合計	24	1.3	
合計		1862	100	

管理的事務

		あてはまらない	あてはまる	合計
女性	人数	768	69	837
	性別の%	91.76%	8.24%	100.00%
男性	人数	770	149	919
	性別の%	83.79%	16.21%	100.00%
合計	人数	1538	218	1756
	性別の%	87.59%	12.41%	100.00%

χ^2=25.59 p=0.00

研究・業務費の金額		人数	%	有効%
有効	あてはまらない	1480	79.5	80.5
	あてはまる	358	19.2	19.5
	合計	1838	98.7	100
欠損値	無回答	6	0.3	
	不正回答	18	1.0	
	合計	24	1.3	
合計		1862	100	

研究・業務費の金額

		あてはまらない	あてはまる	合計
女性	人数	754	83	837
	性別の%	90.08%	9.92%	100.00%
男性	人数	655	264	919
	性別の%	71.27%	28.73%	100.00%
合計	人数	1409	347	1756
	性別の%	80.24%	19.76%	100.00%

χ^2=97.75 p=0.00

スペース・設備		人数	%	有効%
有効	あてはまらない	1475	79.2	80.3
	あてはまる	363	19.5	19.7
	合計	1838	98.7	100
欠損値	無回答	6	0.3	
	不正回答	18	1.0	
	合計	24	1.3	
合計		1862	100	

スペース・設備

		あてはまらない	あてはまる	合計
女性	人数	747	90	837
	性別の%	89.25%	10.75%	100.00%
男性	人数	663	256	919
	性別の%	72.14%	27.86%	100.00%
合計	人数	1410	346	1756
	性別の%	80.30%	19.70%	100.00%

χ^2=80.99 p=0.00

研究・業務の時間が十分取れない		人数	%	有効%
有効	あてはまらない	1337	71.8	72.7
	あてはまる	501	26.9	27.3
	合計	1838	98.7	100
欠損値	無回答	6	0.3	
	不正回答	18	1.0	
	合計	24	1.3	
合計		1862	100	

研究・業務の時間が十分取れない

		あてはまらない	あてはまる	合計
女性	人数	613	224	837
	性別の%	73.24%	26.76%	100.00%
男性	人数	661	258	919
	性別の%	71.93%	28.07%	100.00%
合計	人数	1274	482	1756
	性別の%	72.55%	27.45%	100.00%

χ^2=0.38 p=0.538

研究・業務を補助する人がいない		人数	%	有効%
有効	あてはまらない	1482	79.6	80.6
	あてはまる	356	19.1	19.4
	合計	1838	98.7	100
欠損値	無回答	6	0.3	
	不正回答	18	1.0	
	合計	24	1.3	
合計		1862	100	

研究・業務を補助する人がいない

		あてはまらない	あてはまる	合計
女性	人数	706	131	837
	性別の%	84.35%	15.65%	100.00%
男性	人数	705	214	919
	性別の%	76.71%	23.29%	100.00%
合計	人数	1411	345	1756
	性別の%	80.35%	19.65%	100.00%

χ^2=16.18 p=0.00

女性(男性)であるための差別		人数	%	有効%
有効	あてはまらない	1796	96.5	97.7
	あてはまる	42	2.3	2.3
	合計	1838	98.7	100
欠損値	無回答	6	0.3	
	不正回答	18	1.0	
	合計	24	1.3	
合計		1862	100	

女性(男性)であるための差別

		あてはまらない	あてはまる	合計
女性	人数	809	28	837
	性別の%	96.65%	3.35%	100.00%
男性	人数	907	12	919
	性別の%	98.69%	1.31%	100.00%
合計	人数	1716	40	1756
	性別の%	97.72%	2.28%	100.00%

χ^2=8.19 p=0.004

妊娠・出産		人数	%	有効%
有効	あてはまらない	1746	93.8	95
	あてはまる	92	4.9	5
	合計	1838	98.7	100
欠損値	無回答	6	0.3	
	不正回答	18	1.0	
	合計	24	1.3	
合計		1862	100	

妊娠・出産

		あてはまらない	あてはまる	合計
女性	人数	757	80	837
	性別の%	90.44%	9.56%	100.00%
男性	人数	910	9	919
	性別の%	99.02%	0.98%	100.00%
合計	人数	1667	89	1756
	性別の%	94.93%	5.07%	100.00%

χ^2=67.00 p=0.00

育児・教育		人数	%	有効%
有効	あてはまらない	1662	89.3	90.4
	あてはまる	176	9.5	9.6
	合計	1838	98.7	100
欠損値	無回答	6	0.3	
	不正回答	18	1.0	
	合計	24	1.3	
合計		1862	100	

育児・教育

		あてはまらない	あてはまる	合計
女性	人数	707	130	837
	性別の%	84.47%	15.53%	100.00%
男性	人数	882	37	919
	性別の%	95.97%	4.03%	100.00%
合計	人数	1589	167	1756
	性別の%	90.49%	9.51%	100.00%

χ^2=67.38 p=0.00

介護・看病		人数	%	有効%
有効	あてはまらない	1749	93.9	95.2
	あてはまる	89	4.8	4.8
	合計	1838	98.7	100
欠損値	無回答	6	0.3	
	不正回答	18	1.0	
	合計	24	1.3	
合計		1862	100	

介護・看病

		あてはまらない	あてはまる	合計
女性	人数	772	65	837
	性別の%	92.23%	7.77%	100.00%
男性	人数	898	21	919
	性別の%	97.71%	2.29%	100.00%
合計	人数	1670	86	1756
	性別の%	95.10%	4.90%	100.00%

χ^2=28.25 p=0.00

家事		人数	%	有効%
有効	あてはまらない	1615	86.7	87.9
	あてはまる	223	12.0	12.1
	合計	1838	98.7	100
欠損値	無回答	6	0.3	
	不正回答	18	1.0	
	合計	24	1.3	
合計		1862	100.0	

家事

		あてはまらない	あてはまる	合計
女性	人数	662	175	837
	性別の%	79.09%	20.91%	100.00%
男性	人数	878	41	919
	性別の%	95.54%	4.46%	100.00%
合計	人数	1540	216	1756
	性別の%	87.70%	12.30%	100.00%

χ^2=109.84 p=0.00

家族の人間関係		人数	%	有効%
有効	あてはまらない	1762	94.6	95.9
	あてはまる	76	4.1	4.1
	合計	1838	98.7	100
欠損値	無回答	6	0.3	
	不正回答	18	1.0	
	合計	24	1.3	
合計		1862	100	

家族の人間関係

		あてはまらない	あてはまる	合計
女性	人数	787	50	837
	性別の%	94.03%	5.97%	100.00%
男性	人数	899	20	919
	性別の%	97.82%	2.18%	100.00%
合計	人数	1686	70	1756
	性別の%	96.01%	3.99%	100.00%

χ^2=16.50 p=0.00

その他		人数	%	有効%
有効	あてはまらない	1745	93.7	94.9
	あてはまる	93	5.0	5.1
	合計	1838	98.7	100
欠損値	無回答	6	0.3	
	不正回答	18	1.0	
	合計	24	1.3	
合計		1862	100	

その他

		あてはまらない	あてはまる	合計
女性	人数	788	49	837
	性別の%	94.15%	5.85%	100.00%
男性	人数	879	40	919
	性別の%	95.65%	4.35%	100.00%
合計	人数	1667	89	1756
	性別の%	94.93%	5.07%	100.00%

χ^2=2.05 p=0.152

Q15.以下の法律や本学の取り組みをご存知ですか。あてはまる番号に〇をつけて下さい。

男女共同参画社会という言葉		人数	%	有効%
有効	知っている	1659	89.1	90.4
	知らない	176	9.5	9.6
	合計	1835	98.5	100
欠損値	無回答	27	1.5	
合計		1862	100	

男女共同参画社会という言葉

		知っている	知らない	合計
女性	人数	771	65	836
	性別の%	92.22%	7.78%	100.00%
男性	人数	820	106	926
	性別の%	88.55%	11.45%	100.00%
合計	人数	1591	171	1762
	性別の%	90.30%	9.70%	100.00%

χ^2=6.76 p=0.009

男女共同参画社会基本法		人数	%	有効%
有効	知っている	1163	62.5	63.4
	知らない	670	36.0	36.6
	合計	1833	98.4	100
欠損値	無回答	29	1.6	
合計		1862	100	

男女共同参画社会基本法

		知っている	知らない	合計
女性	人数	522	314	836
	性別の%	62.44%	37.56%	100.00%
男性	人数	594	330	924
	性別の%	64.29%	35.71%	100.00%
合計	人数	1116	644	1760
	性別の%	63.41%	36.59%	100.00%

χ^2=0.64 p=0.422

推進宣言		人数	%	有効%
有効	知っている	763	41.0	41.6
	知らない	1070	57.5	58.4
	合計	1833	98.4	100
欠損値	無回答	28	1.5	
	不正回答	1	0.1	
	合計	29	1.6	
合計		1862	100	

推進宣言

		知っている	知らない	合計
女性	人数	364	471	835
	性別の%	43.59%	56.41%	100.00%
男性	人数	375	550	925
	性別の%	40.54%	59.46%	100.00%
合計	人数	739	1021	1760
	性別の%	41.99%	58.01%	100.00%

χ^2=1.68 p=0.195

推進室の設置		人数	%	有効%
有効	知っている	901	48.4	49.2
	知らない	929	49.9	50.8
	合計	1830	98.3	100
欠損値	無回答	31	1.7	
	不正回答	1	0.1	
	合計	32	1.7	
合計		1862	100	

推進室の設置

		知っている	知らない	合計
女性	人数	438	396	834
	性別の%	52.52%	47.48%	100.00%
男性	人数	433	491	924
	性別の%	46.86%	53.14%	100.00%
合計	人数	871	887	1758
	性別の%	49.54%	50.46%	100.00%

χ^2=5.61 p=0.018

山形大学男女共同参画基本計画		人数	%	有効%
有効	知っている	616	33.1	33.8
	知らない	1208	64.9	66.2
	合計	1824	98.0	100
欠損値	無回答	38	2.0	
合計		1862	100	

山形大学男女共同参画基本計画

		知っている	知らない	合計
女性	人数	280	550	830
	性別の%	33.73%	66.27%	100.00%
男性	人数	312	610	922
	性別の%	33.84%	66.16%	100.00%
合計	人数	592	1160	1752
	性別の%	33.79%	66.21%	100.00%

χ^2=0.00 p=0.963

女性研究者支援モデル育成の採択		人数	%	有効%
有効	知っている	459	24.7	25.1
	知らない	1370	73.6	74.9
	合計	1829	98.2	100
欠損値	無回答	33	1.8	
合計		1862	100	

女性研究者支援モデル育成の採択

		知っている	知らない	合計
女性	人数	208	626	834
	性別の%	24.94%	75.06%	100.00%
男性	人数	238	686	924
	性別の%	25.76%	74.24%	100.00%
合計	人数	446	1312	1758
	性別の%	25.37%	74.63%	100.00%

χ^2=0.16 p=0.694

託児サポーター制度		人数	%	有効%
有効	知っている	628	33.7	34.3
	知らない	1201	64.5	65.7
	合計	1829	98.2	100
欠損値	無回答	33	1.8	
合計		1862	100	

託児サポーター制度

		知っている	知らない	合計
女性	人数	322	513	835
	性別の%	38.56%	61.44%	100.00%
男性	人数	282	640	922
	性別の%	30.59%	69.41%	100.00%
合計	人数	604	1153	1757
	性別の%	34.38%	65.62%	100.00%

χ^2=12.36 p=0.00

女性研究者と学長学部長の懇談会		人数	%	有効%
有効	知っている	477	25.6	26.1
	知らない	1352	72.6	73.9
	合計	1829	98.2	100
欠損値	無回答	33	1.8	
合計		1862	100	

女性研究者と学長学部長の懇談会

		知っている	知らない	合計
女性	人数	197	637	834
	性別の%	23.62%	76.38%	100.00%
男性	人数	262	661	923
	性別の%	28.39%	71.61%	100.00%
合計	人数	459	1298	1757
	性別の%	26.12%	73.88%	100.00%

χ^2=5.15 p=0.023

男女共同参画シンポジウムの開催		人数	%	有効%
有効	知っている	691	37.1	37.8
	知らない	1137	61.1	62.2
	合計	1828	98.2	100
欠損値	無回答	34	1.8	
合計		1862	100	

男女共同参画シンポジウムの開催

		知っている	知らない	合計
女性	人数	299	535	834
	性別の%	35.85%	64.15%	100.00%
男性	人数	370	553	923
	性別の%	40.09%	59.91%	100.00%
合計	人数	669	1088	1757
	性別の%	38.08%	61.92%	100.00%

χ^2=3.33 p=0.068

巡回聞き取り相談		人数	%	有効%
有効	知っている	251	13.5	13.7
	知らない	1575	84.6	86.3
	合計	1826	98.1	100
欠損値	無回答	35	1.9	
	不正回答	1	0.1	
	合計	36	1.9	
合計		1862	100	

巡回聞き取り相談

		知っている	知らない	合計
女性	人数	112	720	832
	性別の%	13.46%	86.54%	100.00%
男性	人数	127	796	923
	性別の%	13.76%	86.24%	100.00%
合計	人数	239	1516	1755
	性別の%	13.62%	86.38%	100.00%

χ^2=0.03 p=0.856

ニューズレター		人数	%	有効%
有効	知っている	503	27.0	27.5
	知らない	1325	71.2	72.5
	合計	1828	98.2	100
欠損値	無回答	34	1.8	
合計		1862	100	

ニューズレター

		知っている	知らない	合計
女性	人数	208	627	835
	性別の%	24.91%	75.09%	100.00%
男性	人数	276	646	922
	性別の%	29.93%	70.07%	100.00%
合計	人数	484	1273	1757
	性別の%	27.55%	72.45%	100.00%

χ^2=5.54 p=0.019

メールマガジン		人数	%	有効%
有効	知っている	285	15.3	15.6
	知らない	1544	82.9	84.4
	合計	1829	98.2	100
欠損値	無回答	33	1.8	
合計		1862	100	

メールマガジン

		知っている	知らない	合計
女性	人数	122	713	835
	性別の%	14.61%	85.39%	100.00%
男性	人数	148	774	922
	性別の%	16.05%	83.95%	100.00%
合計	人数	270	1487	1757
	性別の%	15.37%	84.63%	100.00%

χ^2=0.70 p=0.403

メーリングリスト		人数	%	有効%
有効	知っている	197	10.6	10.8
	知らない	1631	87.6	89.2
	合計	1828	98.2	100
欠損値	無回答	34	1.8	
合計		1862	100	

メーリングリスト

		知っている	知らない	合計
女性	人数	79	756	835
	性別の%	9.46%	90.54%	100.00%
男性	人数	107	815	922
	性別の%	11.61%	88.39%	100.00%
合計	人数	186	1571	1757
	性別の%	10.59%	89.41%	100.00%

χ^2=2.13 p=0.145

Q16.次のようなことを感じたことがありますか。

忙しすぎる		人数	%	有効%
有効	よくある	764	41	41.5
	ときどきある	755	40.5	41.0
	あまりない	287	15.4	15.6
	まったくない	35	1.9	1.9
	合計	1841	98.9	100
欠損値	無回答	21	1.1	
合計		1862	100	

忙しすぎる

		よくある	ときどきある	あまりない	まったくない	合計
女性	人数	401	316	113	12	842
	性別の%	47.62%	37.53%	13.42%	1.43%	100.00%
男性	人数	333	413	160	20	926
	性別の%	35.96%	44.60%	17.28%	2.16%	100.00%
合計	人数	734	729	273	32	1768
	性別の%	41.52%	41.23%	15.44%	1.81%	100.00%

χ^2=25.36 p=0.00

出勤・通学したくない		人数	%	有効%
有効	よくある	429	23	23.3
	ときどきある	682	36.6	37.1
	あまりない	557	29.9	30.3
	まったくない	172	9.2	9.3
	合計	1840	98.8	100
欠損値	無回答	22	1.2	
合計		1862	100	

出勤・通学したくない

		よくある	ときどきある	あまりない	まったくない	合計
女性	人数	244	329	209	61	843
	性別の%	28.94%	39.03%	24.79%	7.24%	100.00%
男性	人数	171	320	330	105	926
	性別の%	18.47%	34.56%	35.64%	11.34%	100.00%
合計	人数	415	649	539	166	1769
	性別の%	23.46%	36.69%	30.47%	9.38%	100.00%

χ^2=48.00 p=0.00

今の仕事・就学を辞めたい		人数	%	有効%
有効	よくある	308	16.5	16.8
	ときどきある	514	27.6	28.0
	あまりない	643	34.5	35.0
	まったくない	373	20	20.3
	合計	1838	98.7	100
欠損値	無回答	23	1.2	
	不正回答	1	0.1	
	合計	24	1.3	
合計		1862	100	

今の仕事・就学を辞めたい

		よくある	ときどきある	あまりない	まったくない	合計
女性	人数	206	287	241	108	842
	性別の%	24.47%	34.09%	28.62%	12.83%	100.00%
男性	人数	94	205	373	254	926
	性別の%	10.15%	22.14%	40.28%	27.43%	100.00%
合計	人数	300	492	614	362	1768
	性別の%	16.97%	27.83%	34.73%	20.48%	100.00%

χ^2=139.07 p=0.00

会議等で発言しにくい		人数	%	有効%
有効	よくある	263	14.1	14.5
	ときどきある	583	31.3	32.0
	あまりない	761	40.9	41.8
	まったくない	213	11.4	11.7
	合計	1820	97.7	100
欠損値	無回答	40	2.1	
	不正回答	2	0.1	
	合計	42	2.3	
合計		1862	100	

会議等で発言しにくい

		よくある	ときどきある	あまりない	まったくない	合計
女性	人数	142	304	314	66	826
	性別の%	17.19%	36.80%	38.01%	7.99%	100.00%
男性	人数	111	259	413	141	924
	性別の%	12.01%	28.03%	44.70%	15.26%	100.00%
合計	人数	253	563	727	207	1750
	性別の%	14.46%	32.17%	41.54%	11.83%	100.00%

χ^2=42.70 p=0.00

性別によって異なる処遇がある		人数	%	有効%
有効	よくある	138	7.4	7.5
	ときどきある	460	24.7	25.1
	あまりない	927	49.8	50.7
	まったくない	305	16.4	16.7
	合計	1830	98.3	100
欠損値	無回答	32	1.7	
合計		1862	100	

性別によって異なる処遇がある

		よくある	ときどきある	あまりない	まったくない	合計
女性	人数	72	223	442	95	832
	性別の%	8.65%	26.80%	53.13%	11.42%	100.00%
男性	人数	61	219	445	202	927
	性別の%	6.58%	23.62%	48.00%	21.79%	100.00%
合計	人数	133	442	887	297	1759
	性別の%	7.56%	25.13%	50.43%	16.88%	100.00%

χ^2=34.48 p=0.00

職場・学校に何でも話せる人がいない		人数	%	有効%
有効	よくある	166	8.9	9.0
	ときどきある	424	22.8	23.1
	あまりない	893	48	48.6
	まったくない	354	19	19.3
	合計	1837	98.7	100
欠損値	無回答	25	1.3	
合計		1862	100	

職場・学校に何でも話せる人がいない　合計

		よくある	ときどきある	あまりない	まったくない	合計
女性	人数	79	206	418	139	842
	性別の%	9.38%	24.47%	49.64%	16.51%	100.00%
男性	人数	82	203	438	202	925
	性別の%	8.86%	21.95%	47.35%	21.84%	100.00%
合計	人数	161	409	856	341	1767
	性別の%	9.11%	23.15%	48.44%	19.30%	100.00%

χ^2=8.30 p=0.040

Q17.年齢（10月1日現在）と性別をお答え下さい。

世代		人数	%	有効%
有効	24歳以下	515	27.7	28.2
	25-29歳	286	15.4	15.6
	30-34歳	215	11.5	11.8
	35-39歳	183	9.8	10.0
	40-44歳	160	8.6	8.8
	45-49歳	132	7.1	7.2
	50-54歳	142	7.6	7.8
	55-59歳	128	6.9	7.0
	60歳以上	67	3.6	3.7
	合計	1828	98.2	100
欠損値	無回答	34	1.8	
合計		1862	100	

世代

		24歳以下	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60歳以上	合計
女性	人数	175	167	114	103	80	65	59	64	12	839
	性別の%	20.90%	19.90%	13.60%	12.30%	9.50%	7.70%	7.00%	7.60%	1.40%	100.00%
男性	人数	315	112	88	67	79	67	82	62	55	927
	性別の%	34.00%	12.10%	9.50%	7.20%	8.50%	7.20%	8.80%	6.70%	5.90%	100.00%
合計	人数	490	279	202	170	159	132	141	126	67	1766
	性別の%	27.70%	15.80%	11.40%	9.60%	9.00%	7.50%	8.00%	7.10%	3.80%	100.00%

χ^2=89.07 p=0.00

性別		人数	%	有効%
有効	女性	844	45.3	47.6
	男性	929	49.9	52.4
	合計	1773	95.2	100
欠損値	無回答	89	4.8	
合計		1862	100	

Q18.家族構成についてうかがいます。

（1）配偶者・パートナーの有無や同居・別居について、あてはまる番号に○をつけて下さい。

配偶者・同居の有無		人数	%	有効%
有効	いない（未婚）	891	47.9	48.8
	いない（離死別）	51	2.7	2.8
	いる（同居）	781	41.9	42.8
	いる（別居）	102	5.5	5.6
	合計	1825	98.0	100
欠損値	無回答	35	1.9	
	不正回答	2	0.1	
	合計	37	2.0	
合計		1862	100	

配偶者・同居の有無

		いない未婚	いない離死別	いる同居	いる別居	合計
女性	人数	394	35	366	39	834
	性別の%	47.20%	4.20%	43.90%	4.70%	100.00%
男性	人数	457	15	389	62	923
	性別の%	49.50%	1.60%	42.10%	6.70%	100.00%
合計	人数	851	50	755	101	1757
	性別の%	48.40%	2.80%	43.00%	5.70%	100.00%

χ^2=14.13 p=0.003

（2）配偶者・パートナーがいる方にお聞きします。配偶者・パートナーは現在、収入を伴う仕事をしていらっしゃいますか。

配偶者の就業形態		人数	%	有効%
有効	家事専業・学生等	227	12.2	25.7
	常勤・フルタイム	529	28.4	60.0
	非常勤・パートタイム	126	6.8	14.3
	合計	882	47.4	100
欠損値	無回答	36	1.9	
	不正回答	3	0.2	
	非該当	941	50.5	
	合計	980	52.6	
合計		1862	100	

配偶者の就業形態

		家事専業・学生等	常勤・フルタイム	非常勤・パートタイム	合計
女性	人数	20	360	24	404
	性別の%	5.00%	89.10%	5.90%	100.00%
男性	人数	198	151	100	449
	性別の%	44.10%	33.60%	22.30%	100.00%
合計	人数	218	511	124	853
	性別の%	25.60%	59.90%	14.50%	100.00%

χ^2=275.80 p=0.00

(3)配偶者・パートナーが現在、収入を伴う仕事をしていらっしゃる方は、その職種をお答え下さい。

配偶者の職種		人数	%	有効%
有効	会社員(研究職以外)	301	16.2	46.2
	公務員(研究職以外)	166	8.9	25.5
	研究職(民間企業)	7	0.4	1.1
	研究職(大学・公的機関)	43	2.3	6.6
	自営業・家族従業者・農業等	49	2.6	7.5
	その他	85	4.6	13.1
	合計	651	35.0	100
欠損値	無回答	43	2.3	
	非該当	1168	62.7	
	合計	1211	65.0	
合計		1862	100	

配偶者の職種

		会社員(研究職以外)	公務員(研究職以外)	研究職(民間企業)	研究職(大学・公的機関)	自営業・家族従業者・農業等	その他	合計
女性	人数	203	98	3	23	31	23	381
	性別の%	53.30%	25.70%	0.80%	6.00%	8.10%	6.00%	100.00%
男性	人数	89	65	3	18	15	59	249
	性別の%	35.70%	26.10%	1.20%	7.20%	6.00%	23.70%	100.00%
合計	人数	292	163	6	41	46	82	630
	性別の%	46.30%	25.90%	1.00%	6.50%	7.30%	13.00%	100.00%

χ^2=47.60 p=0.00　　2 セル (16.7%) は期待度数が 5 未満

Q19.あなたは、家事や育児・介護を平日にどのくらい行いますか。

家事時間(分)		人数	%	有効%
有効	0	122	6.6	8.0
	0.5～1	2	0.1	0.1
	2～10	41	2.2	2.7
	11～30	289	15.5	19.0
	31～60	417	22.4	27.5
	61～90	55	3.0	3.6
	91～120	248	13.3	16.3
	121～150	38	2.0	2.5
	151～180	141	7.6	9.3
	181～210	17	0.9	1.1
	240	63	3.4	4.1
	270	7	0.4	0.5
	300	35	1.9	2.3
	330	1	0.1	0.1
	360	14	0.8	0.9
	390	1	0.1	0.1
	420	10	0.5	0.7
	450	2	0.1	0.1
	480	6	0.3	0.4
	540	3	0.2	0.2
	600	4	0.2	0.3
	720	2	0.1	0.1
	900	1	0.1	0.1
	合計	1519	81.6	100
欠損値	無回答	336	18.0	
	不正回答	6	.3	
	非該当	1	.1	
	合計	343	18.4	
合計		1862	100	

育児時間(分)		人数	%	有効%
有効	0	44	2.4	11.7
	0.5～1	1	0.1	0.3
	2～10	7	0.4	1.9
	11～30	62	3.3	16.5
	31～60	78	4.2	20.8
	61～90	4	0.2	1.1
	91～120	65	3.5	17.3
	121～150	11	0.6	2.9
	151～180	35	1.9	9.3
	181～210	1	0.1	0.3
	240	24	1.3	6.4
	270	1	0.1	0.3
	300	18	1.0	4.8
	330	1	0.1	0.3
	360	8	0.4	2.1
	390	1	0.1	0.3
	420	6	0.3	1.6
	480	3	0.2	0.8
	540	1	0.1	0.3
	600	1	0.1	0.3
	720	1	0.1	0.3
	840	1	0.1	0.3
	1200	1	0.1	0.3
	合計	375	20.1	100
欠損値	無回答	166	8.9	
	不正回答	20	1.1	
	非該当	1301	69.9	
	合計	1487	79.9	
合計		1862	100	

介護時間(分)		人数	%	有効%
有効	0.0	159	8.5	69.7
	2.0	2	0.1	0.9
	4.3	1	0.1	0.4
	15.0	1	0.1	0.4
	20.0	2	0.1	0.9
	30.0	17	0.9	7.5
	40.0	1	0.1	0.4
	60.0	26	1.4	11.4
	88.0	1	0.1	0.4
	90.0	1	0.1	0.4
	99.0	1	0.1	0.4
	120.0	11	0.6	4.8
	150.0	2	0.1	0.9
	180.0	1	0.1	0.4
	240.0	1	0.1	0.4
	300.0	1	0.1	0.4
	合計	228	12.2	100.0
欠損値	無回答	238	12.8	
	不正回答	20	1.1	
	非該当	1376	73.9	
	合計	1634	87.8	
合計		1862	100	

性別		家事時間	育児時間	介護時間
女性	平均値	143.8	181.6	30.7
	人数	711	181	109
	標準偏差	106.6	153.7	52.7
男性	平均値	56.9	64.2	12.4
	人数	753	182	112
	標準偏差	62.3	72.2	29.6
合計	平均値	99.1	122.7	21.4
	人数	1464	363	221
	標準偏差	97.0	133.4	43.5
	t=	18.90	9.31	3.16
	p=	0.00	0.00	0.002

Q20.お子様の有無や希望についてうかがいます。
(1)あなたは、お子様をお持ちですか。

子どもの有無		人数	%	有効%
有効	無	1069	57.4	59.5
	有	729	39.2	40.5
	合計	1798	96.6	100.0
欠損値	無回答	64	3.4	
合計		1862	100.0	

子どもの有無

		無	有	合計
女性	人数	487	331	818
	性別の%	59.50%	40.50%	100.00%
男性	人数	532	379	911
	性別の%	58.40%	41.60%	100.00%
合計	人数	1019	710	1729
	性別の%	58.90%	41.10%	100.00%

χ^2=0.23 p=0.631

(2)お子様がいない方は、将来持つ希望の有無と、理想の子ども数を記入下さい。

子ども希望の有無(子どもがいない人)		人数	%	有効%
有効	無	209	11.2	19.8
	有	846	45.4	80.2
	合計	1055	56.7	100
欠損値	無回答	77	4.1	
	不正回答	1	0.1	
	非該当	729	39.2	
	合計	807	43.3	
合計		1862	100	

子ども希望の有無(子どもがいない人)

		無	有	合計
女性	人数	82	397	479
	性別の%	17.10%	82.90%	100.00%
男性	人数	120	407	527
	性別の%	22.80%	77.20%	100.00%
合計	人数	202	804	1006
	性別の%	20.10%	79.90%	100.00%

χ^2=4.99 p=0.025

理想子ども数(子どもがいない人)		人数	%	有効%
有効	0.0	209	11.2	20.4
	1.0	32	1.7	3.1
	1.5	8	0.4	0.8
	2.0	478	25.7	46.6
	2.5	17	0.9	1.7
	3.0	260	14.0	25.3
	3.5	1	0.1	0.1
	4.0	11	0.6	1.1
	5.0	6	0.3	0.6
	8～15	4	2.1	.4
	合計	1026	55.1	100
欠損値	無回答	105	5.6	
	不正回答	2	0.1	
	非該当	729	39.2	
	合計	836	44.9	
合計		1862	100	

(3)お子様がいる方は、年齢別のお子様の人数を記入下さい。また、理想の子ども数を記入下さい。

性別		理想子の数／子無	0～2歳子ども数	3歳～小学校就学前子ども数	小学生子ども数	中学生子ども数	高校生子ども数	それ以外の子ども数	理想子の数／子有
女性	平均値	1.95	0.17	0.20	0.35	0.16	0.22	0.83	2.71
	人数	464	330	330	330	330	330	329	213
	標準偏差	1.22	0.39	0.44	0.67	0.41	0.47	1.04	0.61
男性	平均値	1.82	0.17	0.20	0.38	0.15	0.19	0.92	2.71
	人数	516	377	377	377	377	377	376	246
	標準偏差	1.24	0.42	0.46	0.65	0.37	0.44	1.07	0.66
合計	平均値	1.88	0.17	0.20	0.37	0.16	0.20	0.88	2.71
	人数	980	707	707	707	707	707	705	459
	標準偏差	1.23	0.41	0.45	0.65	0.39	0.45	1.06	0.64
	t=	1.61	0.01	−0.06	−0.45	0.32	0.86	−1.16	−0.04
	p=	0.107	0.992	0.954	0.654	0.749	0.388	0.245	0.967

0～2歳子ども数		人数	%	有効%
有効	0	606	32.5	83.5
	1	111	6.0	15.3
	2	9	0.5	1.2
	合計	726	39.0	100
欠損値	無回答	67	3.6	
	非該当	1069	57.4	
	合計	1136	61.0	
合計		1862	100	

3歳～小学校就		人数	%	有効%
有効	0	594	31.9	81.8
	1	119	6.4	16.4
	2	12	0.6	1.7
	3	1	0.1	0.1
	合計	726	39.0	100
欠損値	無回答	67	3.6	
	非該当	1069	57.4	
	合計	1136	61.0	
合計		1862	100	

小学生子ども数		人数	%	有効%
有効	0	521	28.0	71.8
	1	147	7.9	20.2
	2	51	2.7	7.0
	3	7	0.4	1.0
	合計	726	39.0	100
欠損値	無回答	67	3.6	
	非該当	1069	57.4	
	合計	1136	61.0	
合計		1862	100	

中学生子ども数		人数	%	有効%
有効	0	622	33.4	85.7
	1	99	5.3	13.6
	2	4	0.2	.6
	3	1	0.1	.1
	合計	726	39.0	100
欠損値	無回答0	67	3.6	
	非該当0	1069	57.4	
	合計	1136	61.0	
合計		1862	100	

高校生子ども数		人数	%	有効%
有効	0	601	32.3	82.8
	1	109	5.9	15.0
	2	16	0.9	2.2
	合計	726	39.0	100
欠損値	無回答	67	3.6	
	非該当	1069	57.4	
	合計	1136	61.0	
合計		1862	100	

それ以外の子ども数		人数	%	有効%
有効	0	395	21.2	54.6
	1	85	4.6	11.7
	2	187	10.0	25.8
	3	54	2.9	7.5
	4	3	0.2	.4
	合計	724	38.9	100
欠損値	無回答	67	3.6	
	不正回答	2	0.1	
	非該当	1069	57.4	
	合計	1138	61.1	
合計		1862	100	

理想子ども数(子有り)		人数	%	有効%
有効	1.0	8	0.4	1.7
	1.5	1	0.1	0.2
	2.0	144	7.7	30.8
	2.5	13	0.7	2.8
	3.0	270	14.5	57.7
	3.5	6	0.3	1.3
	4.0	20	1.1	4.3
	5.0	6	0.3	1.3
	合計	468	25.1	100
欠損値	無回答	324	17.4	
	不正回答	1	0.1	
	非該当	1069	57.4	
	合計	1394	74.9	
合計		1862	100	

Q21. お子様の病気で仕事・大学を休んだ日数についてうかがいます。

（1）お子様の病気で休んだことは、昨年（1月から12月）年に何日くらいありましたか。

子の病気で休んだ日数		人数	%	有効%
有効	0	171	9.2	47.4
	0.5	5	0.3	1.4
	1	43	2.3	11.9
	1.5	2	0.1	0.6
	2	42	2.3	11.6
	2.5	3	0.2	0.8
	3	22	1.2	6.1
	4	6	0.3	1.7
	5	25	1.3	6.9
	6	1	0.1	0.3
	7	8	0.4	2.2
	8	2	0.1	0.6
	10	20	1.1	5.5
	14	2	0.1	0.6
	15	3	0.2	0.8
	20	3	0.2	0.8
	22.5	1	0.1	0.3
	25	2	0.1	0.6
	合計	361	19.4	100
欠損値	無回答	99	5.3	
	非該当	1402	75.3	
	合計	1501	80.6	
合計		1862	100	

性別		子の病気で休んだ日数	子の病気に必要な休日数
女性	平均値	3.51	8.29
	人数	170	78
	標準偏差	4.8	7.7
男性	平均値	1.10	5.69
	人数	181	48
	標準偏差	2.0	3.6
合計	平均値	2.27	7.30
	人数	351	126
	標準偏差	3.9	6.5
	t=	6.03	2.58
	p=	0.00	0.011

（2）休んだ日数は十分でしたか。あてはまる番号に○をつけて下さい。

休日数は十分か		人数	%	有効%
有効	十分だった	136	7.3	47.6
	十分でなかった	150	8.1	52.4
	合計	286	15.4	100
欠損値	無回答	167	9.0	
	非該当	1409	75.7	
	合計	1576	84.6	
合計		1862	100	

		休日数は十分か		
		十分だった	十分でなかった	合計
女性	人数	53	91	144
	性別の%	36.80%	63.20%	100.00%
男性	人数	78	55	133
	性別の%	58.60%	41.40%	100.00%
合計	人数	131	146	277
	性別の%	47.30%	52.70%	100.00%

χ^2=13.23　p=0.00

（3）十分でない場合、何日位休みが必要だと思いましたか。また、休めなかった理由があれば、具体的に記入下さい。

子の病気に必要な休日数		人数	%	有効%
有効	1	2	0.1	1.6
	2	12	0.6	9.3
	2.5	2	0.1	1.6
	3	28	1.5	21.7
	3.5	1	0.1	0.8
	4	4	0.2	3.1
	5	24	1.3	18.6
	6	1	0.1	0.8
	7	16	0.9	12.4
	8.5	2	0.1	1.6
	10	17	0.9	13.2
	13	1	0.1	0.8
	14	3	0.2	2.3
	15	5	0.3	3.9
	20	6	0.3	4.7
	30	4	0.2	3.1
	40	1	0.1	0.8
	合計	129	6.9	100
欠損値	無回答	187	10.0	
	不正回答	2	0.1	
	非該当	1544	82.9	
	合計	1733	93.1	
合計		1862	100	

Q22.お子様が病気のとき、どのようなサポートがあればよいと思いますか。

子の病気に必要なサポート		人数	%	有効%
有効	病児・病後児保育	76	4.1	21.4
	業務の代替者	114	6.1	32.1
	休める職場の雰囲気	159	8.5	44.8
	その他	6	0.3	1.7
	合計	355	19.1	100
欠損値	無回答	92	4.9	
	不正回答	13	0.7	
	非該当	1402	75.3	
	合計	1507	80.9	
合計		1862	100	

子の病気に必要なサポート

		病児・病後児保育	業務の代替者	休める職場の雰囲気	その他	合計
女性	人数	37	50	79	1	167
	性別の%	22.20%	29.90%	47.30%	0.60%	100.00%
男性	人数	38	60	72	5	175
	性別の%	21.70%	34.30%	41.10%	2.90%	100.00%
合計	人数	75	110	151	6	342
	性別の%	21.90%	32.20%	44.20%	1.80%	100.00%

χ^2=3.73 p=0.292　　2 セル (25.0%) は期待度数が 5 未満

Q23.現在、お子様の昼間、またあなたが残業する場合に、育児を行っているのは主にどなたですか。

配偶者(昼)		人数	%	有効%
有効	該当無し	236	12.7	65.9
	該当	122	6.6	34.1
	合計	358	19.2	100
欠損値	無回答	101	5.4	
	不正回答	1	0.1	
	非該当	1402	75.3	
	合計	1504	80.8	
合計		1862	100	

配偶者(昼)

		該当しない	該当	合計
女性	人数	161	6	167
	性別の%	96.40%	3.60%	100.00%
男性	人数	65	113	178
	性別の%	36.50%	63.50%	100.00%
合計	人数	226	119	345
	性別の%	65.50%	34.50%	100.00%

χ^2=136.78 p=0.00

祖父母(昼)		人数	%	有効%
有効	該当無し	275	14.8	76.8
	該当	83	4.5	23.2
	合計	358	19.2	100
欠損値	無回答	101	5.4	
	不正回答	1	0.1	
	非該当	1402	75.3	
	合計	1504	80.8	
合計		1862	100	

祖父母(昼)

		該当しない	該当	合計
女性	人数	116	51	167
	性別の%	69.50%	30.50%	100.00%
男性	人数	151	27	178
	性別の%	84.80%	15.20%	100.00%
合計	人数	267	78	345
	性別の%	77.40%	22.60%	100.00%

χ^2=11.63 p=0.001

保育所(昼)		人数	%	有効%
有効	該当無し	266	14.3	74.3
	該当	92	4.9	25.7
	合計	358	19.2	100
欠損値	無回答	101	5.4	
	不正回答	1	0.1	
	非該当	1402	75.3	
	合計	1504	80.8	
合計		1862	100	

保育所(昼)

		該当しない	該当	合計
女性	人数	103	64	167
	性別の%	61.7%	38.3%	100.0%
男性	人数	155	23	178
	性別の%	87.1%	12.9%	100.0%
合計	人数	258	87	345
	性別の%	74.8%	25.2%	100.0%

χ^2=29.48 p=0.00

幼稚園(昼)		人数	%	有効%
有効	該当無し	324	17.4	90.5
	該当	34	1.8	9.5
	合計	358	19.2	100
欠損値	無回答	101	5.4	
	不正回答	1	0.1	
	非該当	1402	75.3	
	合計	1504	80.8	
合計		1862	100	

幼稚園(昼)

		該当しない	該当	合計
女性	人数	148	19	167
	性別の%	88.60%	11.40%	100.00%
男性	人数	164	14	178
	性別の%	92.10%	7.90%	100.00%
合計	人数	312	33	345
	性別の%	90.40%	9.60%	100.00%

χ^2=1.23 p=0.268

学童保育(昼)		人数	%	有効%
有効	該当無し	316	17	88.3
	該当	42	2.3	11.7
	合計	358	19.2	100
欠損値	無回答	101	5.4	
	不正回答	1	0.1	
	非該当	1402	75.3	
	合計	1504	80.8	
合計		1862	100	

学童保育(昼)

		該当しない	該当	合計
女性	人数	141	26	167
	性別の%	84.40%	15.60%	100.00%
男性	人数	163	15	178
	性別の%	91.60%	8.40%	100.00%
合計	人数	304	41	345
	性別の%	88.10%	11.90%	100.00%

χ^2=4.20 p=0.04

自己管理(昼)		人数	%	有効%
有効	該当無し	327	17.6	91.3
	該当	31	1.7	8.7
	合計	358	19.2	100
欠損値	無回答	101	5.4	
	不正回答	1	0.1	
	非該当	1402	75.3	
	合計	1504	80.8	
合計		1862	100	

自己管理(昼)

		該当しない	該当	合計
女性	人数	146	21	167
	性別の%	87.40%	12.60%	100.00%
男性	人数	168	10	178
	性別の%	94.40%	5.60%	100.00%
合計	人数	314	31	345
	性別の%	91.00%	9.00%	100.00%

χ^2=5.10 p=0.024

その他(昼)		人数	%	有効%
有効	該当無し	349	18.7	97.5
	該当	9	0.5	2.5
	合計	358	19.2	100
欠損値	無回答	101	5.4	
	不正回答	1	0.1	
	非該当	1402	75.3	
	合計	1504	80.8	
合計		1862	100	

その他(昼)

		該当しない	該当	合計
女性	人数	159	8	167
	性別の%	95.20%	4.80%	100.00%
男性	人数	177	1	178
	性別の%	99.40%	0.60%	100.00%
合計	人数	336	9	345
	性別の%	97.40%	2.60%	100.00%

χ^2=6.06 p=0.014

配偶者(夜)		人数	%	有効%
有効	該当無し	152	8.2	42.8
	該当	203	10.9	57.2
	合計	355	19.1	100
欠損値	無回答	104	5.6	
	不正回答	1	0.1	
	非該当	1402	75.3	
	合計	1507	80.9	
合計		1862	100	

配偶者(夜)

		該当しない	該当	合計
女性	人数	118	48	166
	性別の%	71.10%	28.90%	100.00%
男性	人数	29	148	177
	性別の%	16.40%	83.60%	100.00%
合計	人数	147	196	343
	性別の%	42.90%	57.10%	100.00%

χ^2=104.66 p=0.00

祖父母(夜)		人数	%	有効%
有効	該当無し	248	13.3	69.9
	該当	107	5.7	30.1
	合計	355	19.1	100
欠損値	無回答	104	5.6	
	不正回答	1	0.1	
	非該当	1402	75.3	
	合計	1507	80.9	
合計		1862	100	

祖父母(夜)

		該当しない	該当	合計
女性	人数	86	80	166
	性別の%	51.80%	48.20%	100.00%
男性	人数	153	24	177
	性別の%	86.40%	13.60%	100.00%
合計	人数	239	104	343
	性別の%	69.70%	30.30%	100.00%

χ^2=48.63 p=0.00

保育所(夜)		人数	%	有効%
有効	該当無し	323	17.3	91
	該当	32	1.7	9
	合計	355	19.1	100
欠損値	無回答	104	5.6	
	不正回答	1	0.1	
	非該当	1402	75.3	
	合計	1507	80.9	
合計		1862	100	

保育所(夜)

		該当しない	該当	合計
女性	人数	138	28	166
	性別の%	83.10%	16.90%	100.00%
男性	人数	174	3	177
	性別の%	98.30%	1.70%	100.00%
合計	人数	312	31	343
	性別の%	91.00%	9.00%	100.00%

χ^2=23.99 p=0.00

幼稚園(夜)		人数	%	有効%
有効	該当無し	348	18.7	98
	該当	7	0.4	2
	合計	355	19.1	100
欠損値	無回答	104	5.6	
	不正回答	1	0.1	
	非該当	1402	75.3	
	合計	1507	80.9	
合計		1862	100	

幼稚園(夜)

		該当しない	該当	合計
女性	人数	160	6	166
	性別の%	96.40%	3.60%	100.00%
男性	人数	177	0	177
	性別の%	100.0%	0.00%	100.00%
合計	人数	337	6	343
	性別の%	98.30%	1.70%	100.00%

χ^2=6.51 p=0.011

学童保育（夜）		人数	%	有効%
有効	該当無し	339	18.2	95.5
	該当	16	0.9	4.5
	合計	355	19.1	100
欠損値	無回答	104	5.6	
	不正回答	1	0.1	
	非該当	1402	75.3	
	合計	1507	80.9	
合計		1862	100	

学童保育（夜）

		該当しない	該当	合計
女性	人数	154	12	166
	性別の％	92.80%	7.20%	100.00%
男性	人数	174	3	177
	性別の％	98.30%	1.70%	100.00%
合計	人数	328	15	343
	性別の％	95.60%	4.40%	100.00%

χ^2=6.27 p=0.012

自己管理（夜）		人数	%	有効%
有効	該当無し	324	17.4	91.3
	該当	31	1.7	8.7
	合計	355	19.1	100
欠損値	無回答	104	5.6	
	不正回答	1	0.1	
	非該当	1402	75.3	
	合計	1507	80.9	
合計		1862	100	

自己管理（夜）

		該当しない	該当	合計
女性	人数	142	24	166
	性別の％	85.50%	14.50%	100.00%
男性	人数	170	7	177
	性別の％	96.00%	4.00%	100.00%
合計	人数	312	31	343
	性別の％	91.00%	9.00%	100.00%

χ^2=11.49 p=0.001

その他（夜）		人数	%	有効%
有効	該当無し	342	18.4	96.3
	該当	13	0.7	3.7
	合計	355	19.1	100
欠損値	無回答	104	5.6	
	不正回答	1	0.1	
	非該当	1402	75.3	
	合計	1507	80.9	
合計		1862	100	

その他（夜）

		該当しない	該当	合計
女性	人数	160	6	166
	性別の％	96.40%	3.60%	100.00%
男性	人数	171	6	177
	性別の％	96.60%	3.40%	100.00%
合計	人数	331	12	343
	性別の％	96.50%	3.50%	100.00%

χ^2=0.013 p=0.91

Q24.子育てと仕事を両立させる上で、困難に感じることはありますか。

仕事に対して家族の理解が得にくい		人数	%	有効%
有効	該当無し	308	16.5	84.8
	該当	55	3.0	15.2
	合計	363	19.5	100
欠損値	無回答	97	5.2	
	非該当	1402	75.3	
	合計	1499	80.5	
合計		1862	100	

仕事に対して家族の理解が得にくい

		該当しない	該当	合計
女性	人数	151	21	172
	性別の％	87.80%	12.20%	100.00%
男性	人数	147	31	178
	性別の％	82.60%	17.40%	100.00%
合計	人数	298	52	350
	性別の％	85.10%	14.90%	100.00%

χ^2=1.87 p=0.171

職場で子育てに対する理解が得にくい		人数	%	有効%
有効	該当無し	296	15.9	81.5
	該当	67	3.6	18.5
	合計	363	19.5	100
欠損値	無回答	97	5.2	
	非該当	1402	75.3	
	合計	1499	80.5	
合計		1862	100	

職場で子育てに対する理解が得にくい

		該当しない	該当	合計
女性	人数	136	36	172
	性別の％	79.10%	20.90%	100.00%
男性	人数	149	29	178
	性別の％	83.70%	16.30%	100.00%
合計	人数	285	65	350
	性別の％	81.40%	18.60%	100.00%

χ^2=1.24 p=0.265

仕事が忙しく子供にかける時間が削られる		人数	%	有効%
有効	該当無し	140	7.5	38.6
	該当	223	12.0	61.4
	合計	363	19.5	100
欠損値	無回答	97	5.2	
	非該当	1402	75.3	
	合計	1499	80.5	
合計		1862	100	

仕事が忙しく子供にかける時間が削られる

		該当しない	該当	合計
女性	人数	63	109	172
	性別の％	36.60%	63.40%	100.00%
男性	人数	74	104	178
	性別の％	41.60%	58.40%	100.00%
合計	人数	137	213	350
	性別の％	39.10%	60.90%	100.00%

χ^2=0.90 p=0.343

早退等、勤務が不規則になる		人数	%	有効%
有効	該当無し	280	15	77.1
	該当	83	4.5	22.9
	合計	363	19.5	100
欠損値	無回答	97	5.2	
	非該当	1402	75.3	
	合計	1499	80.5	
合計		1862	100	

早退等、勤務が不規則になる

		該当しない	該当	合計
女性	人数	129	43	172
	性別の%	75.00%	25.00%	100.00%
男性	人数	141	37	178
	性別の%	79.20%	20.80%	100.00%
合計	人数	270	80	350
	性別の%	77.10%	22.90%	100.00%

χ^2=0.88 p=0.348

サポート体制が十分でない		人数	%	有効%
有効	該当無し	265	14.2	73
	該当	98	5.3	27
	合計	363	19.5	100
欠損値	無回答	97	5.2	
	非該当	1402	75.3	
	合計	1499	80.5	
合計		1862	100	

サポート体制が十分でない

		該当しない	該当	合計
女性	人数	121	51	172
	性別の%	70.30%	29.70%	100.00%
男性	人数	136	42	178
	性別の%	76.40%	23.60%	100.00%
合計	人数	257	93	350
	性別の%	73.40%	26.60%	100.00%

χ^2=1.64 p=0.20

疲労、睡眠不足、ストレスなど		人数	%	有効%
有効	該当無し	154	8.3	42.4
	該当	209	11.2	57.6
	合計	363	19.5	100
欠損値	無回答	97	5.2	
	非該当	1402	75.3	
	合計	1499	80.5	
合計		1862	100	

疲労、睡眠不足、ストレスなど

		該当しない	該当	合計
女性	人数	50	122	172
	性別の%	29.10%	70.90%	100.00%
男性	人数	101	77	178
	性別の%	56.70%	43.30%	100.00%
合計	人数	151	199	350
	性別の%	43.10%	56.90%	100.00%

χ^2=27.31 p=0.00

両立させようとすると不利益をこうむる		人数	%	有効%
有効	該当無し	292	15.7	80.4
	該当	71	3.8	19.6
	合計	363	19.5	100
欠損値	無回答	97	5.2	
	非該当	1402	75.3	
	合計	1499	80.5	
合計		1862	100	

両立させようとすると不利益をこうむる

		該当しない	該当	合計
女性	人数	145	27	172
	性別の%	84.30%	15.70%	100.00%
男性	人数	140	38	178
	性別の%	78.70%	21.30%	100.00%
合計	人数	285	65	350
	性別の%	81.40%	18.60%	100.00%

χ^2=1.85 p=0.174

悩みを相談する人がいない		人数	%	有効%
有効	該当無し	336	18	92.6
	該当	27	1.5	7.4
	合計	363	19.5	100
欠損値	無回答	97	5.2	
	非該当	1402	75.3	
	合計	1499	80.5	
合計		1862	100	

悩みを相談する人がいない

		該当しない	該当	合計
女性	人数	158	14	172
	性別の%	91.90%	8.10%	100.00%
男性	人数	168	10	178
	性別の%	94.40%	5.60%	100.00%
合計	人数	326	24	350
	性別の%	93.10%	6.90%	100.00%

χ^2=0.87 p=0.351

その他		人数	%	有効%
有効	該当無し	354	19	98.1
	該当	7	0.4	1.9
	合計	361	19.4	100
欠損値	無回答	99	5.3	
	非該当	1402	75.3	
	合計	1501	80.6	
合計		1862	100	

その他

		該当しない	該当	合計
女性	人数	170	2	172
	性別の%	98.80%	1.20%	100.00%
男性	人数	171	5	176
	性別の%	97.20%	2.80%	100.00%
合計	人数	341	7	348
	性別の%	98.00%	2.00%	100.00%

χ^2=1.24 p=0.265

資料3　先行調査

アルファベット順。2010年8月に入手できたもののみ。ホームページアクセス年月日は省略した。

① 女性研究者支援モデル育成採択機関の調査

秋田大学男女共同参画推進専門委員会，2007，『男女共同参画推進に関する意識調査報告書』，http://www.akita-u.ac.jp/honbu/danjyo/contents/1903%20report.pdf.

千葉大学両立支援企画室，2009，『千葉大学における両立支援ニーズ調査報告書』，http://www.gakuzyutsu.chiba-u.jp/common/pdf/invest_h20.pdf.

独立行政法人産業技術総合研究所，2006，「別紙　男女共同参画推進に関するアンケート調査結果」『産業技術総合研究所男女共同参画の推進策』:27-57，http://unit.aist.go.jp/gender/ci/data/2005survey-summarized.pdf.

独立行政法人森林総合研究所男女共同参画室，2009，『森林総合研究所における男女共同参画意識調査報告書』，独立行政法人森林総合研究所男女共同参画室.

岩手大学男女共同参画推進室，　2010，　『岩手大学男女共同参画に係るアンケート（平成21年11月）～結果概要～』，http://www.iwate-u.ac.jp/gender/katsudou/file/res_200911.pdf.

金沢大学男女共同参画推進委員会，2008，『金 沢 大 学男女共同参画に関する提言書－男女共同参画に関するアンケート調査の結果を踏まえて』，　http://www.adm.kanazawa-u.ac.jp/ad_jinji/danjo/teigensyo.pdf.

慶應義塾大学ワークライフバランス研究センター，2009，『慶應義塾大学教員のワークライフバランスと男女共同参画に関する調査』，http://www.wlb.keio.ac.jp/project/doc/H20research_WLB.pdf.

神戸大学男女共同参画推進室，2008，『神戸大学教職員の男女共同参画に関する意識調査報告書』，http://www.office.kobe-u.ac.jp/opge-kyodo-sankaku/data/pdf/ishikityousa080627.pdf.

国立大学法人熊本大学，2009，『「女性研究者支援モデル育成事業」に係る熊本大学男女共同参画意識調査』，http://gender.kumamoto-u.ac.jp/data/report20090323.pdf.

国立大学法人東京農工大学女性キャリア支援・開発センター，2008，『事業紹介／平成19年度活動報告』，国立大学法人東京農工大学女性キャリア支援・開発センター.

―，2009，『事業紹介／平成20年度活動報告』，国立大学法人東京農工大学女性キャリア支援・開発センター.

京都大学男女共同参画企画推進委員会，発行年不記載，n.d.，『「京都大学男女共同参画推進に関する意識・実態調査」報告書』，　http://geco.adm.kyoto-u.ac.jp/activity/chosa_zenbun.html#001.

九州大学高等研究機構女性研究者支援室，2008，『研究者養成のための支援ニーズ調査結果の概要』，http://sofre.kyushu-u.ac.jp/sofre_files/needs.pdf.

名古屋大学男女共同参画推進専門委員会・男女共同参画室，2009，「2008年度男女共同参画推進に関する部局アンケート結果」『名古屋大学における男女共同参画報告書2008年度』：120-126，名古屋大学男女共同参画推進専門委員会・男女共同参画室.

日本大学　研究委員会男女研究者共同参画専門部会 女性研究者支援推進ユニット，2008，『日本大学における男女共同参画に関する意識調査（2008年度）』，　http://www.nihon-u.ac.jp/research/careerway/ .

日本女子大学女性研究者マルチキャリアパス支援プロジェクト推進室，2008，『日本女子大学家政理学科・理学部卒業生にみる「マルチキャリアパスアンケート」結果報告書』，　http://mcm-www.jwu.ac.jp/~mcpweb/research/img/report.pdf.

岡山大学ダイバーシティ推進本部，公表年不明，　『岡山大学の男女共同参画推進に関するアンケート調査結果速報』，http://www.okayama-u.ac.jp/user/jinji/sannkakushitu/sankaku/sankaku.html.

大阪大学多様な人材活用推進委員会・女性研究者キャリア・デザインラボ，　2010，　『平成21年度大阪大学の常勤教員

の実態と意識に関するアンケートー大阪大学のワーク・ライフ・バランスをめざしてー調査結果報告書』，　大阪大学女性研究者キャリア・デザインラボ.

島根大学男女共同参画推進室，2009，『国立大学法人島根大学男女共同参画に関する意識調査アンケート集計結果』，http://www.ipc.shimane-u.ac.jp/gender/article/001/report.pdf.

静岡大学男女共同参画戦略ワーキンググループ，2008,『静岡大学における男女共同参画に関する意識・実態調査結果報告書』，http://www.shizuoka.ac.jp/sankaku/rinkpdf/kekkahoukoku200811.pdf.

東北大学男女共同参画委員会，2006，『男女共同参画委員会報告書　平成18年度』，http://www.bureau.tohoku.ac.jp/danjyo/houkokusyo/H18.pdf.

東京大学男女共同参画オフィス，2010，『東京大学女性研究者アンケート調査結果報告書』，http://kyodo-sankaku.u-tokyo.ac.jp/Office/WhitePaper/documents/QuestionnaireforFemaleResearchers.pdf.

東京大学大学院理学系研究科・理学部，2009，『理学系研究科男女共同参画アンケート集計結果』，http://www.s.u-tokyo.ac.jp/gai/sankaku.html.

東京医科歯科大学女性研究者支援室、2010，『研究室環境調査結果のご報告』，http://www.tmd.ac.jp/mri/ang/act/inquiry/20100315_00.pdf

筑波大学男女共同参画推進室，2009，『男女共同参画アンケート調査結果報告―ダイジェスト版―』，http://www.tsukuba.ac.jp/about/kyoudousankaku/pdf/anq_result.pdf.

早稲田大学男女共同参画推進室・女性研究者支援総合研究所，2008，『研究者養成のための男女平等プランに関する調査（5）男女共同参画推進に関する意識・実態調査2008年度教職員調査報告書』，早稲田大学男女共同参画推進室・女性研究者支援総合研究所.

山形大学男女共同参画推進準備室，2009，『男女共同参画に係るアンケート調査集計結果の概要』，http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/old/d-file/20090225.pdf.

山形大学男女共同参画推進室，2010，『平成 21 年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業「山形ワークライフバランス・イノベーション」第 2 部男女共同参画に係るアンケート結果報告書』，http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/newsletter/pdf/pdf20100331/dai2buanke-to.pdf/y21report2(full).pdf.

② 他調査・資料等

男女共同参画学協会連絡会，2008，『平成 19 年度「科学技術系専門職における男女共同参画実態の大規模調査」』，http://annex.jsap.or.jp/renrakukai/.

米澤彰純編，2007，「第 2 部大学教員からみた都市と大学「大学教員の生活実態に関する調査」から『都市と大学の連携・評価に関する政策研究－地方分権・規制緩和の時代を背景として－』93-231，平成 17-18 年度科学研究費補助金基盤研究（C）研究成果報告書，http://www.she.he.tohoku.ac.jp/yonezawa/TKP2.pdf.

原ひろ子編，1999,『女性研究者のキャリア形成 ： 研究環境調査のジェンダー分析から』，勁草書房.

加野芳正，1988,『アカデミック・ウーマン-女性学者の社会学-』，東信堂.

登谷美穂子・坂東晶子，1985,「研究者の活動量とライフサイクル」『科学』4 月号：244-249，岩波書店.

塩田庄兵衛編，1984,『婦人研究者のライフサイクル調査研究Ｖ“アンケートによる実態調査”の分析』，文部省科学研究費総合研究Ａ（広領域）研究成果報告書，立命館大学.

Northern California Higher Education Recruitment Consortium (HERC), 2010, “Resource Center > Relocation Resources”, http://www.norcalherc.org/site/730/res_dualcareer.cfm?site_id=730.

10、おわりに

これまで、今年度の「男女共同参画に係るアンケート調査」について、調査方法、回答者のプロフィール、ライフ、ワーク、ワークライフバランス、次世代研究者の育成、取り組みの周知度、自由記述など、調査結果をまとめてきた。

最後に、過去2年度に引き続き、「男女共同参画に係るアンケート調査」に多くの方々のご協力を頂いたことに感謝申し上げたい。

調査表作成の段階では、各部局の男女共同参画推進員の方からコメントを頂くことができ、昨年度調査から修正を行うことができた。また、他大学・機関において、同様の調査を行っているため、調査表・調査結果を郵送頂き、参考にさせて頂いた。

調査の実施段階では、特に各部局の総務担当の職員の方々にお世話になった。他業務でお忙しい中、全教職員・大学院生という大変多くの人への配布と回収に協力頂いた。

また、なにより貴重な時間を割き、調査に回答頂いた調査対象者の皆様に感謝申し上げたい。8ページにわたり、多くの調査項目があるため、回答に時間がかかる調査表であり、また過去2年度も同様の調査をしているため、回収率が大幅に下がることも予想された。また今年度は昨年度と違い大学院生も調査対象に含めているため、どのくらいの人にご協力いただく事ができるか不安な面もあったが、結果として合計1862人という大変多くの方から回答を頂いた。

平成21年度科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業は、来年度が3年目であり、事業最終年度となる。今回のアンケート結果を、来年度、また事業終了後の山形大学男女共同参画推進室の活動を考える際の資料としたい。　（男女共同参画推進室　調査担当　坂無淳）

平成22年度文部科学省科学技術振興調整費
「女性研究者支援モデル育成」事業
「山形ワークライフバランス・イノベーション」

第2部　平成22年度男女共同参画に係るアンケート結果報告書

2011年3月発行

発行　山形大学男女共同参画推進室
連絡先　〒990-8560 山形市小白川町1丁目4-12
Tel　023-628-4937,4938,4939　Fax:023-628-4014
URL　http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/
E-mail　danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp